

【歴史基礎文化学系】

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
6601001	系共通科目(日本史学)	講義	2-4	4	通年	水5	吉川 真司		歴史基礎文化学系1
6701001	系共通科目(東洋史学)	講義	2-4	4	通年	金2	高嶋 航		歴史基礎文化学系2
6801001	系共通科目(西南アジア史学)	講義	2-4	4	通年	水3	磯貝 健一		歴史基礎文化学系3
6901001	系共通科目(西洋史学)	講義	2-4	4	通年	水5	小山 哲		歴史基礎文化学系4
7001001	系共通科目(考古学)	講義	1-4	4	通年	火1	吉井 秀夫		歴史基礎文化学系5
6631003	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	月5	吉川 真司		歴史基礎文化学系6
6631009	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	火2	上島 享		歴史基礎文化学系7
6631002	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	火4	三宅 正浩		歴史基礎文化学系8
6631001	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	火2	谷川 穰		歴史基礎文化学系9
6631016	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	吉江 崇		歴史基礎文化学系10
6631017	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	吉江 崇		歴史基礎文化学系11
6631014	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	木3	熊谷 隆之		歴史基礎文化学系12
6631015	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	木3	熊谷 隆之		歴史基礎文化学系13
6631004	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	岩城 卓二		歴史基礎文化学系14
6631005	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	岩城 卓二		歴史基礎文化学系15
6631008	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	月3	岩崎 奈緒子		歴史基礎文化学系16
6631012	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	水2	高木 博志		歴史基礎文化学系17
6631013	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	水2	高木 博志		歴史基礎文化学系18
6631006	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	月3	福家 崇洋		歴史基礎文化学系19
6631007	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	月5	告井 幸男		歴史基礎文化学系20
6631019	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	火1	小原 嘉記		歴史基礎文化学系21
6631018	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	金4	鍛冶 宏介		歴史基礎文化学系22
6631010	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	小林 准士		歴史基礎文化学系23
6631011	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	金1	Breen John		歴史基礎文化学系24
6640002	日本史学	演習I	3-4	4	通年	水2	吉川 真司		歴史基礎文化学系25
6640003	日本史学	演習I	3-4	4	通年	火3	上島 享		歴史基礎文化学系26
6640001	日本史学	演習I	3-4	4	通年	水1	三宅 正浩		歴史基礎文化学系27
6640004	日本史学	演習I	3-4	4	通年	金2	谷川 穰		歴史基礎文化学系28
6642001	日本史学	演習II	4	4	通年	木1	吉川,谷川,上島,三宅		歴史基礎文化学系29
6646001	日本史学	基礎演習	2-4	4	通年	木5	吉川,谷川,上島,三宅		歴史基礎文化学系30
6650001	日本史学	講読	2-4	4	通年	月4	笹川 尚紀		歴史基礎文化学系31
6650002	日本史学	講読	2-4	4	通年	月1	木土 博成		歴史基礎文化学系32
6660001	日本史学	実習	3-4	2	前期	水3,水4	三宅 正浩,木土 博成		歴史基礎文化学系33
6660002	日本史学	実習	4	2	前期	水3,水4	三宅 正浩,木土 博成		歴史基礎文化学系34
6660003	日本史学	実習	3-4	2	後期	水3,水4	上島 享,木土 博成		歴史基礎文化学系35
6660004	日本史学	実習	4	2	後期	水3,水4	上島 享,木土 博成		歴史基礎文化学系36
6731001	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	火4	吉本 道雅		歴史基礎文化学系37
6731002	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	火4	吉本 道雅		歴史基礎文化学系38
6731003	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	月4	中砂 明德		歴史基礎文化学系39
6731004	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	中砂 明德		歴史基礎文化学系40
6731005	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	木1	高嶋 航		歴史基礎文化学系41
6731006	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	木1	高嶋 航		歴史基礎文化学系42
6731009	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	木5	箱田 恵子		歴史基礎文化学系43
6731010	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	城山 智子		歴史基礎文化学系44
6731011	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水2	辻 正博		歴史基礎文化学系45
6731012	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	水2	辻 正博		歴史基礎文化学系46
6731013	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	火1	矢木 毅		歴史基礎文化学系47
6731014	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	火1	矢木 毅		歴史基礎文化学系48
6731018	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水4	承 志		歴史基礎文化学系49
6731019	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	水4	承 志		歴史基礎文化学系50
6731021	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	太田 出		歴史基礎文化学系51
6731022	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	太田 出		歴史基礎文化学系52
6731023	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	宮宅 潔		歴史基礎文化学系53
6731024	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	宮宅 潔		歴史基礎文化学系54
6731025	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	石川 禎浩		歴史基礎文化学系55
6731026	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	石川 禎浩		歴史基礎文化学系56
6731027	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水1	古松 崇志		歴史基礎文化学系57
6731028	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	水1	古松 崇志		歴史基礎文化学系58
6741001	東洋史学	演習I	3-4	2	前期	金3	吉本 道雅		歴史基礎文化学系59
6741002	東洋史学	演習I	3-4	2	後期	金3	吉本 道雅		歴史基礎文化学系60
6743001	東洋史学	演習II	3-4	2	前期	火5	中砂 明德		歴史基礎文化学系61
6743002	東洋史学	演習II	3-4	2	後期	火5	中砂 明德		歴史基礎文化学系62
6745001	東洋史学	演習III	3-4	2	前期	金1	高嶋 航		歴史基礎文化学系63
6745002	東洋史学	演習III	3-4	2	後期	金1	高嶋 航		歴史基礎文化学系64
6749001	東洋史学	演習	3-4	2	前期	月4	村上 衛		歴史基礎文化学系65
6749002	東洋史学	演習	3-4	2	後期	月4	村上 衛		歴史基礎文化学系66
6750001	東洋史学	講読	2-4	4	通年	水4	中砂 明德		歴史基礎文化学系67
6750002	東洋史学	講読	2-4	4	通年	火3	中砂 明德		歴史基礎文化学系68
6761001	東洋史学	実習	3-4	2	通年	水5	吉本 道雅,中砂 明德,高嶋 航		歴史基礎文化学系69
6831004	西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	前期	木3	仁子 寿晴		歴史基礎文化学系70
6831005	西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	前期	火5	中西 竜也		歴史基礎文化学系71
6831006	西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	前期	火3	磯貝 健一		歴史基礎文化学系72
6831007	西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	後期	水2	帯谷 知可		歴史基礎文化学系73
6831009	西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	秋葉 淳		歴史基礎文化学系74
6831011	西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	磯貝 健一		歴史基礎文化学系75
6840001	西南アジア史学	演習I	3-4	4	通年	火4	磯貝 健一		歴史基礎文化学系76
6842001	西南アジア史学	演習II	3-4	4	通年	月3	磯貝 健一		歴史基礎文化学系77
6844001	西南アジア史学	演習II	3-4	2	前期	金3	伊藤 隆郎		歴史基礎文化学系78

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
6844002	西南アジア史学	演習II	3-4	2	後期	金3	伊藤 隆郎		歴史基礎文化学系79
6850001	西南アジア史学	講読	3-4	4	通年	金1	今松 泰		歴史基礎文化学系80
6851001	西南アジア史学	講読	3-4	2	前期	月5	東長 靖		歴史基礎文化学系81
6851002	西南アジア史学	講読	3-4	2	前期	金2	磯貝 健一		歴史基礎文化学系82
6851003	西南アジア史学	講読	3-4	2	後期	金2	稲葉 穰		歴史基礎文化学系83
6861001	西南アジア史学	実習	3-4	1	後期	水4	磯貝 健一		歴史基礎文化学系84
6861002	西南アジア史学	実習	3-4	1	前期	水4	稲葉 穰		歴史基礎文化学系85
9604001	西南アジア史学	語学	2-4	4	通年	木2	西尾 哲夫	学部共通科目	歴史基礎文化学系86
9608001	西南アジア史学	語学	3-4	4	通年	火2	杉山 雅樹	学部共通科目	歴史基礎文化学系87
9616001	西南アジア史学	語学	1-4	4	通年	月4	山口 周子	学部共通科目	歴史基礎文化学系88
9620001	西南アジア史学	語学	3-4	4	通年	金1	森 若葉	学部共通科目	歴史基礎文化学系89
9633001	西南アジア史学	語学	1-4	4	通年	金5	小松 久恵	学部共通科目	歴史基礎文化学系90
9639001	西南アジア史学	語学	3-4	2	前期	火3	手島 勲矢	学部共通科目	歴史基礎文化学系91
9640001	西南アジア史学	語学	3-4	2	後期	火3	手島 勲矢	学部共通科目	歴史基礎文化学系92
6931004	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	月5	石井 香江		歴史基礎文化学系93
6931005	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	月3	河島 思朗		歴史基礎文化学系94
6931006	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	月3	河島 思朗		歴史基礎文化学系95
6931007	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	伊藤 順二		歴史基礎文化学系96
6931008	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	伊藤 順二		歴史基礎文化学系97
6931009	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	大清水 裕		歴史基礎文化学系98
6931010	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	木3	嶋中 博章		歴史基礎文化学系99
6931011	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水4	小関 隆		歴史基礎文化学系100
6931012	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	水4	小関 隆		歴史基礎文化学系101
6931014	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	藤原 辰史		歴史基礎文化学系102
6931015	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	藤原 辰史		歴史基礎文化学系103
6931016	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	火4	藤井 崇		歴史基礎文化学系104
6931017	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	火4	藤井 崇		歴史基礎文化学系105
6931018	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	火5	金澤 周作		歴史基礎文化学系106
6931019	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	火5	金澤 周作		歴史基礎文化学系107
6940001	西洋史学	演習I	3-4	4	通年	金5	藤井 崇		歴史基礎文化学系108
6942001	西洋史学	演習II	3-4	4	通年	金5	佐藤 公美		歴史基礎文化学系109
6944001	西洋史学	演習III	3-4	4	通年	金5	小山 哲		歴史基礎文化学系110
6946001	西洋史学	演習IV	3-4	4	通年	金5	金澤 周作		歴史基礎文化学系111
6947001	西洋史学	演習V	4	4	通年	金2	小山 哲,金澤 周作, 藤井 崇		歴史基礎文化学系112
6950001	西洋史学	講読	2-4	4	通年	水1	富井 眞	英書講読	歴史基礎文化学系113
6955001	西洋史学	講読	2-4	2	前期	木2	岡澤 康浩	英書講読	歴史基礎文化学系114
6955002	西洋史学	講読	2-4	2	後期	木2	成田 千尋	英書講読	歴史基礎文化学系115
6955003	西洋史学	講読	2-4	2	前期	火2	鈴木 健雄	英書講読	歴史基礎文化学系116
6955004	西洋史学	講読	2-4	2	後期	火2	鈴木 健雄	英書講読	歴史基礎文化学系117
6956001	西洋史学	講読	2-4	2	前期	火1	藤井 俊之	独書講読	歴史基礎文化学系118
6956002	西洋史学	講読	2-4	2	後期	火1	藤井 俊之	独書講読	歴史基礎文化学系119
6957001	西洋史学	講読	2-4	2	前期	木1	小山 哲	仏書講読	歴史基礎文化学系120
6957002	西洋史学	講読	2-4	2	後期	木1	小山 哲	仏書講読	歴史基礎文化学系121
6958001	西洋史学	講読	2-4	2	前期	火3	伊藤 順二	露書講読	歴史基礎文化学系122
6958002	西洋史学	講読	2-4	2	後期	火3	伊藤 順二	露書講読	歴史基礎文化学系123
6959001	西洋史学	講読	2-4	2	前期	水4	村瀬 有司	伊書講読	歴史基礎文化学系124
6959002	西洋史学	講読	2-4	2	後期	水4	村瀬 有司	伊書講読	歴史基礎文化学系125
6960001	西洋史学	実習	3-4	2	通年	水2	小山 哲,金澤 周作, 藤井 崇		歴史基礎文化学系126
7031001	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	月3	吉井 秀夫		歴史基礎文化学系127
7031002	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	金2	吉井 秀夫		歴史基礎文化学系128
7031003	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	火3	小方 登		歴史基礎文化学系129
7031004	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	岡村 秀典		歴史基礎文化学系130
7031005	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	岡村 秀典		歴史基礎文化学系131
7031006	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	月4	杉山 淳司		歴史基礎文化学系132
7031007	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	中川 尚史		歴史基礎文化学系133
7031008	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	中務 真人		歴史基礎文化学系134
7031009	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	下垣 仁志		歴史基礎文化学系135
7031010	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	下垣 仁志		歴史基礎文化学系136
7031011	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	金2	諫早 直人		歴史基礎文化学系137
7031012	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	吉井,富井,下垣,内記		歴史基礎文化学系138
7031013	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	金3	若林 邦彦		歴史基礎文化学系139
7031014	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	中村大介		歴史基礎文化学系140
7031015	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	水4	村上 由美子		歴史基礎文化学系141
7031016	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	月3	千葉豊		歴史基礎文化学系142
7031018	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	火2	向井 佑介		歴史基礎文化学系143
7031019	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	火2	向井 佑介		歴史基礎文化学系144
7040001	考古学	演習I	3-4	4	通年	月5	吉井 秀夫		歴史基礎文化学系145
7042001	考古学	演習II	3-4	4	通年	金4	下垣 仁志		歴史基礎文化学系146
7045001	考古学	演習III	4	4	通年	月1	千葉 豊,吉井 秀夫,下垣 仁志		歴史基礎文化学系147
7050001	考古学	講読	2-4	4	通年	水1	富井 眞		歴史基礎文化学系148
7060001	考古学	実習	2-4	4	通年	火3,火4	千葉,伊藤,吉井,富井,下垣		歴史基礎文化学系149

歴史基礎文化学系1

科目ナンバリング		U-LET23 26601 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(日本史学)(講義) Japanese History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉川 真司			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代史通論									
【授業の概要・目的】											
<p>日本古代史のうち、文献史料による研究が十分可能な3～11世紀、すなわち倭国時代から平安時代 摂関期までの歴史を通観する。いくつかのテーマを設定し、新しい研究や新しい史料を紹介しながら、 近年の日本古代史研究では何が明らかにされてきたか、いかなる方法が用いられてきたかを述 べる。列島社会に政治的なまとまりが生まれ、中央集権国家「日本」が誕生してくる歴史、それが 段階的に変容していく歴史を跡づけることにより、日本の社会・国家・文化の古層に関する豊かな 認識を得ることを目標としたい。なお、本講義で扱う時代幅はいささか限定的であるが、その前後 の時代を幅広く見通し、また日本史一般を理解する上で必要な知識・方法を述べるものであって、 日本史学全体についての研究入門と位置づけている。</p>											
【到達目標】											
<p>日本史、特に古代史に関する基本的な知識を身につけるとともに、歴史を認識・再構成するための 方法について理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記のように講義を進めていく予定である。ただし、理解度に応じて詳しく説明したり、 新しい発見を紹介することなどもあるため、各テーマの内容・回数・順序については柔軟に考える ことにする。</p>											
<p>第01回 序説：日本史・日本古代史の領域 第02回 邪馬台国 第03回 初期の倭王権 第04回 タニハの大県主 第05回 ホムタワケの登場 第06回 ワカタケル大王の時代 第07回 秦氏のヤマシロ移住 第08回 オホド大王の新王朝 第09回 仏教伝来 第10回 聖徳太子の実像 第11回 二つの王家 第12回 大化改新と難波宮 第13回 律令体制の形成とユーラシア 第14回 公民制と調庸制 第15回 方格と直線の地割 第16回 古代仏教のネットワーク 第17回 天平の疫病大流行 第18回 黄金郷の原像 第19回 女性天皇と太上天皇 第20回 交野行幸と百濟王氏</p>											
----- 系共通科目(日本史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(日本史学)(講義)(2)

- 第21回 古代王宮の変貌
第22回 承和の転換
第23回 古代荘園
第24回 楽舞と和歌
第25回 古代末期の地方寺院
第26回 摂関政治と貴族社会
第27回 国風文化
第28回 女真海賊事件の前後
第29回 古代から中世へ
第30回 総括：世界史の中の日本古代史

【履修要件】

高等学校等で「日本史B」を履修したこと、もしくはそれと同等の学力を有すること。

【成績評価の方法・観点】

毎回の小レポート(30点)、期末レポート(1回、70点)により評価する。
ともに到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

吉川真司『シリーズ日本古代史3 飛鳥の都』(岩波新書) ISBN:978-4004312734

吉川真司『天皇の歴史2 聖武天皇と仏都平城京』(講談社学術文庫) ISBN:978-4062924825

【授業外学修(予習・復習)等】

講義で基本史料や参考文献を示すので、できるだけ読んでおくこと。
講義でふれた遺跡・史跡については、できるだけ見学すること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系2

科目ナンバリング		U-LET24 26701 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(東洋史学)(講義) Oriental History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		東アジアの歴史 近代を中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>日本、中国、韓国の関係者が編纂した歴史教材『未来をひらく歴史』を題材に、『新しい東アジアの近現代史』を副教材にし、東アジアの近代史を日中韓それぞれの視点から概観し、共通点、相違点を確認したうえで、なぜ相違点が生まれるのかについて考えてみたい。『未来をひらく歴史』が触れない話題も取り上げ、同時に、『未来をひらく歴史』の問題点にも触れたい。後半は中国の現代史について、日中の視点から論じる。</p>											
【到達目標】											
<p>近代東アジアの歴史を当該国である日本、中国、韓国はどのように見ているのか、国境を越えて歴史を共有することは可能なのか。このような視点から近代東アジアの諸歴史を比較検討することで、東アジアの近代と現在についてより深く知るだけでなく、歴史、とりわけナショナルヒストリーについて批判的な視点を養うことを目指す。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記のように講義を進めていく予定である。ただし、理解度に応じて詳しく説明したり、新しい発見を紹介したりすることもあるため、各テーマの内容・回数・順序については柔軟に考えることにする。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：開港まで 第3回：開国 第4回：日清戦争 第5回：義和団・独立協会 第6回：日露戦争 第7回：朝鮮台湾の植民地化 第8回：第一次世界大戦 第9回：朝鮮の植民地支配 第10回：台湾の植民地支配 第11回：東アジアの民族運動 第12回：満洲事変 第13回：日中戦争(1)日本側から 第14回：日中戦争(2)中国側から 第15回：戦時下の台湾、朝鮮、満洲 第16回：戦時下の日本 第17回：日本の敗戦 第18回：戦後の出発 第19回：戦後補償問題 第20回：東アジアの分断 第21回：文革前史 第22回：文革</p>											
----- 系共通科目(東洋史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(東洋史学)(講義)(2)

第23回：改革開放
第24回：天安門事件
第25回：愛国主義の高まり
第26回：北京オリンピック
第27回：中華民族の復興
第28回：慰安婦（1）韓国
第29回：慰安婦（2）中国
第30回：総括

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業中の小レポート（50％）と期末レポート（50％）

[教科書]

日中韓3国共同歴史編纂委員会 『未来をひらく歴史』（高文研）ISBN:4874983693

[参考書等]

（参考書）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で紹介する文献に目を通し、自分で問題を考えてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系3

科目ナンバリング		U-LET25 26801 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西南アジア史学)(講義) West Asian History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		イスラーム世界史研究入門 An Introduction to the Study of History of the Islamicate World									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、初学者向けにイスラーム世界史の研究に必要な基礎的な知識を説明する。勿論、アフリカ大陸から東南アジアに及ぶ広大なイスラーム世界の歴史すべてを、一人の教員でカバーすることなど出来ない。従って、授業の内容は、イスラーム世界史の理解、研究に最低限必要な事項（たとえばイスラーム教の基本的な教義など）の説明に重点が置かれる。</p> <p>This course aims to explain students of such basic knowledge and skills required to engage in the research activity into history of the Islamicate world as essential teachings of Muslim religion, crucial events in its history, and so on.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム世界を理解するために最低限必要な専門的知識を獲得し、これにもとづきイスラーム世界の現状について自分自身の見解を持つことが出来る。 ・イスラーム世界史の研究に必要な基礎的知識を獲得し、自ら研究を開始することが出来る。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) acquire necessary knowledge for understanding current picture of the contemporary Muslim world.</p> <p>(2) obtain essential knowledge required for the research activity into history of the Muslim world.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業で扱うトピック、および、各トピックに配当される目安となる授業時間は下記の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入：現代イスラーム世界の概観（2回） イスラーム世界の範囲、人口、ヨーロッパのムスリムなど ・イスラーム教の基礎知識（2回） コーランとハディース、および、その日本語訳書の紹介など ・イスラーム世界史の概観（12回） イスラーム教の成立、イスラーム世界の拡大過程、シーア派とスンナ派の形成、19世紀までのイスラーム世界など ・イスラーム法（3回） イスラーム法と法学派の形成、近代におけるイスラーム法の法典化など ・イスラーム世界史研究入門（3回） 各種工具書の紹介、研究対象となる時代・地域別に必要な言語、辞書、歴史資料の類型など ・ワクフ（2回） ワクフ制度の説明、ワクフ文書の実例紹介など ・知識の伝達（2回） 口承の重要性、マドラサとそのカリキュラムなど ・スーフィズム（2回） 「スーフィズム（イスラーム神秘主義）」の概要、歴史研究におけるスーフィズムなど ・イスラーム法廷（2回） 											
----- 系共通科目(西南アジア史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西南アジア史学)(講義)(2)

「法廷文書」とその類型、法廷の役割、裁判のながれ、「法廷文書」の歴史資料としての可能性など

- Contour of the contemporary Islamic world (2 weeks)
- Basic teachings of the Muslim religion (2 weeks): al-Quran and Hadith (the traditions about the words and deeds of Prophet Muhammad)
- Brief explanation of history of the Muslim world (12 weeks)
- Islamic law (3 weeks)
- How to embark on the research into history of the Islamicate world? - dictionaries, tools, and typology of historical sources (3 weeks)
- Waqf (pious donation) (2 weeks)
- The way of transmitting knowledge in the pre-modern Islamicate world - the curriculum of madrasa (2 weeks)
- Sufism in history (2 weeks)
- Sharia court documents (2 weeks)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験（筆記）により評価する。

Final exam

【教科書】

使用しない

担当教員が作成するレジユメを教科書とする。尚、レジユメは紙媒体では配布せず、PDFファイルを配布する。ファイルの受信方法については、初回授業時に説明する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

初回授業を除き、必ず前回の授業内容を復習したうえで授業に臨むこと。また、前回の授業で参考書、関連URL等が提示された場合は、予めこれに目を通したうえで次回の授業に臨むこと。

Students should review class notes before attending each lesson.

系共通科目(西南アジア史学)(講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系4

科目ナンバリング		U-LET26 26901 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋史学)(講義) European History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西洋史学序説									
【授業の概要・目的】											
<p>ヨーロッパ世界では、歴史をどのように認識してきたのであろうか。また、歴史を研究する視角や方法は、時代の変化にともなって、どのように変化してきたのであろうか。この講義では、古代から現代までのヨーロッパにおける歴史認識の歴史を、各時代の全般的な状況をふまえながら概観し、それぞれの時代の歴史叙述の特徴や、歴史研究の方法をめぐる議論を紹介する。本講義をつうじて、古代から現代にいたるヨーロッパ史の流れを把握するとともに、西洋世界における歴史認識の特徴についての理解を深め、「西洋史学」という学問分野の歴史的特質と今日的課題について考える素材を提供することを目標とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・古代から現代にいたるヨーロッパ史の展開を把握し、各時代の全般的な状況について理解する。 ・ヨーロッパにおける歴史認識や歴史叙述の歴史についての基本的な知識を習得し、それぞれの時代の特徴について理解する。 ・ヨーロッパにおける歴史認識の特徴についての理解を深め、「西洋史学」という学問分野の歴史的特質と今日的課題について各自の関心に即して考察する。 											
【授業計画と内容】											
以下のようなテーマをとりあげる予定											
<p>第I部 イン트로ダクション</p> <p>第1回 ふたつの問い 序説の序説</p> <p>第2回 図像からみた「ヨーロッパ」のイメージの変遷</p>											
<p>第II部 近代歴史学の成立から現在まで</p> <p>第3回 事実は一体どうであったのか レオポルト・フォン・ランケの歴史学</p> <p>第4回 ランケの日本的領有(その1) 日本における「西洋史学」の成立</p> <p>第5回 ランケの日本的領有(その2) 京都学派とランケ史学</p> <p>第6回 歴史のなかに「繰り返すもの」をみる ブルクハルトの歴史観</p> <p>第7回 病としての歴史的教養 ニーチェの歴史学批判とブルクハルト</p> <p>第8回 人間がつくる歴史、歴史に縛られる人間 マルクスの歴史像</p> <p>第9回 脱魔術化する世界 マックス・ウェーバーにとっての西洋近代</p> <p>第10回 日本におけるマックス・ウェーバー受容と「西洋史学」</p> <p>第11回 人食い鬼としての歴史家 アナール学派の歴史学(その1)</p> <p>第12回 歴史的時間の多層性 アナール学派の歴史学(その2)</p> <p>第13回 時系列史から表象の歴史学へ アナール学派の歴史学(その3)</p> <p>第14回 多元的世界から資本主義世界経済へ 世界システム論の視座</p> <p>第15回 17世紀危機論争と日本の「西洋史学」</p> <p>第16回 ポスト冷戦と歴史研究 ポーランドの場合</p>											
----- 系共通科目(西洋史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西洋史学)(講義)(2)

- 第17回 国境を越えて歴史認識を議論するには ポーランド・ドイツ「記憶の場」
第18回 感情に歴史はあるか 歴史研究のフロンティア

第Ⅲ部 近代歴史学以前のヒストリオグラフィ

- 第19回 自然哲学から歴史叙述へ ヘロドトスの歴史叙述
第20回 可能なかぎり厳密に トウキュディデスの歴史叙述(その1)
第21回 ファロクラシー? トウキュディデスの歴史叙述(その2)
第22回 ローマからみた「世界史」 ポリュビオスの歴史観
第23回 帝国の暗鬱 タキトゥスの描く帝政ローマ
第24回 救済史としての歴史 中世ヨーロッパの歴史叙述(その1)
第25回 過ぎし年月の物語 中世ヨーロッパの歴史叙述(その2)
第26回 普遍史の危機(その1) 人文主義と歴史叙述
第27回 普遍史の危機(その2) 啓蒙期の歴史観
第28回 ふたつの歴史哲学(その1) ヴォルテールの場合
第29回 ふたつの歴史哲学(その2) ヘーゲルの場合
第30回 授業の内容をふまえた総論

フィードバックについては、授業中に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

前期と後期に各1回、レポートの提出を求める。成績の評価は提出されたレポートにもとづいて行う。

授業でとりあげた文献のなかから各受講生が1ないし複数の文献を選択し、その内容について論述することをレポート課題の内容とする。レポートの評価にあたっては、文献の読解の正確さ、ヨーロッパ世界における歴史認識の特徴にかんする理解度、文章表現や論理構成の適切さなどを総合的に評価する。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

服部良久・南川高志・小山哲・金澤周作編 『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』(京都大学学術出版会、2010年) ISBN:978-4-87698-948-5(京都大学における西洋史学研究・教育への導入解説をおこなっており、本講義全体を通じて参考となるであろう。)

金澤周作監修 『論点・西洋史学』(ミネルヴァ書房、2020年) ISBN:978-4-62308-779-2

上記の本以外の参考文献については、テーマに応じて、授業中に紹介する。

系共通科目(西洋史学)(講義)(3)へ続く

系共通科目(西洋史学)(講義)(3)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業のなかで、関連する文献のリストを提示する予定である。受講者には、各自の関心にしたがってリストから文献を選び、読み進めていくことを期待する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系5

科目ナンバリング		U-LET27 17001 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(講義) Archaeology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		考古学講義									
【授業の概要・目的】											
本講義では、考古学を研究するための基本的な概念と方法論を学ぶ(前期)。その上で、弥生時代以降の日本列島を中心とした考古資料の展開とその歴史的意義についての概要を講義する(後期)。											
【到達目標】											
考古学の基本的な概念や方法論について理解できるようになる。 弥生時代以降の日本列島における考古資料とその歴史的意義についての基本的な知識を身につける。											
【授業計画と内容】											
前期											
第1回 考古学とは?											
第2回 考古資料とその特質											
第3回 型式論											
第4回 層位論											
第5回 年代決定論(1)											
第6回 年代決定論(2)											
第7回 年代決定論(3)											
第8回 年代決定論(4)											
第9回 年代決定論(5)											
第10回 考古学と文化											
第11回 考古学と歴史学(1)											
第12回 考古学と歴史学(2)											
第13回 考古学と社会(1)											
第14回 考古学と社会(2)											
第15回 フィードバック											
後期											
第1回 旧石器時代の環境と編年											
第2回 旧石器時代から縄文時代へ											
第3回 縄文文化の展開											
第4回 縄文時代から弥生時代へ											
第5回 弥生時代の年代をめぐって											
第6回 弥生文化のはじまりと拡散											
第7回 弥生時代の生活と社会の諸様相											
第8回 弥生時代における金属器の受容と展開											
第9回 弥生時代から古墳時代へ											
第10回 古墳時代前期の社会											
----- 考古学(講義)(2)へ続く -----											

考古学(講義)(2)

- 第11回 古墳時代中期の社会
第12回 古墳時代後期の社会
第13回 考古学からみた古代国家形成過程
第14回 古墳時代から飛鳥・奈良時代へ
第15回 フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価（受講状況・小テストなどによる）と学年末試験（ノート持ち込み可）による。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業時間に講義できる内容は限られている。各自、考古学の概説書を読むなどして理解を深めて欲しい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系6

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉川 真司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		後期摂関政治と寺院社会									
【授業の概要・目的】											
<p>日本古代の律令体制は9世紀後半から解体過程に入り、10世紀後葉には「初期権門体制」と呼ぶべき、中世的様相の色濃い国家体制が成立した。それはユーラシア東方を覆った分権化の一環と言えるが、国内的には前期摂関政治から後期摂関政治へという政治システムの移行、垂直方向・水平方向の緊密なネットワークをもつ平安貴族社会の成立、さらには唐風文化から国風文化への転換という、さまざまな事象をともなっていた。また、古代に創建された諸大寺も中世化の趨勢の中にあり、寺院社会・寺院文化に新しい様相が現われ始めた。</p> <p>本講義では『造興福寺記』、すなわち永承元年(1046)に焼亡した興福寺の復興記録を読み解くことにより、後期摂関政治期の政治・制度、南都寺院の社会・文化について考えたい。興福寺所蔵古写本について翻刻・校訂・註釈を行ない、要所に関しては詳しい解説を施すことにより、上記の目的を果たそうとするものである。</p>											
【到達目標】											
日本古代史に関する基本的事項と研究方法を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記のように講義を進めていく予定である。ただし、理解度に応じて詳しい説明を加えたり、新しい発見を紹介したりすることもあるため、それぞれの内容・回数については柔軟に考えることにする。なお、これらの週数には休日に実施する現地見学を含み、その際には平常授業を振り替える。</p> <p>01～02週 イン트로ダクション 03～14週 『造興福寺記』の逐条的註釈・解説 15週 総括と展望</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末レポートの内容によって評価する。レポートの評価はオリジナリティを重視し、素点(100点満点)の絶対評価で評点する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献や配付資料に基づき、講義内容の理解を深める。

(その他(オフィスアワー等))

現地見学を行なうので、学生教育研究災害傷害保険に必ず加入しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系7

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上島 享			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本中世宗教史像の再構築 中世の神と仏									
【授業の概要・目的】											
<p>【授業の概要】 日本中世史研究の現状と課題を確認し、中世という時代全般を概括した上で、新たな視角から中世宗教史の構築を目指したい。今年度は主に神（神祇）と仏（仏教）との関係を論じる。宗教史の問題を扱うが、目指すのは狭義の分野史ではなく、政治史・社会経済史・宗教史・思想史などを取り込んだ、広い意味での全体史、あるいは文化史である。</p> <p>【授業の目的】 講義の目的は、自説を展開できる論文が書ける能力を受講生が獲得することである。そのために必要な批判力や論理構成力の涵養を目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>授業で示された具体的な研究事例を学び、その内容を批判的に検証することで、卒業論文執筆に必要な能力が修得できるようになる。つまり、歴史学の基礎をなす実証の方法、先行学説に対する向き合い方、自説を論理的に構成する能力などを獲得することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 日本中世史研究の現状と課題 第2回 時期区分論の現状と課題 第3回 中世600年を考える 第4回 神仏習合研究の歩みと課題 第5回 古代の神身離脱説話を読みなおす 第6回 地主神のちから 第7回 新たな神仏習合の進展 中央の事例 第8回 新たな神仏習合の進展 地方の事例 第9回 本地垂迹思想形成の歴史過程 第10回 本地垂迹思想形成の歴史過程 第11回 和光同塵 第12回 和光同塵 第13回 日本という枠組を超える神々 第14回 中世における神と仏 第15回 中世宗教史から日本中世史へ 中世史像の再構築 自身の研究の進捗状況により、上記の内容を変更することがある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポート(50%)と授業のさいに実施予定の小レポート(50%)。
レポートにおいて、自らの見解を論理的あるいは実証的に論じることができるのかを評価基準とする。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
上島 享 『日本中世社会の形成と王権』(名古屋大学出版会) ISBN:978-4-8158-0635-4
その他については、適宜、授業で指示をする。

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・事前に配布する史資料を読んだ上で、授業にのぞむこと。
- ・授業終了後は、授業内容を批判的に検討すること。

(その他(オフィスアワー等))

- ・質問などがあれば、メールにて連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系8

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 三宅 正浩			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世武家社会研究									
【授業の概要・目的】											
<p>近年の日本近世史研究は、史料批判をしつつ、一次史料にもとづいて政治過程を描き出す手法が求められる段階に到達している。従来の通説的理解を一次史料を駆使して塗り替えつつ、新たな方法論と論点を獲得する過程を示すことで、日本近世史研究の基礎的方法と面白さを示したい。</p> <p>担当者は、主に武家文書（書状・日記・法令などの一次史料と編纂史料などの二次史料）を用いて、近世前期の政治史を研究している。特に、大名家の政治構造や幕藩関係に着目しつつ、近世国家が如何なる過程を経て形成され、その結果として如何なる構造・特質を有することになったのかを中長期的に考えているところである。</p> <p>今年度は、17世紀の武家の世代差に着目し、世代差という観点から近世国家成立過程の諸段階を把握する方法論を考えていくことにしたい。</p> <p>授業では、具体的な史料を示し、その解釈を説明しながら論じていくことになる。知識ではなく、授業を通して示される研究手法をこそ学んでもらいたい。</p>											
【到達目標】											
<p>近世の史料、特に前期の政治史・武家社会に関する史料を読み解くための基礎的能力を獲得する。期末には、自分なりに、個別の史料をとりあげて読み込み、日本史学の方法論に基づいてレポートを作成できるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下に示したテーマ・回数・順番については固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況、また、担当者の研究進展状況や学界動向に伴い、変更がありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 近世国家形成過程をどう捉えるか 【2週】 2. 近世大名の世代差の構造 【3週】 3. 個別事例からみる世代差 蜂須賀正勝・家政・至鎮 【4週】 4. 江戸社会と世代差 【2週】 5. 軍事への意識の変容 【2週】 6. 世代差と歴史的諸段階 【1週】 7. まとめと総括 【1週】 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポートで評価する											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献を読むほか、自分で史料をとりあげて分析し、レポートを作成する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系9

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 谷川 穣			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代日本の国民教化									
【授業の概要・目的】											
<p>帝国憲法と教育勅語によって、日本の近代国家は法と道徳を通じた統治に一つの枠組みを得たかに映る。しかし、それぞれ合理性と超越性を担当するというほど単純なものではなく、また常にゆらぎ、問いなおされるものであった。ではその特質は何であり、そこで形成された社会と、そこに生きた人々の経験はいかなる歴史的意味を持つのだろうか。本講義では、明治後期から大正期にかけて繰り返された国民教化政策とその特質を、教育・宗教・地域社会・女性・子ども・軍隊などの視角から捉え、そうした「ゆらぎ」について考えていきたい。</p>											
【到達目標】											
<p>近代日本社会とその統治体制の変容に対する歴史的理解を深め、視野を広げられるようになる。また多様な史料（未刊行の手稿史料も含む）を用いて実証的に論じる歴史学の手法を習得するとともに、歴史研究の対象と自己との関係がいかにあるべきかを、重層的に考えられるようになる。さらに、講義内容を批判的に再考することで、自らの問題意識を反映した論文作成の基礎能力を得ることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回はイントロダクション、最終回（15回目）は「まとめ」。以下のトピックを受講生の理解度も勘案しつつ各2～3回講じる予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育勅語の不安定性 ・戊申詔書と地方改良 ・民力涵養と生活改善 ・国民教化と女性／男性 ・関東大震災と国民精神作興 ・教化から動員へ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末のレポート（70％）と授業中に実施予定の小レポート（30％）で総合的に判断する。レポートにおいては、自らの見解を論理的、ないし歴史学の手法に即して実証的に論じることができているかを評価基準とする。</p>											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義) (2)

[教科書]

授業に際してはハンドアウト・史料プリントを配布する予定である。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受講生が各自の興味関心にしながら独力で考え実践する。ただし授業において参考文献も示すので、適宜それを読み、自らの考えを深めるよすがとしてもらえればと思う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系10

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 吉江 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代宮廷社会の研究 天皇家家産の変遷									
【授業の概要・目的】											
日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。今期は、天皇家の家産の変遷に焦点をあてながら、宮廷社会の展開過程について検討する。こうした作業を通じて、日本古代史の様相やその変遷に関して、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本歴史の発展と内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。今期は、天皇家の家産の変遷に焦点をあてながら、宮廷社会の展開過程について検討する。まずは天皇家家産に目を向けることの意義を明確にした上で、律令制期における天皇家家産の管理について概観する。次いで、平安時代に成立する後院に着目しながら、天皇家家産の展開を考察し、天皇家家産の様相から皇統分裂などの政治史の動向を考察する。最後に、王家領荘園の形成を取り上げながら、天皇家の中世的な展開を検討する。 授業の予定は以下の通りであるが、講義の進み具合などを勘案して、各回のテーマや回数を変更することがある。											
第1回 イントロダクション											
第2回 問題の所在 天皇家家産という視点 (1)											
第3回 問題の所在 天皇家家産という視点 (2)											
第4回 律令制期における天皇家家産の管理 (1)											
第5回 律令制期における天皇家家産の管理 (2)											
第6回 天皇家家産の展開と後院 (1)											
第7回 天皇家家産の展開と後院 (2)											
第8回 天皇家家産の展開と後院 (3)											
第9回 皇統の分裂と天皇家家産 (1)											
第10回 皇統の分裂と天皇家家産 (2)											
第11回 王家領荘園の形成 (1)											
第12回 王家領荘園の形成 (2)											
第13回 王家領荘園の形成 (3)											
第14回 総括											
《期末試験》											
第15回 フィードバック											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

日本史に関する基礎知識があることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

授業時間内で実施する小テスト（10点×2回）と学期末に課す期末レポート（80点）の合計素点（100点満点）で成績評価する。小テストは、授業内容の理解度および史料の読解力の観点から評点し、期末レポートは、問題設定の仕方、実証性・論理性、結論の説得力などの観点から、到達目標に即して評点する。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業は講義形式で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系11

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 吉江 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代宮廷社会の研究 「氏」と「家」の変容									
【授業の概要・目的】											
日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。今期は、「氏」と「家」の変容に焦点をあてながら、宮廷社会の変質について検討する。こうした作業を通じて、日本古代史の様相やその変遷に関して、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本歴史の発展と内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。今期は、日本古代の宮廷社会を特徴付ける「氏」と「家」に焦点をあてながら、宮廷社会の特質と変容について検討する。まずは日本古代における「氏」と「家」の関係性を整理し、問題の所在を明確にする。次いで、平安時代前期におきた氏族制原理の変質を概観し、その理解を踏まえて、平安時代の政治史研究でしばしば言及される「ミウチ制」に関して、批判的に検証する。最後に、「氏」と「家」の変遷について、氏長者の動向や家格の形成に着目しながら検討する。 授業の予定は以下の通りであるが、講義の進み具合などを勘案して、各回のテーマや回数を変更することがある。											
第1回 イントロダクション											
第2回 問題の所在 日本古代の「氏」と「家」 (1)											
第3回 問題の所在 日本古代の「氏」と「家」 (2)											
第4回 平安時代前期における氏族制原理の変質 (1)											
第5回 平安時代前期における氏族制原理の変質 (2)											
第6回 ミウチ制論の再検討 (1)											
第7回 ミウチ制論の再検討 (2)											
第8回 「氏」と氏長者の継承 (1)											
第9回 「氏」と氏長者の継承 (2)											
第10回 「氏」と氏長者の継承 (3)											
第11回 家格の形成にみる中世的「家」の成立 (1)											
第12回 家格の形成にみる中世的「家」の成立 (2)											
第13回 家格の形成にみる中世的「家」の成立 (3)											
第14回 総括											
《期末試験》											
第15回 フィードバック											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

日本史に関する基礎知識があることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

授業時間内で実施する小テスト(10点×2回)と学期末に課す期末レポート(80点)の合計素点(100点満点)で成績評価する。小テストは、授業内容の理解度および史料の読解力の観点から評点し、期末レポートは、問題設定の仕方、実証性・論理性、結論の説得力などの観点から、到達目標に即して評点する。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は講義形式で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系12

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 熊谷 隆之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		鎌倉時代通史抄									
【授業の概要・目的】											
今期は、日本中世史のうち、鎌倉時代、なかでも承久の乱からモンゴル襲来までを中心に、歴史研究の最前線でどのような議論がなされているか、という点も交えながら論ずる。											
【到達目標】											
鎌倉時代の政治史や社会史に関する認識を深めるとともに、歴史の転換期としての当該期の意義とその分析方法を理解する。											
【授業計画と内容】											
第1回 承久の乱の衝撃 第2回 北条泰時の時代(1) 第3回 北条泰時の時代(2) 第4回 北条泰時の時代(3) 第5回 北条経時の時代 第6回 宮騒動と宝治合戦 第7回 建長の政変と親王将軍の下向 第8回 北条時頼の出家 第9回 北条時頼の死と陰謀の黒幕 第10回 連署・北条時宗の時代 第11回 二月騒動と文永の役 第12回 高麗出兵計画と幕府諸勢力の西下 第13回 弘安の役と北条時宗の死 第14回 弘安徳政とその終焉 第15回 まとめ(フィードバック)											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解力があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末に到達目標に即したレポート課題を提示し、その内容で成績評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき、100点満点で評価する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行状況を確認のうえで予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うとともに、参考文献にも必ず目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系13

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 熊谷 隆之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		鎌倉時代通史抄									
【授業の概要・目的】											
<p>今期は、日本中世史のうち、鎌倉時代、なかでもモンゴル襲来から鎌倉幕府の滅亡までを中心に、歴史研究の最前線でどのような議論がなされているか、という点も交えながら論ずる。</p>											
【到達目標】											
<p>鎌倉時代の政治史や社会史に関する認識を深めるとともに、歴史の転換期としての当該期の意義とその分析方法を理解する。 また、古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 後期鎌倉幕府政治史への展望 第2回 霜月騒動と平頼綱政権の始動 第3回 平頼綱政権と持明院統 第4回 平頼綱政権と『とはずがたり』 第5回 伏見天皇、あわや暗殺 第6回 平禅門の乱 第7回 北条貞時の集権化(1) 第8回 北条貞時の集権化(2) 第9回 北条貞時の集権化(3) 第10回 北条貞時の挫折 第11回 北条高時の誕生と嘉元の乱 第12回 得宗専制の敗北 第13回 北条高時の時代 第14回 鎌倉幕府の滅亡 第15回 まとめ(フィードバック)</p>											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解力があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>学期末に到達目標に即したレポート課題を提示し、その内容で成績評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき、100点満点で評価する。</p>											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

前もってプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行状況を確認のうえで予習を行い、授業後は、配布したプリントをもとに、復習を行うとともに、参考文献にも目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系14

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岩城 卓二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		鉄山・銅山の「ゴミ」から考える近世社会									
[授業の概要・目的]											
<p>近世の鉱山(金山・銀山・銅山・鉄山)は、副産物としてさまざまな不要なものを産み出していた。本授業では、こうした不要なものを「ゴミ」と捉え、「ゴミ」処分のあり方から、19世紀近世社会の特質を考えることを目的とする。とくに「ゴミ」処分の背景にある「扶助」という観点から近世がどのような社会であったのかを考えていく。</p>											
[到達目標]											
近世史研究に必要な史料読解能力と、歴史像を構築する手法を習得する。											
[授業計画と内容]											
<p>1, なぜ鉱山社会に注目するのか(2回) 2, 鉄山の「ゴミ」を考える(2回) 3, 銅山の「ゴミ」を考える - 銅山社会と下財 - (5回) 4, 銅山の「ゴミ」を考える - 「ゴミ」を拾う(3回) 5, 銅山の「ゴミ」を考える - 「ゴミ」と取締(2回) 6, まとめと総括(1回)</p> <p>*なお、上記のテーマ・回数・順番は、担当者の講義方針と受講者の理解状況、担当者の研究進捗状況・学界動向によって変更がありうる。 フィードバックの方法は別途連絡。</p>											
[履修要件]											
一定の漢文読解力を必要とする。											
[成績評価の方法・観点]											
授業の理解度を確かめる期末レポート											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に指示する史料の精読。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業中に指示する。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系15

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岩城 卓二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		郷宿の世界									
[授業の概要・目的]											
本講義では、江戸幕府の直轄領を支配する代官所において、代官所の御用を請負い、公事出入の「扱い」を担った郷宿の成立、仕事の内容、代官所役人・百姓との関係などについて講義し、御用請負人という支配の実務の専門家が誕生する歴史的意義を考える。											
[到達目標]											
近世史研究に必要な史料読解能力と、歴史像を構築する手法を習得する。											
[授業計画と内容]											
1, 幕府直轄領 - 代官 組合村 御用請負人(1回) 2, 天保六年郷宿議定を読む(2~4回) 3, 御定郷宿の成立(5~6回) 4, 村の郷宿(7~9回) 5, 郷宿の自立(10~12回) 6, 全国の郷宿(13~14回) 7, まとめ(15回) *なお、上記のテーマ・回数・順番は、担当者の講義方針と受講者の理解状況、担当者の研究進捗状況・学界動向によって変更がありうる。 フィードバックの方法は別途連絡。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
授業の理解度を確かめる期末レポート											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中指示する文献の精読、史料解釈											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系16

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		総合博物館 教授 岩崎 奈緒子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世後期の対外認識 9									
[授業の概要・目的]											
本多利明の著述を素材として、本多が通商・航海を重点として展開した経世論と世界認識との関わりを考究する。											
[到達目標]											
近世後期の経世論の特質を学び、江戸時代の対外関係の段階差に関する基本的事項を理解する。											
[授業計画と内容]											
以下の各項目について講述する。各項目には、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。											
1．研究史と本講義の視座【2週】											
2．「西域物語」を読む ヨーロッパ認識【2週】 アジア認識【2週】 日本認識【2週】											
3．「交易論」を読む 交易論の特質【2週】											
4．「経世秘策」を読む 経世論の特質【2週】 世界認識との関係【2週】											
4．フィードバック【1週】											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
学期末のレポート											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に予習・復習すべきポイントを指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系17

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		文化財と政治の近現代									
【授業の概要・目的】											
<p>(授業の概要・目的)</p> <p>2020年度はコロナ禍の影響で、授業内容を変更し、論文購読中心の授業となった。あらためて2021年度は、「文化財と政治」の問題を考える。現代の文化財は、富岡製糸場などの近代化遺産、「仁徳天皇陵古墳」の呼称で世界遺産登録された陵墓、「神武東遷」の日本遺産候補などの諸問題にみられるように、密接に政治と関わっている。</p> <p>明治初期の神仏分離と美術品の海外流出に続き、1880年代には「伝統文化」保存の政策の中で、フェノロサや岡倉天心の文化財保護の活動がはじまる。立憲制の形成とともに帝室博物館、東京美術学校、文化財をめぐるジャンル・等級・時代区分が成立する。この間、国民に開かれた国宝・史跡・名勝・博物館などの文化財と、皇室に秘匿された御物・陵墓・離宮などの私的な財産の二つの文化財の体系が成立する。そして20世紀には社会と深く関わり、アジア・太平洋戦争に至る。こうした日本の文化財のあり様を、近現代を通じて考えてゆきたい。</p>											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できる。「文化財と政治の近現代」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 天皇制と文化財 ・ 明治維新と桜 ・ 廃仏毀釈と文化財の破壊 ・ 古都奈良・京都の明治維新 ・ 1880年代の古社寺や旧跡の保存 ・ 明治維新と陵墓 ・ 正倉院御物の成立 ・ フェノロサ・岡倉天心の活動 ・ ポストン美術館と日本美術 ・ 臨時全国宝物調査、古社寺保存法 ・ 「日本美術史」と文化財保護 ・ 帝室博物館と古都奈良・京都 ・ 史蹟名勝天然記念物保存法と社会改良 ・ 戦後改革と「史実と神話」の峻別 ・ 世界遺産と陵墓問題 <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究』(校倉書房、1997年)

高木博志 『近代天皇制と古都』(岩波書店、2006年)

【授業外学修(予習・復習)等】

「文化財と政治の近現代」に関わる巡見を希望者で行う。

(その他(オフィスアワー等))

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系18

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古都奈良・京都の近代									
【授業の概要・目的】											
<p>明治維新から現代までの古都奈良・京都について考える。 古都奈良は、明治維新を通じて、「神武創業」の地としての神話的古代と、フェノロサ・岡倉天心によって発見されたギリシャに匹敵する歴史的古代の二重の意味を持つようになる。江戸時代まで田舎であった奈良が、三都・京都に匹敵する古都となり、20世紀には、修学旅行・観光の場となってゆくのは、ひとえに近現代における文化的・歴史的意味づけによるものであった。 古都京都は、平安遷都以来、天皇・朝廷を擁する都（みやこ）であったが、1869年の東京遷都をへて、1880年代には、近代化とともに、歴史都市として、「伝統」「日本文化」を打ち出してゆくこととなる。 二つの古都を比較する中で、日本近代における「伝統」の創造/連続について考えたい。</p>											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できる。「古都奈良・京都の近代」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。											
【授業計画と内容】											
(授業計画と内容)											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古都論の射程 ・ 明治維新と奈良 ・ フェノロサ・岡倉天心と日本美術史 ・ 帝室奈良博物館・帝室京都博物館 ・ 1900年パリ万国博覧会と奈良 ・ 神話的古代と奈良 ・ 洞部落の移転と天皇制 ・ 明治維新と京都 ・ 東京遷都と天皇制 ・ 1880年代の「旧慣」保存と京都 ・ 1895年、第4回内国勸業博覧会と平安遷都千百年記念祭 ・ 京都イメージと国風文化 ・ 京都イメージと桃山文化 ・ 古都奈良・京都と観光 ・ 世界史のなかの古都奈良・京都 											
以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

高木博志 『近代天皇制と古都』 (岩波書店、2006年)

【授業外学修(予習・復習)等】

「古都奈良・京都の近代」に関わる巡見を希望者で行う。

(その他(オフィスアワー等))

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系19

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 福家 崇洋			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本社会運動史									
【授業の概要・目的】											
<p>日本の社会運動史について講義を行う。時期は、明治期から敗戦後までである。本講義の目的は、近現代日本の社会運動に関する通史的な知識を提示することである。あわせて、日本史・日本思想史において社会運動とその思想が果たした役割を理解することを目指している。本講義への参加によって、日本近現代史をより複合的・重層的に捉える視点を育んでくれるとありがたい。</p>											
【到達目標】											
日本近現代史における社会運動の意義を理解し、基本的な知識を習得することができる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 自由民権運動 3 「初期社会主義」と労働運動 4 アジア主義と対外硬運動 5 2つの戦争と「大正デモクラシー」 6 コミンテルンの結成と日本社会主義運動 7 国家改造運動 8 無産政党と社会民主主義の形成 9 総力戦とクーデター未遂事件 10 満洲事変と「転向」 国家社会主義の台頭 11 昭和維新運動 テロと叛乱未遂 12 天皇機関説事件と宗教運動 13 反ファシズム統一戦線 14 占領下の民主化運動 15 まとめ <p>なお、授業の進行速度により内容に変更あり</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業中の小レポートと期末レポート、平常点等により総合的に判断する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回のテーマに関する事前学習や、興味を持ったテーマについて自ら掘り下げていく事後学習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系20

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都女子大学 教授 告井 幸男			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		氏族から見た日本古代史									
【授業の概要・目的】											
<p>律令制以前の倭国は、氏姓制を政治・経済・社会の基礎システムとして、その上に部民制・国造制などが構築・運用されていた。このシステムは当該期の研究に必須の分析対象であると同時に、律令制以降の様相の理解にも不可欠な考察対象である。当該期は同時代史料が僅少であるので、自然、律令制以降の史料にも慣れることが必要となってくる。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 氏姓制システムの基礎を理解する。 (2) 県主・国造・屯倉・伴造・部民等諸制度の関連を把握する。 (3) 史料の扱いに習熟する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について講述する。各項目の順序については、受講者の理解状況や内容の展開を考慮して前後する場合がある。</p> <p>第1回 スエツミミとチヌツミ（和泉古代史粗描） 第2回 茅渟県主と日根県主（和泉古代史素描） 第3回 玖珂耳と彦坐（山代の古代史） 第4回 カニハタと筒木（山背の古代史） 第5回 箭括麻多智と壬生麿（常陸国の成立） 第6回 天下立評（常陸国の確立） 第7回 ヲワケ臣と笠原（武蔵国の古代） 第8回 ムツカリと十二国造（武蔵国の古代） 第9回 多氏族と三輪氏族（古代河内） 第10回 三島県主と猪名県（摂津の古代） 第11回 シキツヒコと大神神社（古代ヤマト） 第12回 二つの国造（古代の西濃） 第13回 二つの国造（古代の遠江） 第14回 総括・補遺 第15回 達成度確認・フィードバック</p> <p>フィードバックの方法は授業中に説明する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートによる評価を行う。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

[教科書]

授業中に指示する
必要に応じてプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

吉川真司、広瀬和雄、山中章『講座 畿内の古代学』(雄山閣) ISBN:9784639025238

大和を歩く会『古代中世史の探求』(法蔵館) ISBN:4831875678

必要に応じて授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で言及した史料を実際に図書館などで見てみる。その他、授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系21

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都女子大学文学部 准教授 小原 嘉記			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中世南都寺院をめぐる政治と文化									
【授業の概要・目的】											
<p>中世は宗教の時代と呼ばれている。その中心にあったのは仏教であるが、南都仏教の中核に位置した興福寺・東大寺は中世初期に南都焼討ちによって壊滅的な被害を受けた。そこからの寺院の復興には、中世の日本仏教をめぐる動向が濃密に反映されているとともに、堂舎・伽藍の再建事業からは政治権力との関係や荘園制・知行国制に関する問題を窺い知ることができる。さらには南宋の建築様式や「禅教律」観など対外関係史についても目配りが必要となる。つまり南都寺院復興史というテーマには中世前期の政治・社会制度・文化を考究していくための興味深い論点が存在しているのである。本講義では特に東大寺大勧進職の問題を中心にして鎌倉期の南都寺院復興の推移を史料に基づいて考察したいと思う。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 中世前期の政治制度・社会経済・文化について理解し、説明することができる。 2 歴史の方法論や的確な史料解釈の方法を学び、応用することができる。 3 文献史料を用いた歴史的思考法を学び、身に着けることができる。 4 考察したことを適切にまとめて、論理的に表現することができる。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1、中世東大寺の形成【1～3週】 中世寺院の成立、平安期の修造体制、南都焼討ち 2、東大寺大勧進と史料【4～6週】 東大寺大勧進文書集、大勧進重源 3、栄西と行勇【7～9週】 栄西・行勇の事績 4、行勇没後の大勧進【10～14週】 通説の誤認、講堂・三面僧房の造営、別当定親 5、レポートとフィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末レポート(100%) 3000～4000字程度のレポートを提出してもらいます。											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
必要な文献は授業中に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

必要な先行研究等は授業で紹介するので、予習・復習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

初回授業時にメールアドレスを示すので、それで連絡すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系22

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 鍛治 宏介			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		書物文化から読み解く江戸時代									
【授業の概要・目的】											
<p>近年、江戸時代を書物の時代とみなして、その特性を明らかにする研究が盛んです。江戸時代には、三都や地方都市で、仏教書や医学書、儒学書などの学問の本のみならず、小説や往来物（教科書）、節用集（辞書）、まじない本、春画、錦絵、番付など、多種多様な出版物が刊行され、それらの書物、またそのなかの知識は、日本各地の村々に行き渡り、社会の発展に影響を与えていました。本講義では、江戸時代の書物文化について、これまでの研究や、江戸時代の多様な出版物を紹介しながら、書物を史料として江戸時代という時代を読み解いていきます。</p>											
【到達目標】											
<p>講義を通じて、書物の時代としての江戸時代の特色を把握すること、多角的に収集した史料を読解して時代を読み解いていく歴史学の手法を理解すること、また毎回の講義で紹介する史料のなかに広がる豊かな世界を知ること、講義の主たる目標とします。学生としての集大成である卒業論文を書くための知識と力を身につけてください。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の内容について講義します。ただし講義の進捗状況等により、順序や講義回数を変更することがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 書物の時代としての江戸時代とレポートについて 2 江戸時代の発展と書物の力 3 江戸時代の識字率は世界いちいいいい！！？ 4 まじない本と民俗知識 5 神の詫び状 6 おっばいの歴史 7 書物の作り方 8 判じ絵と江戸時代の常識 9 日用教養書と江戸時代の常識 10 七夕文化の広がりと手習い教育 11 近江八景と書物文化 12 江戸時代の天皇像の伝播と需要 13 隠岐の長者と長者番付 14 遊所祇園と芸者・遊女の一覧表 15 江戸時代と書物文化 											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中の発言・コメント紙回答30% レポート70%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

学期末のレポートが、一定以上の水準のものになるように、各自、興味をもった内容について、図書館やネットで、学術書や論文、史料を読んで、準備をしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

毎回の講義冒頭で前回の授業にだされたコメント用紙について20分ほどかけて回答を行う。面白い質問がでた場合、講義予定を変更して、その回答で一回分を費やす場合もある。毎回、振り返り20分、講義1時間、コメント記入10分を目安として授業を行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系23

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小林 准士			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		紛争からみた日本近世の宗教秩序									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義の目的は、仏教・神道・儒教などの諸教・諸宗が分立していた日本近世の宗教秩序とその動揺過程を紛争事例から明らかにすることにある。日本近世には葬祭を主に仏教寺院が担う一方、祈祷には種々の宗教者が関わるなど、宗教的社会関係には棲み分けと競合の側面が存在した。また諸教・諸宗の間にも共存と対立の両側面が指摘できる。本講義ではこれらの点を踏まえ、特に浄土真宗や日蓮宗などと神道・他宗との紛争事例を検討することで、近世社会における諸教・諸宗派間の秩序構造の解明に繋げる。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・日本近世において宗教が果たしていた基本的な役割について理解する。 ・日本近世における多様な宗教宗派間の相互関係について全体的な見通しを得られるようになる。 ・宗教秩序からみた日本近世社会の特徴について考察できる。 											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画に従って講義を進める。但し講義の進捗状況に対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 村・町における寺院と神社 第3回 仏教寺院と檀家 第4回 寺檀出入り(争論)と幕府法令 第5回 浄土真宗の余仏余神不帰依 第6回 真宗の宗風をめぐる紛争1 第7回 真宗の宗風をめぐる紛争2 第8回 日蓮宗の神祇不拝 第9回 日蓮宗僧と神社神職の争い 第10回 撰取と折伏 - 日蓮宗内の論争 - 第11回 論争書の出版と宗教秩序1 第12回 論争書の出版と宗教秩序2 第13回 近世における宗教的異端 第14回 聖俗分離の動揺 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<ul style="list-style-type: none"> ・小レポート(数回、全体で40点)、期末レポート(60点)により評価する。 ・レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。 											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

・ 4 回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

[教科書]

使用しない

教科書は使用しない。講義にあたってはプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

引野亨輔 『近世宗教世界における普遍と特殊：真宗信仰を素材として』（法蔵館,2007年）ISBN:9784831860378

澤 博勝 『近世宗教社会論』（吉川弘文館,2008年）ISBN:9784642034258

芹口真結子 『近世仏教の教説と教化』（法蔵館,2019年）ISBN:9784831860446

(関連URL)

<https://researchmap.jp/jkobayashi> (リサーチマップの情報です。)

[授業外学修(予習・復習)等]

日本近世史に関する概説書等を読んでおくことを勧める。

(その他(オフィスアワー等))

集中講義のためオフィスアワーは特に設けないので、質問等は各回の授業後に行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系24

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際日本文化研究センター 教授 Breen John			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代の天皇制と王権：日本・アジア・欧州									
【授業の概要・目的】											
この講義では、19世紀から21世紀の今までのやや長いスパンを取り、日本の天皇制・アジア・欧州の王権と近代社会との関係性を批判的に考察する。19世紀に創出された近代天皇制はいかなるものだったのか、その遺産はどこに見出すべきかを吟味し、同時代のアジア・欧州の王権も常に視野に入れておく。近代の天皇制・王権を考察するのに必要な概念（権力、儀礼、主権など）を紹介しつつ、天皇＝王の政治・外交・宗教・社会との葛藤に満ちた関係を探る。											
【到達目標】											
天皇制と欧州・アジアの王権を実証的に考察するとともに必要な概念や方法を学習する。さらにクリティカルな観点からの発表を行うスキルを身につけていく。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション：天皇制・王権を研究する 2 令和の皇位継承と21世紀の天皇論 3 前近代の天皇と王 4 フィールドワーク：京都御所 5 王政復古とは何なのか 6 明治天皇と欧州の君主たち 7 王権の俗性と聖性 8 フィールドワーク：伊勢神宮の空間的考察 9 王権と軍隊 10 近代の天皇・王と政治権力 11 王権と国民国家 12 立憲君主とは フィードバックについては、メールで質問を受ける。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業出席 10% 期間中課題 40% 期末テスト 0% 期末レポート 50%											
【教科書】											
授業中に指示する 適宜史料レジュメも配布する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

Breen 『儀礼と権力 天皇の明治維新』(平凡社) ISBN:9784582842319

[授業外学修(予習・復習)等]

各自、授業中に指示した関連文献や配布史料等に目を通しておくこと

(その他(オフィスアワー等))

- 1) メールでの質問、コメントなどを受け付けるし、メールで学生に連絡する
- 2) 現地見学を行うので、学生教育研究災害傷害保険に必ず加入しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系25

科目ナンバリング		U-LET23 36640 SJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(演習Ⅰ) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉川 真司			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本古代史総合演習									
【授業の概要・目的】											
<p>日本古代史に関する基礎的素養を身につけるため、(1)『続日本紀』の精読、(2)基本論文の選読、の二つのことを毎週行なう。</p> <p>『続日本紀』は六国史の第二にあたり、文武元年(697)～延暦十年(791)の歴史を記した書物である。政治・社会・文化に関するさまざまな記事が立てられ、奈良時代史のみならず日本前近代史の基本史料と言ってよい。本演習では毎週、輪読形式でその精読を行なう。それとともに、毎週一本ずつ日本古代史の基本論文を選読する。</p>											
【到達目標】											
日本古代史に関する基礎的知識と史料読解能力を得る。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション 日本古代史および『続日本紀』の概要を説明する。使用すべき辞書・工具書、および基本的な概説書・注釈書などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第29回：『続日本紀』の精読と基本論文の選読 『続日本紀』を天平十一年紀から精読し、内容について討論する。記事の内容と担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことはできないが、おおむね『新訂増補国史大系』の半ページ程度を読み進めることになる。調査が十分でなかった部分については、補足調査を課す。これに加え、毎週一本ずつ日本古代史の基本論文を選読する。出席者は論文を入手し、800字の要約文を作成して提出する。授業では各論文の視角・方法や研究史的意義などを解説する。</p> <p>第30回：まとめ 史料精読・論文選読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について討論する。切りのよいところまで読了できなかった場合、この回を補充に充てることもある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(40点)と年度末レポート(60点)による。											
----- 日本史学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

日本史学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

『新訂増補国史大系 続日本紀』（吉川弘文館）（前篇・後篇の2冊とも必ず購入すること）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・史料の次回読み進める部分を必ず読んでおく。
- ・論文を読み、800字要約を作成する。意見・質問を付加することが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類
実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

歴史基礎文化学系26

科目ナンバリング		U-LET23 36640 SJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(演習Ⅰ) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上島 享			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本中世史総合演習									
【授業の概要・目的】											
<p>日本中世史に関する基礎的知識と史料読解能力を身につけるため、 中世荘園史料の精読 基本論文の講読 を行う。</p> <p>では、丹波国大山荘の史料（『兵庫県史』所収）をとりあげ、一字一句を正確に解釈するとともに、その背景にある政治・社会・文化に関する基礎知識を身につけることを目的とする。</p> <p>では、最新の研究成果を含めて、日本中世史の重要論文を精選し、その論点を整理し、研究上の意義や課題について議論を行う。</p>											
【到達目標】											
日本中世史に関する基礎的知識と史料読解能力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 丹波国大山荘およびその史料に関する概要を説明する。また、使用すべき辞書や参考書を紹介し、今後の授業の進め方と発表の方法を周知したうえで、受講生の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第29回 丹波国大山荘史料の精読と基本論文の講読 毎回、数通の文書を精読する。担当者はレジュメを作成し、史料を解釈するとともに、当該史料が発給された政治・社会・文化的背景を考察する。また、基本論文の講読では、レジュメに内容を要約し、研究史上の意義と課題を明示する。授業では、担当者の発表にもとづき、参加者全員で議論を深めることとする。</p> <p>第30回 まとめ 史料精読、論文講読の成果をまとめ、今後の課題を討論する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（40点）と年度末レポート（60点）による。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 日本史学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

日本史学(演習Ⅰ)(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・史料を精読し、解釈した上で、授業にのぞむこと。
- ・論文を熟読し、成果と課題を考察した上で、授業にのぞむこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系27

科目ナンバリング		U-LET23 36640 SJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(演習Ⅰ) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 三宅 正浩			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	水1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		近世の史料(「池田光政日記」)を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>近世(概ね16世紀末~19世紀前半)の一般的な史料の読解方法と、史料から歴史を考察する方法や視点を学ぶ。具体的には、近世前期の大名である池田光政(備前岡山31.5万石)の記した日記を取り上げるが、近世の多くの史料に応用しうる視角と方法論を学ぶことになる。</p> <p>史料の文脈を把握し、登場人物や事項を調査し、当該時期の時代状況をふまえつつ、史料を正確に読解できるようにする。加えて、近世国家や社会のしくみについての基礎的理解を深める。なお、テキストは活字史料を用いるが、原文書との対照作業も合わせて行う。</p>											
【到達目標】											
<p>近世史料の読解、人物や地名、歴史用語などの調べ方についての基本的な技術を習得する。また、幕藩関係や藩の政治組織のあり方を中心に、近世国家・社会についての理解を深め、歴史分析の方法についてさまざまな示唆を得る。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回目 導入 史料の概要、報告の仕方、関連資料について説明する。</p> <p>第2回目~29回目 報告と討議 受講者が、あらかじめ担当部分を調べてきて報告し、討議する。</p> <p>第30回目 まとめ 成果をまとめ、残された課題や疑問点について確認する。</p> <p>初回の授業で担当を決め、予習方法などについて説明するので必ず出席すること。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(授業での分担部分の個人報告、討議への参加度、提出物、レポートを総合して評価)で評価する。											
----- 日本史学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

日本史学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

使用しない

使用する史料は授業中に配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中、特に第1回目に詳しく説明する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系28

科目ナンバリング		U-LET23 36640 SJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(演習Ⅰ) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 谷川 穣			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		近代日本の地域史料を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>一般の書店では売られていないものの、都道府県・市町村が編纂・刊行している、いわゆる自治体史というものが世の中には大量に存在している。地域の歴史を丹念に追い、また個人宅や公民館・寺社などに眠っていた史料を掘り起こし、中央の「大文字の歴史」ではない歴史のリアリティを示してくれるものも数多い。本演習では、そこに含まれる近代の地域史料（主に明治期）の輪読とそれに関わる発表をつうじて、近代日本の形成と展開の諸相を考察・討議すること、史料を正確に読むとともに関連史料の探索という基礎的技量を高めること、史料に基づく実証的な歴史研究の能力を涵養すること、などを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>史料を「読解」する能力（ただ字面を正確に読む、だけではない）を高めるとともに、関連する多様なレベルの史料や研究文献を積極的に探索する。近代日本の歴史を「中央の視点」ではなく、また「地域の視点」をそれと対立的にみるのでもなく、むしろ重層的に構造を捉えることで、各自の問題意識を深められるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回はガイダンスと出席者の担当史料の決定。発表は単位取得の絶対条件であり、したがって担当箇所を決める初回の出席は必須となる。 第2回～第30回は各自の発表にあてる予定である。 なお出席者の状況を勘案し、発表の進め方の検討や、原文書を含む新たな地域史料の追加・読解、研究文献の選読なども適宜行う。</p>											
【履修要件】											
日本近代史の通史的知識をある程度備えておくこと。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（発表と、議論への積極的参加。50%）、およびレポート（50%）。 レポートにおいては、史料の正確な読みと先行研究の探索を踏まえて、自らの見解を論理的、ないし歴史学的手法に即して実証的に論じることができているかを評価基準とする。</p>											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 日本史学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

日本史学(演習Ⅰ)(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

受講生が各自独力で考え実践すべきことだが、授業で得た断片的知識を立体的・有機的につなげるよう、日本近代史に関する通史的著作や学術的研究成果に親しむこと。

(その他(オフィスアワー等))

演習授業は学部生にとって学修の軸となるものであり、基本的に全て出席することを前提としています。無断欠席等についての扱いは授業初回に申し伝えます。

討議の場では、史料に基づいた丁寧な問い、根源的な問いを積極的に発することが求められます。十分な予習をもとに、拙くとも多くのクエスチョンを携えて出席すること。何の疑問も持たずに史料をなぞる、あるいは先行研究を鵜呑みにする「素直さ」からは脱却されますように。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系29

科目ナンバリング		U-LET23 46642 SJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(演習II) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉川 真司 文学研究科 教授 上島 享 文学研究科 教授 谷川 穰 文学研究科 准教授 三宅 正浩			
配当 学年	4回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	木1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本史上の諸問題									
[授業の概要・目的]											
卒業論文の提出予定者全員が、論文の構想や研究内容を発表し、学史を踏まえたテーマ設定、史料の調査・分析、立論や論述などについて、基本的な方法を修得する。											
[到達目標]											
独自の史料分析と学史理解に立脚した、優れた卒業論文を作成する。											
[授業計画と内容]											
4～5月には論文のテーマを考え、先行研究や論拠とされた基本史料について調査する。7月には第1回の中間発表を行なう。先行研究の到達点と問題点を把握し、研究課題を明確にすることが発表の最低ラインであるが、史料の調査・読解を独自に進めていることが望まれる。10月には第2回の中間発表を行なう。史料の分析を深め、独自の論点を見出し、論文の骨格を見定めていることが求められる。											
第1回 卒業論文作成にあたっての概要説明 第2回 希望テーマの提出 第3～4回 各自のテーマの内容・研究史・史料などについての発表 第5～15回 各自の研究内容の中間発表(7月に集中形式で行なう) 第16～29回 各自の研究内容の発表(10月に集中形式で行なう) 第30回 論文執筆要領の説明											
[履修要件]											
今年度卒業論文提出を予定する者は、全員かならず受講すること(昨年度提出せず、留年した場合にも、再度の履修が必要)。											
[成績評価の方法・観点]											
中間発表と卒業論文の総合評価による。											
[教科書]											
使用しない											
----- 日本史学(演習II)(2)へ続く -----											

日本史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

先行研究を読破・整理するとともに、さまざまな史料を調査・分析した内容をまとめて中間報告を行ない、最終的に卒業論文に結実させる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系30

科目ナンバリング		U-LET23 26646 SJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(基礎演習) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉川 真司 文学研究科 教授 上島 享 文学研究科 教授 谷川 穰 文学研究科 准教授 三宅 正浩			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	木5	授業 形態	基礎演習	使用 言語	日本語
題目		日本史の古代から近代まで									
[授業の概要・目的]											
日本史研究の基本となる論文を精読し、それぞれの内容について全員で討論する。古代・中世・近世・近代の各時代に関する基本的知識を培うとともに、研究の動向やその到達点・課題を理解することを目的とする。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・日本史の各時代に関する基本的知識を身につける。 ・日本史研究の動向を把握し、到達点と課題を理解する。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回：イントロダクション 授業の進め方と準備・発表の方法を周知し、全員の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第29回：論文精読と議論 毎回2編ずつの論文を精読する。発表担当者はレジュメを作成して、論文の要旨および意見・疑問点などを報告する。他の出席者も必ず論文を読み、意見・疑問点をまとめてくる。その上で各論文について全員で討論する。</p> <p>第30回：まとめ</p>											
[履修要件]											
できる限り2回生時に履修すること。											
[成績評価の方法・観点]											
<p>平常点評価を行なう。 その際には準備・参加状況(50点)、担当回の報告内容(20点)、討論の参加状況(30点)を組み合わせる。 なお、古代・中世・近世・近現代のすべての時代の授業に出席していることを要件とする。</p>											
[教科書]											
<p>使用しない テキストとなる論文は、前もって配布する。</p>											
----- 日本史学(基礎演習)(2)へ続く -----											

日本史学(基礎演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

論文の末尾などに示された参考文献を参照すること。

[授業外学修(予習・復習)等]

各回取り上げる論文を必ず読み、意見・疑問点をまとめる。また、参考文献として挙げられた先行研究も併せ読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系31

科目ナンバリング		U-LET23 26650 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(講読) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 笹川 尚紀			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		平安時代政治社会史史料									
【授業の概要・目的】											
<p>竹内理三編『平安遺文』に収められた古文書を精読し、古代の日本人が書いた漢文史料の解釈法を学ぶ。</p> <p>『平安遺文』は、平安時代の古文書などを年代順に編集した史料集である。本講読では、同書に収められた古文書のうち、担当教員が選択したものを読み進めていく。担当者は、割りあてられた古文書の読み下し・現代語訳・語句説明・考察などをおこなう。</p>											
【到達目標】											
日本史の基礎史料の読解力、ならびに基本的な研究方法を修得する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション 講読でとりあげる史料の概要を説明する。また、使用すべき辞書・工具書、および基本的な概説書などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。そのうえで、各出席者の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第29回：『平安遺文』の精読 『平安遺文』から担当教員が選択した古文書を精読し、内容について討議をおこなう。史料の内容と担当者の読解力によって、進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことはできないが、一人2回は報告できるようにする。担当者は、割りあてられた部分について、くわしく調べ発表する。</p> <p>第30回 まとめ 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について、全員で議論する。切りのよいところまで読了できなかった場合、この回を補充にあてることもある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価とする。割合は発表が70%、授業中の発言・応答が30%。担当箇所を決めるため、初回の出席が必須となる。											
----- 日本史学(講読)(2)へ続く -----											

日本史学(講読)(2)

[教科書]

使用しない
複写して配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

次回読み進めるものを必ず精読しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系32

科目ナンバリング		U-LET23 26650 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(講読) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 木土 博成			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		江戸時代の朝鮮人来聘記、および建議書を読む									
【授業の概要・目的】											
江戸時代に朝鮮通信使が日本を訪れた際、日本国内の武士や学者は通信使について見聞きしたことを記録に残した。なかでも、淀藩士の渡辺善右衛門が著した「朝鮮人来聘記」はもっとも詳細な部類に属し、これを精読することで史料の基本的な扱いを学ぶとともに、江戸時代の人の朝鮮認識や、武家の思考回路の一端に触れる。また、もう一種のテキストとして、建白書を取り上げる予定である。いわゆる正徳の治を担った新井白石の建議書や、寛政の改革を批判した植崎九八郎の上書を素材に、江戸時代の貨幣経済や「役」の仕組みを学ぶとともに、理想とされたあり方と現実のギャップについても理解を深める。											
【到達目標】											
テキストを一字一句正確に読解する能力を身につけるとともに、関連する触や記録・日記などの多様な関連史料を探索し、それらと付き合わせ、近世日本の歴史を立体的に捉えるという研究の基本姿勢を習得する。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 「朝鮮人来聘記」「白石建議」「植崎九八郎上書」の概要を説明する。また、近世史において使用すべき辞書・基本的な概説書・注釈書などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。											
第2回～第29回 「朝鮮人来聘記」「白石建議」「植崎九八郎上書」の精読 テキストを精読し、内容について討論する。記事の内容と担当者の習熟度・参加人数によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことはできないが、1人2回は報告できるよう読み進めていく。											
第30回 まとめ 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。切りのよいところまで読できなかった場合、この回を補充に充てることもある。											
フィードバックは、講読という形態の特徴から、基本的に毎回の授業の討論・指導の中で行われるものであるが、適宜、古文書閲覧室（文学部陳列館）にて受け付ける。											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(講読)(2)へ続く -----											

日本史学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価（授業中の応答が30%、発表が70%）。とくに重要視される発表は単位取得の絶対条件であり、したがって担当箇所を決める初回の出席は必須である。

[教科書]

授業中に指示する
テキストはコピーして配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

発表予定者以外にも、授業中に指示して回答を求めらるので、毎回該当箇所を精読してくる。辞書・人名辞典・年表などを傍らにおき、語句・文意・背景などを各自がきちんと事前に調べつつ史料に向き合うこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系33

科目ナンバリング		U-LET23 36660 PJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(実習) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 三宅 正浩 文学研究科 助教 木土 博成			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3,4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		近世の古文書(初級)									
【授業の概要・目的】											
古文書を正確に読解するとともに、それを適切に扱う能力は、日本史を研究する上での基礎的な素養といってよい。本授業では、京都大学総合博物館所蔵の近世の史料を解読することを通して、くずし字を正確に読み取り、記載内容を理解する力を養成するとともに、近世文書の種類や性格を理解し、近世文書を適切に扱う技能を獲得することを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・くずし字を正確に読解し、記載内容を理解する能力を習得する。 ・近世文書を適切に扱う技能を獲得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 対象とする文書の性格、使用すべき辞書・参考書を紹介した上で、授業の進め方を周知する。</p> <p>第2～14回 京都大学総合博物館所蔵の近世文書の解読 主に教員2名とティーチングアシスタント1名により、マンツーマン方式で指導する。</p> <p>第15回 総括と期末試験</p>											
【履修要件】											
原則として日本史学専修に在籍する学生を対象とする。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(50%)と実習終了時に行う試験(50%)で総合的に判断する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する。『くずし字解読辞典』『くずし字用例辞典』などは各自で用意すること。											
----- 日本史学(実習)(2)へ続く -----											

日本史学(実習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業での指示に従い、近世文書に関する知識を自学すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

歴史基礎文化学系34

科目ナンバリング		U-LET23 36660 PJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(実習) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 三宅 正浩 文学研究科 助教 木土 博成			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3,4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		近世の古文書(中級)									
【授業の概要・目的】											
古文書を正確に読解するとともに、それを適切に扱う能力は、日本史を研究する上での基礎的な素養といってよい。本授業では、京都大学総合博物館所蔵の近世の史料を熟覧・解読することを通して、くずし字を正確に解読し、記載内容を理解する力を高めるとともに、近世文書の特徴についてさらに理解を深め、近世文書を適切に扱う技能に熟達することを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・くずし字を正確に読解し、記載内容を理解する能力を向上させる。 ・近世文書の特徴について理解を深める。 ・近世文書を適切に扱う技能をより高める。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨN 対象とする文書の性格、使用すべき辞書・参考書を紹介した上で、授業の進め方を周知する。</p> <p>第2～14回 京都大学総合博物館所蔵の近世文書の解読 主に教員2名、ティーチングアシスタント1名により、マンツーマン方式で指導する。</p> <p>第15回 総括と期末試験</p>											
【履修要件】											
原則として日本史学専修に在籍する学生を対象とする。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(50%)と実習終了時に行う試験(50%)で総合的に判断する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 日本史学(実習)(2)へ続く -----											

日本史学(実習)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する。『くずし字解読辞典』『くずし字用例辞典』などは各自で用意すること。

[授業外学修(予習・復習)等]

授業での指示に従い、近世文書に関する知識を自学すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

歴史基礎文化学系35

科目ナンバリング		U-LET23 36660 PJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(実習) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 助教		上島 享 木土 博成	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3,4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		古代・中世の古文書（初級）									
【授業の概要・目的】											
古文書を正確に読解するとともに、それを適切に扱う能力は、日本史を研究する上での基礎的な素養といってよい。本授業では、京都大学総合博物館所蔵の古代・中世文書を熟覧・解読することを通して、くずし字を正確に解読し、記載内容を理解する力を養成するとともに、古文書学の基礎的な知識及び考え方を身につけ、古代・中世文書を適切に扱う技能を獲得することを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・くずし字を正確に読解し、記載内容を理解する能力を習得する。 ・古文書学の基礎的な知識及び考え方を習得する。 ・古代・中世文書を適切に扱う技能を獲得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 古代・中世文書の扱い方の基本を説明し、使用すべき辞書・参考書を紹介した上で、授業の進め方を周知する。</p> <p>第2～14回 京都大学総合博物館所蔵の古代・中世文書の解読 東大寺、宝積寺、淡輪、畑田、西山地蔵院、松尾月読社、祇園社などの文書を順次とりあげ、教員2名、ティーチングアシスタント1名がマンツーマン方式で指導する。</p> <p>第15回 総括と期末試験</p>											
【履修要件】											
日本史学専修の学生を対象としたものである。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（50％）と実習終了時に行う試験（50％）を総合的に判断する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 日本史学(実習)(2)へ続く -----											

日本史学(実習)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

『くずし字解読辞典』 『くずし字用例辞典』などは各自で用意すること。

[授業外学修(予習・復習)等]

・授業での指示に従い、古文書学についての知識を自学すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

歴史基礎文化学系36

科目ナンバリング		U-LET23 36660 PJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(実習) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 助教		上島 享 木土 博成	
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3,4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		古代・中世の古文書(中級)									
【授業の概要・目的】											
<p>古文書を正確に読解するとともに、それを適切に扱う能力は、日本史を研究する上での基礎的な素養といってよい。本授業では、「古代・中世の古文書(初級)」の受講済の学生を対象として、初級で養った能力を向上させることを目的とする。具体的には、京都大学総合博物館所蔵の古代・中世文書を熟覧・解読することを通して、くずし字を正確に解読し、記載内容を理解する力を高めるとともに、古文書学のより深い知識及び考え方を身につけ、古代・中世文書を適切に扱う技能を磨くことを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・くずし字を正確に読解し、記載内容を理解する能力を高める。 ・古文書学の深い知識及び考え方を習得する。 ・古代・中世文書を適切に扱う技能を獲得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション 使用すべき辞書・参考書を紹介した上で、授業の進め方を周知する。 第2～14回 京都大学総合博物館所蔵の古代・中世文書の解読 東大寺、宝積寺、淡輪、畑田、西山地蔵院、松尾月読社、祇園社などの文書を順次とりあげ、教員2名、ティーチングアシスタント1名がマンツーマン方式で指導する。 第15回 総括と期末試験</p>											
【履修要件】											
<p>日本史学専修の学生を対象としたものである。 「古代・中世の古文書(初級)」の受講済の学生を対象とする。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点(50%)と実習終了時に行う試験(50%)を総合的に判断する。</p>											
【教科書】											
<p>使用しない</p>											
----- 日本史学(実習)(2)へ続く -----											

日本史学(実習)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

『くずし字解読辞典』 『くずし字用例辞典』などは各自で用意すること。

[授業外学修(予習・復習)等]

・授業での指示に従い、古文書学についての知識を自学すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

歴史基礎文化学系37

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		孔子とその時代									
[授業の概要・目的]											
孔子伝復元の試みには、今日に至るまで膨大な蓄積があるが、実のところ『史記』孔子世家の記述を恣意的に取捨選択するものであったに過ぎない。これらの研究は先秦時代の歴史の実態および『史記』の編纂上の特徴に対する理解が決定的に不十分であった。このような批判的視点に立ちつつ、春秋時代後期の歴史を概観し、『史記』孔子世家を解析することで、孔子伝復元の可能性を追求する。											
[到達目標]											
先秦史研究の最新成果、歴史学研究の基本的な方法論、歴史資料の運用法についての知見を獲得する。											
[授業計画と内容]											
以下の項目を逐次講ずる 第1回 序論 第2回～第4回 前半生(551-505BC) 第5回 陽虎専権(505-501BC) 第6回～第7回 短期間の政治的成功(501-498BC) 第8回～第10回 諸国遍歴(497-484BC) 第11回～第13回 晩年(484-479BC) 第14回～第15回 結論 *フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
講義の感想を中心とする毎回の小レポート(30点)と期末レポート(70点)に基づき総合的に評価する。											
[教科書]											
講義資料は担当者が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に別途指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系38

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		春秋戦国交代期の国家と社会									
[授業の概要・目的]											
先秦期の通時的理解を試みる際に困難となるのが、西周・春秋および春秋・戦国交代期の史料が乏しいことである。春秋・戦国交代期、『左傳』の編年的記述の終了(468BC)から商君変法の開始(361BC)に至るほぼ百年間については十分な共通認識が獲得されていない。このような批判的視点に立ちつつ、文献および出土史料を駆使することで、前5～前4世紀の政治社会史的推移を復元し、その歴史的意味を考える。											
[到達目標]											
先秦史研究の最新の知見、および中国古代文献の批判的分析の方法論を習得する。											
[授業計画と内容]											
以下の項目を逐次論ずる。 第1回～第2回 序論 第3回～第4回 趙襄子(475-425BC) 第5回～第6回 魏文侯(445-396BC) 第7回～第8回 魏武侯(395-370BC) 第9回～第12回 魏恵王(369-319BC) 第13回～第15回 結論 *フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
講義の感想を中心とする毎回の小レポート(30点)と期末レポート(70点)に基づき総合的に評価する。											
[教科書]											
講義資料は担当者が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に別途指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		1 6世紀後半のポルトガル領インド									
[授業の概要・目的]											
<p>本授業では、長年インドに滞在した経験を有する史官ディオゴ・デ・コウトの『アジア史十巻書』8, 9, 10を読解する。本書の記述のほとんどはマラッカより西に割かれている。中国・日本にもポルトガル人は16世紀前半にすでに来航しており、世紀後半のマカオへの定着、長崎を起点とした活動はよく知られていようが、そうした記述は本書にはほとんど見られない。したがって、中国・日本史に関心を有する人には、あまり関心は持てないだろうし、じっさい本書の日本における認知度はきわめて低い。しかし、中国・日本にやってきたポルトガル人があとにしたインド洋世界を知るためには本書の価値はやはり高い、というべきである。本書の解読を通じて、東アフリカからモルッカ諸島に及ぶポルトガル人と現地勢力の交渉を俯瞰したい。</p>											
[到達目標]											
<ol style="list-style-type: none"> 1、16世紀後半のインド洋世界を俯瞰する視野が得られる。 2、ヨーロッパの歴史記述の型の一つに馴染むことができる。 											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1、本授業の位置づけ 2、コウトによる『アジア史』シリーズの概観 3、デカダ8その1、ムガルの南進 4、その2、ペグーとセイロン 5、その3、デカン情勢 6、その4、アチェ対マラッカ 7、デカダ9その1、モルッカ諸島 8、その2、モノモタパ遠征 9、デカダ10その1、フェリペのポルトガル王即位 9、その2、ペルシアとトルコ 10、その3、紅海、アラビア半島 11、その4、ムガルとの対峙 12、その5、ジョホール包囲 13、その6、セイロン 14、まとめ 15、フィードバック 											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポートによる評価。レポートはこの授業で紹介する史料ないし研究にもとづいて作成してもらう。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で指示した参考文献を読むことで、授業内容を確認すると同時に疑問点を見つけ出し、次回の受講に備えること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系40

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		アジュダ文書を通じてみた1630年代のマカオ・中国・日本									
【授業の概要・目的】											
<p>1630年代は、日本は鎖国に向かい、中国は王朝崩落への道を歩みつつあった。その日本と中国を交易・信仰でつなぐことを生命線としてきたマカオにとってはクリティカルな時期であった。現在アジュダ図書館には、かつてマカオのイエズス会が保存していた文書の写しが存在し、17世紀のマカオを知るうえで貴重な史料源となっている。この授業では、アジュダ文書を通じてマカオとイエズス会のサバイバルへの営為をみてゆく。</p>											
【到達目標】											
<p>1、イエズス会史料の性格について知ることができる 2、極東のハブとしてのマカオの多面的な姿を知ることができる</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1、導入。マカオとアジュダ文書 2、司教の蔵書 3、中国宣教師の出版 4、托鉢修道会 5、托鉢修道会とイエズス会の対立 6、1632, 33年の殉教 7、マテウス・デ・コウロス神父 8、1634, 35年の殉教 9、中国布教(1) 10、中国布教(2) 11、中国布教(3) 12、日本人神父 13、マルチェロ・マストリリ神父 14、まとめ 15、フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートで評価する。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で紹介する参考文献を読むことによって、問題点を確認するとともに次週の授業に備える。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系41

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東アジアとオリンピック									
【授業の概要・目的】											
<p>このシラバスを書いている時点で、2021年夏に東京オリンピックが開かれるかどうかはまだ決まっていない。いずれにせよ、21世紀までにオリンピックが全世界の関心を集める巨大イベントとなったことは事実であり、かつまたポストコロナになんらかの変容を強いられることもまた間違いないだろう。</p> <p>では、この巨大イベントは東アジアにどのようなインパクトをもたらしてきたのか、また東アジアはオリンピックにいかなる影響を及ぼしてきたのか。</p> <p>以上の問題意識にもとづき、本講義では、戦前から現在にいたる、東アジアとオリンピックの関係を論じる。</p>											
【到達目標】											
<p>オリンピックにはさまざまな見方がある。その場の熱狂を通して、あるいはスポーツの世界のイベントとして見る人がほとんどだろうが、これほど大きなイベントだけに、その影響は政治、経済、社会、文化など各方面にわたる。オリンピックは現代社会の縮図となっている。本講義では、オリンピックを、とくに東アジアとの関係に即して歴史的に考察するが、それによって東アジアの近現代史を通観し、現在東アジアがかかえる諸問題に対する歴史的な視座を獲得することができるだろう。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 戦前の東アジアとオリンピック 2. オリンピックとアジア大会 3. 「二つの中国」問題 4. 東アジアのスポーツ交流 5. アジアスポーツ界の政治化 6. 北朝鮮の包摂 7. 卓球と中国 8. 中国のアジア大会参加 9. アジア大会の危機と日本の孤立 10. 中国のオリンピック復帰 11. モスクワオリンピックボイコット 12. 名古屋五輪とソウル五輪 13. アジアスポーツ界の再編 14. 台湾の再包摂 15. 東アジア大会の挫折 											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業のコメントと小レポート(60点)、学期末レポート(40点)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

高嶋航 『帝国日本とスポーツ』(塙書房) ISBN:9784827312539

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する参考書や論文に目を通すこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系42

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		満洲とスポーツ									
【授業の概要・目的】											
<p>満洲（現在の中国東北地区）は、これまでスポーツ研究では看過されてきた地域である。しかし、満洲は日本を考えるうえでも、中国を考えるうえでも、さらには東アジアを考えるうえでも重要な地域である。なぜならそこでは、日本（朝鮮を含む）と中国が併存し、対立し、混交するなかでスポーツが発達してきたからである。</p> <p>本講義では、日本、中国、朝鮮の状況を踏まえつつ、戦前および戦時中の満洲におけるスポーツの概要と、個別の興味深い問題について論じる。</p>											
【到達目標】											
<p>東アジアでは、北京（2008）、平昌（2018）、東京（2020）、北京（2022）とオリンピックが立て続けに開かれている。スポーツの世界で東アジアのプレゼンスが高まるなかで、東アジアのスポーツの歴史を理解することは、スポーツを通じてよりよい東アジアを築き上げる基礎となる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 満洲におけるスポーツの始まり 2. 満鉄とスポーツ 3. 満洲と野球 4. 満洲と甲子園 5. インドアベースボールと東アジア 6. 大連YMCAと「文明化の使命」 7. 満洲スポーツの父、岡部平太 8. 満洲とスケート 9. 満洲の軍隊とスポーツ 10. 満洲の中国人スポーツ 11. 満洲における日中スポーツ交流 12. 満洲と明治神宮大会 13. 満洲国とスポーツ 14. 戦争とスポーツ 15. フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業のコメント、小テスト(60点)、期末レポート(40点)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

高嶋航 『帝国日本とスポーツ』(塙書房,2012) ISBN:4827312532

高嶋航 『国家とスポーツ:岡部平太』(KADOKAWA,2020) ISBN:4044004943

高嶋航、金誠 『帝国日本と越境するアスリート』(塙書房,2020)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する参考書、論文に目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系43

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 箱田 恵子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代中国と仲裁裁判制度									
【授業の概要・目的】											
この講義では、清末中国における近代国際関係の受容に関し、とくに仲裁裁判の受容について解説する。いくつかの外交交渉を取り上げて、清末中国の対外関係を概観するとともに、とくに交渉における清朝側の国際法や仲裁裁判制度に対する認識・態度を中心に講義する。それにより、19世紀から20世紀初めにかけて発展してきた仲裁裁判制度を中国がどのように認識し受容したのか、仲裁裁判制度が中国を取り巻く国際関係にどのような影響を与えたのかを検討する。また、あわせて中国の仲裁裁判に対する態度を近代日本とも比較しながら検討し、現在の中国外交の特質を考える手がかりとする。											
【到達目標】											
受講生はまず、清末中国をめぐる国際関係を理解し、さらに近代に発達した仲裁裁判制度が中国と日本をはじめとする諸外国との外交関係にいかなる影響を与えたかについて学ぶことで、近代中国と諸外国との関係をより広い視野から理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1.近代における仲裁裁判制度の発展 2.東アジアの伝統的国際秩序 3.清朝の対外体制の変化と国際法の受容 4.華工虐待事件をめぐる対スペイン交渉 5.台湾出兵 6.琉球処分 7.清仏戦争 8.日清戦争と下関講和会議 9.清末中国の新聞雑誌にみる仲裁裁判観 10.20世紀初めにおける中国をめぐる国際関係の変化 11.2度のハーグ平和会議と中国 12.第二辰丸事件 13.満洲6懸案をめぐる日清交渉 14.マカオをめぐる対ポルトガル交渉 15.フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への参加状況（20点）、学期末のレポート（80点）で成績を評価する。
レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない
毎回資料を配付する。

[参考書等]

（参考書）
岡本隆司・箱田恵子編 『ハンドブック近代中国外交史』（ミネルヴァ書房，2019年）
このほか、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書の関連項目を事前に読むなどして、授業で扱う外交交渉に関する基礎知識をもって授業に臨むようにしてください。

（その他（オフィスアワー等））

現在の中国や日本にも関わる問題なので、参考文献を読むだけでなく、ニュース報道などにも注意してみてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系44

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 城山 智子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代中国の対外経済									
[授業の概要・目的]											
19世紀前半の五港開港以降、中国はそれまでの互市・朝貢とは異なる制度的枠組みの下で、世界経済とより緊密に結びつくこととなった。本講義では、それ以後20世紀半ばに至る百年余りの時期を中心に、中国をめぐるモノ・ヒト・カネの動きと、それを担った人々・組織を取り上げる。ローカルな取引に着目しつつ、アジア域内・外との関係から、中国経済に考察を加えることで、現地・国家・地域が交差する多元的な歴史像を探求する。											
[到達目標]											
1980年代の「アジア交易圏論」以来、日本の学界で蓄積されてきた19世紀前後のアジア地域経済に関する議論や、国際的なグローバル経済史研究を踏まえて、中国の社会経済について、長期的な比較史・関係史から考える視座を獲得する。中国海関資料や僑批（華僑の手紙・為替送金証明書）、銀行文書など、関係するデータや史料についても、理解を深める。											
[授業計画と内容]											
本講義は、主に以下4つのパートから構成される。 1、「長期の19世紀」と開港 2、貿易動向 3、出稼ぎ・移民 4、銀をめぐる問題											
[履修要件]											
歴史関係の科目を履修していることが望ましい。また、世界史・日本史の基本的な史実（高校レベル）については、習得していることを前提としている。											
[成績評価の方法・観点]											
学期末のレポート試験によって成績を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する 教材は当方で用意し配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業中に指示する参考書や論文に目を通すこと。 （その他（オフィスアワー等）） オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系45

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 辻 正博			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		隋唐王朝の国制 概観と淵源									
【授業の概要・目的】											
<p>古代日本にも多様な形で影響を与えた隋唐王朝の国制（統治機構）については、これまで膨大な研究の蓄積がある。この講義では、北朝末から唐代前期までの政治制度について、政治史の動向にも目を配りつつ、概観する。ともすれば、静的なイメージで捉えられがちなこの時代の政治制度が、大きな変貌を遂げていることを改めて認識していただければと思う。</p>											
【到達目標】											
<p>古代日本の「律令制」に大きな影響を与えた隋唐時代の国制について、その背景となった政治動向を踏まえ、総合的に理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について、おおむね2週を目途に講義を進める。 なお、初回授業（ガイダンス）時に、学期の授業計画および講義で必要される諸事項について説明を行うので、必ず出席すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．隋唐王朝の成立事情と国制 <ol style="list-style-type: none"> (1) 周隋革命と開皇の国制 (2) 唐王朝の成立事情と唐初の国制 2．隋唐王朝の国制 <ol style="list-style-type: none"> (1) 官制 (2) 法制 (3) 礼制 (4) 税制・役制 (5) 軍制 3．まとめとフィードバック 											
【履修要件】											
<p>中国史に関する概説的知識を身につけていること（事前に、概説書を一読しておくこと）。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末レポートの成績による。（100%） レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。 よく工夫のなされているレポート・独自の観点を提示したレポートに対して、高い評価を与えます。「剽窃」については、「試験における不正行為」と見なし、厳正に対処します。</p>											
【教科書】											
<p>使用しない</p>											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

富谷至・森田憲司編 『概説中国史(上):古代 中世』(昭和堂) ISBN:978-4812215166
適宜プリントを配布する。

[授業外学修(予習・復習)等]

中国史に関する概説書(「参考書等」に掲げる参考文献もその一つ)を事前に一読しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

事前に連絡して日時を調整すること。(学生番号、氏名を明記してメールしてください。)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系46

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 辻 正博			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		唐史研究史料論									
【授業の概要・目的】											
<p>今期の講義では、唐史研究で用いる史料について、使用するテキスト（版本）に焦点を当てて論じる。いわゆる「通行本」がいかなる経緯を経てその地位を得たのか、通行本のテキストに問題はないのか、などの点について検討を加えてゆきたい。</p>											
【到達目標】											
<p>唐史研究史料に関する基礎的な知識を身につけるとともに、史料の伝存・整理事情についての理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテーマについて、おおよそ2～3週を目処に講義を進める。</p> <p>0. ガイダンス.....学期の授業計画および講義で必要とされる諸事項について説明する</p> <p>1. 概観 一次史料と編纂史料</p> <p>2. 正史</p> <p>(1) 『旧唐書』</p> <p>(2) 『新唐書』</p> <p>3. 『資治通鑑』 『通鑑考異』と胡三省注</p> <p>4. 『通典』 政書(1)</p> <p>5. 『唐会要』 政書(2)</p> <p>6. 『大唐六典』</p> <p>7. 『冊府元龜』 類書</p> <p>8. 『唐大詔令集』 唐代の詔勅</p> <p>9. 敦煌・トルファン出土文献</p> <p>9. まとめとフィードバック</p>											
【履修要件】											
<p>中国史、特に秦漢～隋唐史に関する基本的な事項（概説レベル）を理解していること。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点 40% 期末レポート成績 60%</p> <p>・平常点は、授業時に課す小レポートおよび小テストの成績による。</p> <p>・期末レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。よく工夫のなされているレポート・独自の観点を提示したレポートに対しては、高い評価を与える。「剽窃」については、「試験における不正行為」と見なし、厳正に対処する。</p>											
【教科書】											
<p>使用しない</p>											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
必要に応じてプリントを配布する。

[授業外学修(予習・復習)等]

講義中に紹介した参考文献を自主的に閲読し、講義内容に対する理解を各自深めること。

(その他(オフィスアワー等))

事前に連絡して日時を調整すること。(学生番号、氏名を明記してメールしてください。)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系47

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 矢木 毅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮史詳説(近世篇1)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮半島に成立した朝鮮国(1392~1897)の歴史を概観し、政治・社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界(特に中国・日本)の歴史とも関連づけながら朝鮮史への理解を深めることを目的とする。											
【到達目標】											
基本史料(漢文)を読解して平易な現代日本語で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の特質を理解し、現代社会との対比において説明する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1講 朝鮮時代史とその史料 第2講 元明交替と高麗 第3講 元明交替と高麗(続き) 第4講 遼東の情勢 第5講 鉄嶺衛問題と威化島の回軍 第6講 朝鮮の開国と王室の内紛 第7講 土木の変と朝鮮 第8講 世祖篡位 第9講 成宗と燕山君 第10講 己卯土禍 第11講 乙巳土禍 第12講 東西分黨 第13講 鄭汝立の獄 第14講 壬辰倭亂前史 第15講 まとめ(史料講読)											
【履修要件】											
中国古典文(漢文)の基礎的な読解能力(高等学校履修程度)を身につけていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期中に2回、レポート課題(各50点)を出し、合計100点で成績評価を行う。なお、課題の掲示、提出は PandA を経由して行う。											
【教科書】											
使用しない 講読史料、レジュメ等のプリントは、事前に PandA で配信する。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

李成市ほか『朝鮮史1』(山川出版社)ISBN:9784634462137
矢木毅『韓国の世界遺産 宗廟』(臨川書店)ISBN:9784653043713
矢木毅『韓国・朝鮮史の系譜』(塙書房)ISBN:9784827331110

(関連URL)

<http://db.history.go.kr/>(韓国史データベース(韓国・国史編纂委員会))

[授業外学修(予習・復習)等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系48

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 矢木 毅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮史詳説(近世篇2)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮半島に成立した朝鮮国(1392~1897)の歴史を概観し、政治・社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界(特に中国・日本)の歴史とも関連づけながら朝鮮史への理解を深めることを目的とする。											
【到達目標】											
基本史料(漢文)を読解して平易な現代日本文で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の特質を理解し、現代社会との対比において説明する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1講 倭乱前史 第2講 通信使の派遣 第3講 壬辰の倭乱 第4講 晋州城の戦い 第5講 丁酉の再乱 第6講 光海君 第7講 サルホの戦い 第8講 仁祖反正 第9講 丁卯・丙子の胡乱 第10講 丁卯・丙子の胡乱(続き) 第11講 昭顯世子 第12講 羅禪遠征と北伐論 第13講 台湾鄭氏と朝鮮 第14講 三藩の乱と朝鮮 第15講 まとめ(史料講読)											
【履修要件】											
中国古典文(漢文)の基礎的な読解能力(高等学校履修程度)を身につけていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期中に2回、レポート課題(各50点)を出し、合計100点で成績評価を行う。なお、課題の掲示、提出は PandA を経由して行う。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

講読史料、レジュメ等のプリントは、事前に PandA で配信する。

[参考書等]

(参考書)

李成市ほか『朝鮮史1』(山川出版社) ISBN:9784634462137

矢木毅『韓国の世界遺産 宗廟』(臨川書店) ISBN:9784653043713

矢木毅『韓国・朝鮮史の系譜』(塙書房) ISBN:9784827331110

(関連URL)

<http://db.history.go.kr/>(韓国史データベース(韓国・国史編纂委員会))

[授業外学修(予習・復習)等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系49

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36										
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 基盤教育機構 教授				承 志
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語	
題目		マンジュ語『内国史院档』の研究										
[授業の概要・目的]												
マンジュ語『内国史院档』は、ダイチン=グルンの成立の歴史を研究する上で最も重要な原典史料であり、ジュシェン(女真)人のマンチュリア支配から中国本土支配への移行期の歴史を正確に把握するためにも必読の基本史料である。この授業では、マンジュ語の原典に基づいて文献解説と講読を行う。初回の授業では世界におけるマンジュ語史料の保存状況と研究の実態、必要な辞典類・目録・索引・史料集および主なマンジュ語史料のデジタルデータなどを紹介する。最終回ではまとめを行う。3-14回の授業では史料の読解、参加者との質疑・討論を行う。												
[到達目標]												
<ul style="list-style-type: none"> ・マンジュ語史料の研究方法を習得できる。 ・マンジュ語の基礎的な文法を学ぶことができる。 ・史料を読み解くことができるようになること。 												
[授業計画と内容]												
第1回 イン트로ダクション 第2回 『内国史院档』の研究史とその内容 第3回～14回 『内国史院档』の読解、参加者との質疑・討論 第15回 まとめ												
[履修要件]												
特になし												
[成績評価の方法・観点]												
平常点(授業での発表など)60点、期末レポート40点												
[教科書]												
使用しない 読解史料は、授業の際にプリントを配布する。												
[参考書等]												
(参考書) 授業中に紹介する												
[授業外学修(予習・復習)等]												
授業前の予習を必須とする。												
(その他(オフィスアワー等))												
質問などがある場合には、Email(chengzhi@otemon.ac.jp)に連絡してください。												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

歴史基礎文化学系50

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36										
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 基盤教育機構 教授				承 志
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語	
題目		マンジュ語『内国史院档』の研究										
[授業の概要・目的]												
マンジュ語『内国史院档』は、ダイチン=グルンの成立の歴史を研究する上で最も重要な原典史料であり、ジュシェン(女真)人のマンチュリア支配から中国本土支配への移行期の歴史を正確に把握するためにも必読の基本史料である。この授業では、マンジュ語の原典に基づいて文献解説と購読を行う。初回の授業では世界におけるマンジュ語史料の保存状況と研究の実態、必要な辞典類・目録・索引・史料集および主なマンジュ語史料のデジタルデータなどを紹介する。最終回ではまとめを行う。3-14回の授業では史料の読解、参加者との質疑・討論を行う。												
[到達目標]												
<ul style="list-style-type: none"> ・マンジュ語史料の研究方法を習得できる。 ・マンジュ語の基礎的な文法を学ぶことができる。 ・史料を読み解くことができるようになること。 												
[授業計画と内容]												
第1回 イン트로ダクション 第2回 『内国史院档』の研究史とその内容 第3回～14回 『内国史院档』の読解、参加者との質疑・討論 第15回 まとめ												
[履修要件]												
満洲語の基礎文法を一通り学習していること。												
[成績評価の方法・観点]												
平常点(授業での発表など)60点、期末レポート40点												
[教科書]												
読解史料は、授業の際にプリントを配布する。												
[参考書等]												
(参考書) 授業中に紹介する												
[授業外学修(予習・復習)等]												
授業前の予習を必須とする。												
(その他(オフィスアワー等))												
質問などがある場合には、Email(chengzhi@otemon.ac.jp)に連絡してください。												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

歴史基礎文化学系51

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 太田 出			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国近世の訴訟と地域社会									
【授業の概要・目的】											
<p>明清時代を対象とする中国近世の法制史研究では、近年、地域社会において実は訴訟を起こすこと自体がかなり身近なものであり、「健訟」（盛んに訴訟を行う）と呼ばれるような状況が現出していたことが明らかにされている。本講義では、明清時代の裁判機構、法典、裁判文書について概要を説明した後、明清時代の裁判の性格をめぐる議論を整理しながら、地域社会の秩序形成を紛争と調停、判決の性格といった視点から捉えなおしてみる。史料としては、基本法典のほか、行政最末端の地方官庁レベルの裁判史料、さらに司法官が自らの名裁きを誇示するために出版した判決集＝判牘を用いることにする。</p>											
【到達目標】											
中国近世の法と裁判について基本的な事項を理解するとともに、古典漢文や中国語史料の読み方・使い方を学び、自ら史料分析を行う能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンス 第2回：明清時代の裁判機構 第3回：明清時代の法典 第4回：明清時代の裁判文書（一） 中央档案と地方档案 第5回：明清時代の裁判文書（二） 判牘 第6回：明清時代の紛争と調停 第7回：明清時代の判決の性格 第8回：明清時代の人々にとって訴訟はどれくらい身近なものだったか？ 第9回：誰が訴状を書いたか？ 代書 第10回：当時、弁護士はいたか？ 訟師 第11回：訴訟関係者はどのようにして呼び出されたか？ 胥吏・衙役 第12回：訴訟関係者はどこに宿泊したか 歇家 第13回：州県行政から見た裁判と徴税 第14回：明清時代の訴訟と地域社会 第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点50%、授業中に行う小テスト50%で総合的に判定する。詳細は初回授業にて説明する。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にレジュメを適宜配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に参考すべき論文や図書を紹介するから、それらを予習として読んだうえで授業に参加するか、あるいは復習として授業後に読んで欲しい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系52

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 太田 出			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国近世フィールドワーク論									
【授業の概要・目的】											
<p>近年、歴史学ではあまりに多くの歴史文献が研究者の眼前に提供されたこともあり、歴史文献の閲覧・読解・分析にこれまで以上の長時間を費やさざるをえなくなってきた。また一方で、交通手段の発達やグローバルな研究の展開とも相俟って、フィールドワークもかつてほど困難なものではなくなってきた。こうした事態を前提として、旧来の学問的枠組みに囚われない新たな取り組みが求められ、学問横断的な手法や研究視角を身につけることが迫られるようになってきている。本授業では、現代中国の農漁村を事例として、歴史文献とフィールドワークから農漁村の実態を明らかにしていくとともに、その手法を詳細に解説する。受講生には、歴史文献の分析と、自分の足で歩くフィールドワークとを融合させる方法について身につけてもらいたい。</p>											
【到達目標】											
中国研究における歴史文献とフィールドワークについて理解を深め、歴史学・人類学といった各学問のディシプリンを乗り越えた研究手法を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンス 第2回：どうして歴史学者が現代中国の農漁村を歩くのか 第3回：地域社会論とは何か 第4回：太湖流域におけるフィールドワークの系譜 第5回：歴史学者とフィールドワークの実践 第6回：華南農村を歩く 福建省の農村と祀られる神々 第7回：村のなかの「村」の名残 村の歴史をたどる(1) 第8回：村のなかの「村」の名残 村の歴史をたどる(2) 第9回：水上に暮らす人びと 太湖流域の水上世界 第10回：近現代の水上世界と今もなお生き続ける“伝統” 第11回：近現代中国の政治と日本住血吸虫病 第12回：近現代中国の日本血吸虫病と語られる血防 第13回：現代中国の輸入性血吸虫病と「一帯一路」構想 第14回：新型コロナウイルスの流行と“中国経験”の輸出 第15回：おわりに</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中に行う小テスト50%（教科書のみ持ち込み可）、平常点50%で総合的に評価を行なう。詳細は初回授業にて説明する。

[教科書]

太田 出 『中国農漁村の歴史を歩く』（京都大学学術出版会、2021年）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書のほか、参考にすべき論文や図書を紹介するから、それらを予習として読んだうえで授業に参加して欲しい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系53

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 宮宅 潔			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古代制度史と出土文字史料									
[授業の概要・目的]											
近年中国古代史の研究に大きな影響を与えている新出史料、すなわち竹簡・木簡史料について概説する。出土地域ごとに発見史をたどりながら、主要な竹簡・木簡群を紹介し、それが歴史研究、特に制度史研究に与えたインパクトについて講義する。											
[到達目標]											
新出史料に関する知識を身につけ、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ガイダンス 2．中国簡牘史料の発見史 3．楚簡の概観 4．秦簡の概観 5．墓葬出土漢簡の概観 6．辺境出土漢簡の概観 											
初回のガイダンスの後、各単元を2～3回に分けて講義する。											
[履修要件]											
中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
期末レポート（80点）に平常点（授業内での質問・発言 20点）を加味して評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系54

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 宮宅 潔			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		秦代制度史の諸問題－岳麓簡選読									
【授業の概要・目的】											
岳麓書院所蔵簡中の、秦律令を選読しながら、中国全土を支配することになった秦王朝が如何なる問題に直面し、そのためにどのような制度を整えていたのかを分析する。特に軍事制度と行政制度とに注目し、秦による征服と統治の展開を、制度面から跡づけていく。こうした考察を通じて、中国古代の専制国家の姿について、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
中国古代史の諸制度について、基本的な知識を身につけたうえで、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ガイダンス 2．軍事行動と兵站 3．軍功褒賞制度 4．占領統治の諸相 5．関中と関外 6．法治の実態 <p>初回のガイダンスの後、各単元を2～3回に分けて講義する。</p>											
【履修要件】											
中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポート（80点）に平常点（授業内での質問・発言 20点）を加味して評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系55

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国共産党の100年									
【授業の概要・目的】											
<p>1920年代初頭に誕生した中国共産党は、この2021年に結党100周年を迎える。この間、コミンテルン指導下の革命政党から独立した巨大執政党へと大きく変貌し、その影響力がグローバルなものになる中、この党の100年の歩みを振り返り、党の組成や特性、および中国現代史、東アジア史に与えた影響について概説する。</p>											
【到達目標】											
<p>中国共産党の歴史を概述することによって、中国現代史の一重要側面を通史的に理解することを目指す。また、中国共産党の歴史については、同党自身が折々に公的な歴史像を提示しているが、その歴史像がどのように形作られ、その時々々の政治情勢によってどのような変化を見せたのかを合わせて解説することにより、歴史と歴史叙述の両側面から、重層的に中国現代史の展開を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 結党から1930年代半ばまでの中国共産党の活動概説 3. 長征（1930年代中期） 4. 抗日統一戦線政策（1930年代後期） 5. 西安事変（1936年） 6. 抗日戦争と第二次国共合作 7. 延安整風運動と毛沢東の指導権（1940年代前期） 8. 抗日戦争の終結と国共内戦の開始（1940年代中期） 9. 国共内戦の帰趨と中華人民共和国の成立（1940年代後期） 10. 政権党としての出発と政党国家システムの始まり（1948-1950年） 11. 中ソ同盟への道と朝鮮戦争（1950-53年） 12. 朝鮮戦争の帰趨と国家建設（1953-1955年） 13. 毛沢東論、革命家として、政治家として、文化人として 14. 改造される人々 イデオロギーと運動に満ちた社会 15. フィードバック 											
【履修要件】											
<p>中国共産党の100年を前期・後期にわけて連続的に講義するので、前期・後期ともに履修することが望ましい。</p>											
----- 東洋史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

授業期間に数回行う小テストと期末のレポートによって評価する。その割合はおおよそ、小テスト3割、期末レポート7割とする。

[教科書]

おりおりにプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系56

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国共産党の100年									
【授業の概要・目的】											
<p>1920年代初頭に誕生した中国共産党は、この2021年に結党100周年を迎える。この間、コミンテルン指導下の革命政党から独立した巨大執政党へと大きく変貌し、その影響力がグローバルなものになる中、この党の100年の歩みを振り返り、党の組成や特性、および中国現代史、東アジア史に与えた影響について概説する。</p>											
【到達目標】											
<p>中国共産党の歴史を概述することによって、中国現代史の一重要側面を通史的に理解することを目指す。また、中国共産党の歴史については、同党自身が折々に公的な歴史像を提示しているが、その歴史像がどのように形作られ、その時々々の政治情勢によってどのような変化を見せたのかを合わせて解説することにより、歴史と歴史叙述の両側面から、重層的に中国現代史の展開を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（中国共産党結党後30年の歩み） 2. 人民共和国建国初期の政策と社会（“単位”社会と個人管理） 3. 社会主義化への転換と過渡期の総路線（1950年代中期） 4. 反右派闘争と大躍進政策（1950年代後期） 5. 人民共和国における文化・芸術と政治 6. 人民共和国の外交（対ソ、対日、対米、対印）と冷戦体制 7. 毛沢東の国家建設構想と社会主義像（1960年代前半） 8. 文化大革命の発生（1960年代後半） 9. 文化大革命の展開と国内政局の混乱（1970年代前半） 10. 毛沢東の死と華国鋒体制 改革開放体制への萌芽（1970年代後半） 11. 改革開放と政治改革の頓挫（1980年代） 12. 改革開放の再起と国際秩序への参加（1990年代） 13. 革命的価値観からの離脱と中国ナショナリズム（2000年代） 14. 中国的スタンダードの確立と拡大（2010年代） 15. フィードバック 											
【履修要件】											
<p>中国共産党の100年を前期・後期にわけて連続的に講義するので、前期・後期ともに履修することが望ましい。</p>											
----- 東洋史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

授業期間に数回行う小テストと期末のレポートによって評価する。その割合はおおよそ、小テスト3割、期末レポート7割とする。

[教科書]

おりおりにプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系57

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 古松 崇志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国石刻史料の研究									
【授業の概要・目的】											
中国史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、中国本土およびその周辺の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料（京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む）を読み解きながら学んでいく。											
【到達目標】											
漢語で書かれた中国石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ガイダンス（1回） 2．石刻学・石刻研究史の概観（2～3回） 3．石刻史料へのアクセス（伝統的な石刻文献を含めた典籍文献、新出史料集、ウェブ上のデータベースなど）概観（2～3回） 4．石刻史料積読（7～9回） 5．まとめ（1回） <p>積読する石刻史料は、担当者の専門分野の契丹（遼）・宋・金・元代のものを中心に上げる予定だが、適宜受講生の関心に応じた史料を読むことも検討している。また、担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影（拓本の写真）のあるものを用いるが、典籍文献（伝統的な石刻文献や地方志、文集など）のみに載せられているものも適宜取り上げる。</p> <p>基本的に以上の予定にしたがって講義を進めるが、回数など変更の可能性があることに留意されたい。</p>											
【履修要件】											
実際に漢文で書かれた石刻史料を会読するので、漢文文献史料を自分で読む意欲を持っていること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業での発表など）50点、期末レポート50点											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

積読史料は、プリントなどを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

積読する史料を指定してからは、受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系58

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 古松 崇志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国石刻史料の研究									
[授業の概要・目的]											
中国史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、中国本土およびその周辺の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料（京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む）を読み解きながら学んでいく。											
[到達目標]											
漢語で書かれた中国石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。											
[授業計画と内容]											
1．ガイダンス（1回） 2．石刻史料精読（13回） 3．まとめ（1回） 精読する石刻史料は、担当者の専門分野の契丹（遼）・宋・金・元（モンゴル帝国）時代のものを中心に上げる予定だが、適宜受講生の関心に応じた史料を読むことも検討している。また、担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影（拓本の写真）のあるものを用いるが、典籍文献（伝統的な石刻文献や地方志、文集など）のみに載せられているものも適宜取り上げる。											
[履修要件]											
前期からつづけて履修することが望ましい。実際に漢文で書かれた石刻史料を会読するので、漢文文献史料を自分で読む意欲を持っていること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（授業での発表など）50点、期末レポート50点											
[教科書]											
精読史料は、プリントなどを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
精読する史料は受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系59

科目ナンバリング		U-LET24 36741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習I) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>昨年度の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
教材は担当教員が準備する。											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系60

科目ナンバリング		U-LET24 36741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習I) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学(中国古典注釈学)の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>前期の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
教材は担当教員が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系61

科目ナンバリング		U-LET24 36743 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		茅元儀『石民四十集』の書簡を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>明末に『武備志』という浩瀚な兵書を著したことで知られる茅元儀の文集『石民四十集』に収録される書簡を読む。科擧に挫折し、進士になれなかった彼は、策士・軍事通として有力政治家や皇帝に文章によって売り込みをかけた。その文章は、「憂国の士人が熱誠を尽くす」といった単純なものではなく、屈曲に満ち満ちていて、たいへん読みづらい。しかし、だからこそ魅力的でもある。特異ではあるが、ある意味では明末の風気をよく映し出した文章でもある。</p> <p>今年度は、天啓五年～七年(1625～27)、すなわち官職をはく奪されて前線を離れ、蟄居していた時期の書簡を読む。</p>											
[到達目標]											
<ol style="list-style-type: none"> 1、白文テキストを読むことで、自力で句読する能力が身に付く。 2、書簡を歴史史料としてどのように読むべきかを知ることができる。 3、明人の政治・文化観を知ることができる。 											
[授業計画と内容]											
<p>進捗については、受講生次第なので、確言できない。第1回目に、これまで四年間本書を読んできたことをもとにした解説を行い、新規受講者に予備知識を与える。</p> <p>以下、2回目～14回目まで、毎回書簡を1本ないし2本を読む。</p> <p>15回目 フィードバック</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
1週間前に当番を決めるので、自分の担当部分については、責任をもって日本語訳を作成しておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

歴史基礎文化学系62

科目ナンバリング		U-LET24 36743 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『明清档案』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>中央研究院が刊行中の『明清档案』に収録されている清朝順治年間の文書を読み、中国制圧の過程を清朝サイドから見てゆく。明清の王朝交代は、日本では「華夷変態」として、またヨーロッパでも宣教師によってそのニュースが紹介されるなど、大事件として受けとめられていた。しかし、明末清初の動乱に関する歴史記述とそれを承けた研究は、満州人王朝の世界史的意義が強調されるようになった今日においてもなお「敗者」の側に片寄りすぎている。あらためてこの史料集を読むことで、勝者の視点から冷静に支配確立の過程を見てゆきたい。</p> <p>今年は順治五年(1648)後半の档案を読む。清朝支配の試行錯誤の過程を、文書を通じてたどってゆく。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1、白文に取り組むことで、自力で句読を行う能力を身につけることができる。 2、行政文書の形態に習熟できる。 3、清朝の中国征服史について理解を深めることができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>1回 『明清档案』のテキストの性格を説明し、昨年読んだところについて言及しながら、順治元年～五年にわたる政治情勢について解説する。1コマにつき一本を読む予定。</p> <p>2～14回でとりあげる予定の档案のテーマは以下のとおり。 「寇賊」「衙蠹」「漕運」「棄城」「会試」「鼓鑄」など</p> <p>15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
----- 東洋史学(演習II) (2)へ続く -----											

東洋史学(演習II) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

1週間前に当番を決めて、文書1本ないしその一部を担当してもらうので、それについては責任をもって予習すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系63

科目ナンバリング		U-LET24 36745 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習III) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		梁啓超『飲冰室合集』選読									
[授業の概要・目的]											
梁啓超の文集『飲冰室合集』から重要な文章を選読する。											
[到達目標]											
<p>近現代中国を考えるうえで、梁啓超を避けて通ることはできない。新しい文体によって、梁が切り拓いた新しい地平は、いまから見れば、近代以降の中国の政治、学術、社会の基盤を提供するものであった。</p> <p>梁啓超の文章を正確に理解することが第一の目標である。さらにすすんで、当時の知識人たちが抱えていた問題意識、世界観、日本の影響などを読み解くことが第二の目標である。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>初回はガイダンスで二回目から読み進める。梁啓超の著作集『飲冰室合集』から、適当な文章を選んで読んでいく。</p> <p>一回に二頁程度読む。履修者には、原文を現代中国音で読み、訳注を作成することを課す。</p> <p>一五回目はフィードバック</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
プリントをコピーして配布する。											
[参考書等]											
<p>(参考書)</p> <p>梁啓超『新民説』(平凡社,2014) ISBN:4000291874</p> <p>狭間直樹『梁啓超:東アジア文明史の転換』(岩波書店,2014) ISBN:4000291874</p> <p>梁啓超『梁啓超文集』(岩波書店,2020) ISBN:4003323416</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
1週間前に当番を決めるので、少なくとも担当部分については責任をもって予習すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系64

科目ナンバリング		U-LET24 36745 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習III) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		梁啓超『飲氷室合集』選読									
[授業の概要・目的]											
梁啓超の文集『飲氷室合集』から重要な文章を選読する。											
[到達目標]											
<p>近現代中国を考えるうえで、梁啓超を避けて通ることはできない。新しい文体によって、梁が切り拓いた新しい地平は、いまから見れば、近代以降の中国の政治、学術、社会の基盤を提供するものであった。</p> <p>梁啓超の文章を正確に理解することが第一の目標である。さらにすすんで、当時の知識人たちが抱えていた問題意識、世界観、日本の影響などを読み解くことが第二の目標である。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>初回はガイダンスで二回目から読み進める。梁啓超の著作集『飲氷室合集』から、適当な文章を選んで読んでいく。</p> <p>一回に二頁程度読む。履修者には、原文を現代中国音で読み、訳注を作成することを課す。</p> <p>一五回目はフィードバック</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
プリントを使用する。											
[参考書等]											
<p>(参考書)</p> <p>梁啓超『新民説』(平凡社,2014) ISBN:4000291874</p> <p>狭間直樹『梁啓超：東アジア文明史の転換』(岩波書店,2014) ISBN:4000291874</p> <p>梁啓超『梁啓超文集』(岩波書店,2020) ISBN:4003323416</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
1週間前に当番を決めるので、少なくとも担当部分については責任をもって予習すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系65

科目ナンバリング		U-LET24 36749 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		在中国イギリス領事報告を読む									
【授業の概要・目的】											
史料についての基本的な知識を得たうえで、中国近代の社会・経済に関する英文史料を精読する。英文史料を読むことによって、イギリス人などの外からの目を利用しつつ、中国近代社会経済史に対する理解を深める。											
【到達目標】											
英文史料の扱い方、長所・短所などを理解し、中国近代史を研究するにあたって利用する史料の可能性を広げ、また史料操作能力の向上を図る。											
【授業計画と内容】											
イギリス外交文書のうち、在中国イギリス領事の報告（FO228）を精読する。具体的には、内地流通に関わる商業紛争など、主として経済に関わる紛争を取り上げる。必要に応じてFO228に含まれている英文史料に対応する漢文史料も読む。なお、史料は非常に細かい内容のものが多いため、講義形式の解説を加え、史料を中国近代史の中に位置づけていく。 初回と2回目の授業では史料についての解説を行い、3回～14回は担当者を決めて史料を読み進めていく。15回は読み進めた部分までの内容を振り返る。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。											
【教科書】											
使用しない テキストはコピーして授業の際に配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 岡本隆司・吉澤誠一郎編 『近代中国研究入門』（東京大学出版会）ISBN:4130220241											
【授業外学修（予習・復習）等】											
指定部分の日本語訳											
（その他（オフィスアワー等））											
毎回、テキストの音読、読解を輪番で課すため、英文の手書き文書に慣れるまでは予習に時間を要することになるだろう。ただし、扱う英文は主として部下（領事）から上司（公使）への報告であり、大部分はそれほど難解なものではないから、積極的な参加を期待したい。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系66

科目ナンバリング		U-LET24 36749 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		在中国イギリス領事報告を読む									
[授業の概要・目的]											
中国近代の社会・経済に関する英文史料を精読する。英文史料を読むことによって、イギリス人などの外からの目を利用しつつ、中国近代社会経済史に対する理解を深める。											
[到達目標]											
英文史料の扱い方、長所・短所などを理解し、中国近代史を研究するにあたって利用する史料の可能性を広げ、また史料操作能力の向上を図る。											
[授業計画と内容]											
イギリス外交文書のうち、在中国イギリス領事の報告(FO228)を精読する。具体的には、中国における華人関係の紛争など、主として社会に関わる紛争を取り上げる。必要に応じてFO228に含まれている英文史料に対応する漢文史料も読む。なお、史料は非常に細かい内容のものが多いため、講義形式の解説を加え、史料を中国近代史の中に位置づけていく。 初回は史料についての解説を行い、2回～14回は担当者を決めて史料を読み進めていく。15回は読み進めた部分までの内容を振り返る。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点											
[教科書]											
使用しない テキストはコピーして授業の際に配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 岡本隆司・吉澤誠一郎編 『近代中国研究入門』(東京大学出版会) ISBN:4130220241											
[授業外学修(予習・復習)等]											
指定部分の日本語訳											
(その他(オフィスアワー等))											
毎回、テキストの音読、読解を輪番で課すため、英文の手書き文書に慣れるまでは予習に時間を要することになるだろう。ただし、扱う英文は主として部下(領事)から上司(公使)への報告であり、大部分はそれほど難解なものではないから、積極的な参加を期待したい。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系67

科目ナンバリング		U-LET24 26750 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(講読) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		『資治通鑑』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>長らく為政者の必読書とされてきた『資治通鑑』を読むことによって、漢文読解の力を養うだけでなく、中国の知識人が歴史から何を読み取ろうとしたかを考える機会を提供する。</p> <p>なお、本授業は東洋史学専修進学者の必修単位であるので、東洋史に進もうと考えている者は2回生のうちに履修しておくのが望ましい。</p> <p>受講生が減少しているので、他の専修に進む予定の人も歓迎する。「最後の漢文学習の機会」と考えて参加してほしい。</p>											
【到達目標】											
<p>1、漢文史書の読解力の基礎ができる。</p> <p>2、漢文史書の叙述のスタイルを体得できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>今年は北魏に関係する部分を中心に選読する。なお、南朝の動向については華北の情勢と関係しない限りは取り上げない。授業の進捗については受講生次第なので、明確に計画を示すことはできないが、次のように予定している。</p> <p>(前期)</p> <p>1回 『資治通鑑』がいかに読まれてきたかを紹介</p> <p>2～5回 馮太后の時代(484～490)</p> <p>6～8回 孝文帝の洛陽遷都(491～494)</p> <p>9～17回 齊との戦い(494～498)</p> <p>18～19回 孝文帝の死(499)</p> <p>20～24回 梁との戦い(500～504)</p> <p>25～29回 宣武帝の治世(~515)</p> <p>30回 フィードバック</p> <p>テキストは標点本を使う。本文だけを読むが、註も適宜参照する。</p>											
【履修要件】											
参加者には毎時間必ず1回は当てるので、予習は必須。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点											
【教科書】											
プリントしたものを配布する。											
----- 東洋史学(講読)(2)へ続く -----											

東洋史学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

一回前の授業で次の授業分のテキストを配布する(B4用紙で1, 2枚)ので、その分について予習し、あらかじめ訳稿を提出すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系68

科目ナンバリング		U-LET24 26750 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(講読) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
[授業の概要・目的]											
<p>洋書を読む授業。今年は、ワシントン大学のBenjamin Schmidtが2015年に刊行した <i>Inventing Exoticism: Geography, Globalism, and Europe's Early Modern World</i> を読む。本書は近世ヨーロッパ人のエキゾチックな事物への眼差しに注目して論じたものである。直接の主人公はヨーロッパ人であるが、本書が重点的にとりあげるオランダ人の世界観・博物学は江戸期に「蘭学」として取り入れられたことを考えれば、日本にとっても無縁な話ではない。</p> <p>なお、本授業は東洋史の必修である漢文講読とは異なり、必修ではない。東洋史に進もうとする学生やすでに東洋史に在籍している学生ではなくても、近世のグローバル・ヒストリーに関心を持つ人の受講を歓迎する。</p>											
[到達目標]											
英語による歴史叙述の体裁に慣れるとともに、それらを批判的に読解する能力を習得することができる。											
[授業計画と内容]											
<p>本書は、全412頁。これを1年かけて読んでゆく。</p> <p>1回 著者ベンジャミン・シュミットの紹介 2回～29回 各章節を読んでゆく。 30回 フィードバック</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
授業で配布する											
[参考書等]											
(参考書)											
特になし											
[授業外学修(予習・復習)等]											
担当範囲の英文を日本語訳して提出する。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系69

科目ナンバリング		U-LET24 36761 PJ36											
授業科目名 <英訳>		東洋史学(実習) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授	吉本 道雅	文学研究科 教授	中砂 明德	文学研究科 教授	高嶋 航
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	実習	使用 言語	日本語		
題目		東洋史学(実習)											
【授業の概要・目的】													
全教員3人によるリレー担当。東洋史学研究のうち、特に中国史の全時代にわたって、先行研究をどのようにして探るか、古文書をどのようにあつかうか、コンピューターを研究にどのように用いるかなど実習させるとともに、自らテーマを選んで「小論文」を発表させる。													
【到達目標】													
東洋史の卒論を書くにあたって基本的なスキルを習得できるようにする。													
【授業計画と内容】													
第1回～第30回： 主に3回生を対象とする。東洋史学専修の全教員が1年間にわたり、東洋史学を研究するにあたってのツール(工具)を教え、学生に実際に使わせる。先行研究の探し方を教えるとともに、優れた先行研究を選んで学生に読ませ、先人の達成したものを学びつつ、自らがおかれた研究状況を考えさせる。 11月頃までにツールの修得や先行研究の選読を終え、自らの問題関心に即した研究テーマを選ばせる。それまでに修得した知識と方法をもとにして、自ら先行研究を探し、あるいは原典の一部を読むことによって、自らの問題に解答を与えさせる。1月中頃にこれを「小論文」として授業で発表させる。 *フィードバック方法は授業中に説明する。													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点】													
平常点と「小論文」の発表を評価する。													
【教科書】													
授業中に指示する													
【参考書等】													
(参考書) 授業中に紹介する													
【授業外学修(予習・復習)等】													
毎回提出される課題を準備しておくこと。一年間を通して卒論のテーマを絞り込めるようにつねひごろから関心を持っておくこと。													
(その他(オフィスアワー等))													
授業は各教員の研究室で行う													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

歴史基礎文化学系70

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		イスラーム地域研究センター 仁子 寿晴 研究員			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イスラーム言語哲学史研究									
【授業の概要・目的】											
<p>《授業全体のテーマ》</p> <p>通常のイスラーム思想史ではほとんど顧みられないのだが、或る類の言語哲学形態（なにがしかの意味でアラビア語から立ち上げられる言語哲学）がイスラーム思想の歴史において重要な柱であったと私は思う。西暦9世紀から12世紀前半にかけてのバスラに端を発する古典期カラム（イスラーム神学）の一流派の言語哲学しかり、アル＝ファーラービー（西暦950年没）の言語哲学しかり、イブン・タイミーヤ（西暦1328年没）の言語哲学しかり。本講義で焦点を当てる、西暦11世紀前半に生きたアンダルスのイブン・ハズム（1064年没）（有名な哲学者イブン・スィーナより少し後の人）の言語哲学もそうである。イスラーム思想においてアラビア語は啓示に用いられる言語であるばかりでなく、哲学が組み立てられる基盤でもあった。</p> <p>イブン・ハズムはザーヒル派法学（さまざまな理由によりスンナ派法学に数えられない）を体系化したことで知られる。簡便に言えば、ザーヒル派法学は、経書の文章に隠された意味を認めず、経書の文章を文言の論理分析により明示化することを基盤に置く法学である。そうした独特の法学には、文法と論理が絶妙なし方で接合される。言い換えるとクルアーン並びにハディースの文言の上に解釈学としての言語哲学が構築される。かなり改変したアリストテレス論理学を使用する点にも注目したい。</p> <p>西のイスラーム世界を代表するコルドバを有する後ウマイヤ朝が崩壊し、諸王乱立時代に突入する時代のアンダルスに存在した既存の総ての学問（クルアーン解釈学、ハディース学、法学、神学、哲学など）にイブン・ハズムは異議申し立てを行う。イブン・ハズムが言語哲学を構築するさまを追ってみたい。</p> <p>講義は、R・アルナルデス『コルドバのイブン・ハズムにおける文法と神学』（原文はフランス語）をテキストとしそれに解説を加える形で進める。</p>											
【到達目標】											
<p>イスラーム思想の根幹である法学の言語哲学的展開を図ったイブン・ハズムのザーヒル派の立場が、アラビア語文法学、イスラーム神学、クルアーン解釈学、ハディース学、アリストテレス論理学（ギリシア語のアラビア語訳に由来する）などアンダルスに存在した諸学問から如何に形成されたのかを知り、その視点から、アンダルス（ひいては広くイスラーム圏）の歴史（学問史）を吟味し考察することができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的にR・アルナルデス『コルドバのイブン・ハズムにおける文法と神学』の章立てに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあい 鋭い質問への対応も含む に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。事前に私の日本語訳を配布するので出来る限り眼を通していただきたい。</p> <p>第1回 概説 イブン・ハズム、イスラーム思想、アンダルス、ザーヒル派法学</p> <p>第2回 言語論と文法の役割(1) 言語の起源</p> <p>第3回 言語論と文法の役割(2) イブン・ハズムによる文法的諸概念の把握a（命令形）</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

- 第4回 言語論と文法の役割(3) イブン・ハズムによる文法的諸概念の把握b (発話をめぐる問題)
- 第5回 言語論と文法の役割(4) イブン・マダー (西暦1196年没) の文法学批判
- 第6回 文法と論理(1) 分析論理a (一般論理と文の分析論理)
- 第7回 文法と論理(2) 分析論理b (文の分析論理の構成要素)
- 第8回 文法と論理(3) イブン・ハズムの対人論理
- 第9回 文法と論理(4) 論理とイスラーム法諸問題a (ザーヒル法学派とシャーフィイー法学派の対抗)
- 第10回 文法と論理(5) 論理とイスラーム法諸問題b (ハディース批判など)
- 第11回 イブン・ハズム神学(1) イブン・ハズムの論敵たちa (ムウタズィラ派)
- 第12回 イブン・ハズム神学(2) イブン・ハズムの論敵たちb (アシュアリー学団)
- 第13回 イブン・ハズム神学(3) イブン・ハズムの批判神学、並びにその神学のイスラーム神学における位置づけ
- 第14回 イブン・ハズム神学(4) キリスト教批判
- 第15回 改めてイブン・ハズムの言語哲学とは如何なるものかを問う

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートのみで評価する。
レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。
独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。

【教科書】

使用テキストは、R. Arnaldez, Grammaire et Theologie chez Ibn Hazm de Cordoue: Essai sur la structure et les conditions de la pensee musulman, Paris: Librairie Philosophique J. Vrin, 1956.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

事前に仏文テキストと和訳を配布するので講義に備えて読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系71

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 中西 竜也			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イスラームの中国適応再考									
【授業の概要・目的】											
<p>中国ムスリム（漢語を話すムスリム）によるイスラームの中国適応に向けた知的営為は、ムスリム・非ムスリムの融和に大きな役割を果たした一方で、ときに中国ムスリム内部の分断を促進することもあった。たとえば、19世紀の中国雲南で活躍したムスリム学者、馬徳新は、同時代の西アジアで触れた聖者崇拜批判の言説を新思想として中国に持ち帰り、これに「中国的」再解釈を加えて広めた。弟子たちもこれに続き、聖者崇敬の是非をめぐって中国ムスリムの間に激しい対立が生じた。本講義では、この様相の検討を通じて、ムスリム・マイノリティによるイスラームの土着化とホスト社会の安定との相関について再考したい。</p>											
【到達目標】											
<p>イスラームの中国適応について理解する。 イスラームの聖者崇敬について理解する。 19世紀の西アジアの思想状況について理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 中国ムスリムとは誰か 第2回 中国ムスリム社会の形成 第3回 中国ムスリムによるイスラームの中国適応 第4回 スーフィー教団と聖者崇敬 第5回 中国のスーフィー教団 第6回 ジャフリーヤ教団の思想 第7回 馬徳新と雲南ムスリム反乱 第8回 19世紀西アジアにおける聖者崇拜批判 第9-10回 馬徳新の聖者崇拜批判 第11回 馬聯元のジャフリーヤ教団批判 第12回 馬安禮の聖者崇拜批判 第13-14回 ジャフリーヤ教団の反応 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末レポート（100%）で評価する。</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に別途指示する

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系72

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代中央アジア法制度史研究の動向 Research trends in Central Asian legal system during 19th and early 20th centuries									
【授業の概要・目的】											
<p>近代中央アジア法制度史研究の分野における近年最大の成果であるPaolo Sartori, Visions of Justice: Shari`a and Cultural Change in Russian Central Asia, Leiden/Boston, 2016を題材に、ロシア帝国内のムスリム地域を対象とする近代史研究の動向について解説する。</p> <p>This course aims to explain the recent trends in the study of modern history, especially that of modern legal systems, of Muslim regions in the territory of the Russian empire by using Paolo Sartori's epoch-making work in the field, Visions of Justice: Shari`a and Cultural Change in Russian Central Asia (Leiden/Boston, 2016).</p>											
【到達目標】											
<p>ロシア帝国内ムスリム諸地域を対象とする近代史研究の動向を理解することができる。</p> <p>Upon the successful completion of this course, students will acquire necessary knowledge about current research trends in the historical studies on Muslim regions of the Russian empire in modern times.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1週：授業ガイダンス 第2週～第9週：序文（1-39頁）の講読と内容の説明 第10週～第14週：第1章（40-103頁）の一部の講読と内容の説明 第15週：まとめと議論</p> <p>week 1: Guidance weeks 2-9: Reading "Introduction" (pp.1-39) weeks 10-14: Reading some parts of "Chapter 1: The Islamic Juridical Field in Central Asia, ca. 1785-1918" (pp. 40-103) week 15: Discussion</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

担当箇所の翻訳の実施、および、授業内での議論への参加の度合いにより評価を決定する。

adequate preparation for reading and active participation in discussion

[教科書]

講読対象となる書籍はオープンアクセスであり、下記URLからダウンロード可能である。

The book we read in this course can be downloaded in the following site:

<https://brill.com/view/title/33746>

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

必ず予習して授業に臨むこと。

Students are expected to participate in the class with adequate preparation.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系73

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 帯谷 知可			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代中央アジアにおける歴史の見直しの諸相									
【授業の概要・目的】											
この授業では、旧ソ連中央アジア、特にウズベキスタンを対象として、ソ連時代のペレストロイカによる自由化、さらに独立とソ連解体を契機として進行した、歴史の見直しの諸相を検討する。それを通じて、現代中央アジア理解を深めるとともに、多様な歴史叙述のあり方についての認識を深めることをねらいとする。											
【到達目標】											
中央アジアの近現代（帝政ロシア支配期～ソ連期～ソ連解体・独立から現代まで）の歴史の流れと、ソ連時代から現代に至るまでの中央アジアにおける民族観・歴史観および歴史記述の特徴を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の予定に従って、講義を行う。											
<ul style="list-style-type: none"> * 旧ソ連中央アジアという地域の概要（第1-2週） * 民族史の記述（第3-4週） * ペレストロイカと歴史の見直し（第5-7週） * 独立後の新しいナショナリズムと歴史研究（第8-9週） * 評価の逆転（ティムール、ジャディード運動、バスマチ運動）（第10-12週） * 新しい正史（第13-14週） * まとめ（第15週） 											
なお、参加者の関心次第で、現代ウズベク語またはロシア語の資料を読むことも視野に入れる。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、期末のレポート70%の割合で評価を行う。											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

宇山智彦(編著)『中央アジアを知るための60章』(明石書店)ISBN:978-4-7503-3137-9(中央アジア研究の入門書)

小松久男『革命の中央アジア』(東京大学出版会)ISBN:4-13-025027-2(ロシア革命期の中央アジアに関する必読文献)

宇山智彦『「カザフ民族史再考 歴史記述の問題によせて」『地域研究論集』Vol. 2, No. 1(1999)』(国立民族学博物館地域研究企画交流センター)(ソ連中央アジアの歴史記述の基本理念を論じた論文)

帯谷知可『「英雄の復活 現代ウズベキスタン・ナショナリズムのなかのティムール」酒井啓子・臼杵陽編『イスラーム地域の国家とナショナリズム』』(東京大学出版会)ISBN:4-13-034185-5(ソ連解体後の中央アジアナショナリズムと歴史の見直しを論じた論文)

帯谷知可編『ウズベキスタンを知るための60章』(明石書店)ISBN:9784750346373(ウズベキスタン地域研究入門編)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業期間中に、各回の講義内容を復習するとともに、参考書等としてあげている文献を読み、より深い理解と考察に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

授業でも紹介しますが、中央アジア近現代史に関する文献をできる限り多く読んでください。連絡の必要がある場合はこちらへ [obiya\[at\]cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:obiya[at]cseas.kyoto-u.ac.jp) ([AT]を@に替えてください)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系74

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 秋葉 淳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		16-19世紀オスマン帝国の変容									
【授業の概要・目的】											
<p>西南アジア及びバルカン地域を長期にわたって支配したオスマン帝国の16世紀から19世紀までの歴史を、支配組織、財政制度、社会構造などの観点から論説する。古典期とされる16世紀に確立した体制が、17～18世紀を通じてどのように変容し、19世紀の改革の時代を迎えたのかという問題を、最新の知見を踏まえて考察する。</p> <p>授業の前半では、オスマン帝国の支配体制全般の変容について研究史上の論点を整理しつつ説明し、後半では、ウラマーとくにカーディー制度に焦点を当てて国家と社会の変容を検討する。</p>											
【到達目標】											
16～19世紀のオスマン帝国史の流れを、王朝の興隆や衰退という概念によってではなく国家と社会の構造変化という観点から理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には以下の授業計画にしたがって進めていくが、内容や順序は固定したものではなく、担当者の方針と受講者の背景や理解に応じて担当者が適切に決める。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回 古典期オスマン帝国支配体制の確立(1) 第3回 古典期オスマン帝国支配体制の確立(2) 第4回 オスマン帝国のウラマー組織と法制 第5回 17世紀オスマン帝国支配層の変容 第6回 財政構造の変化(17～18世紀) 第7回 アーヤーン層の台頭 第8回 イルミエ制度の展開(17～18世紀) 第9回 18世紀カーディー制度の変質(1) 第10回 18世紀カーディー制度の変質(2) 第11回 改革の時代の始まり 第12回 タンズィマート初期の改革 第13回 「ナーイブ制度」の確立(1) 第14回 「ナーイブ制度」の確立(2) 第15回 試験とフィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

最終回の筆記試験により評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

林佳世子 『オスマン帝国500年の平和』 (講談社学術文庫, 2016) ISBN:9784062923538

小笠原弘幸 『オスマン帝国: 繁栄と衰亡の600年史』 (中公新書, 2019) ISBN:9784121025180

永田雄三・羽田正 『世界の歴史 15 成熟のイスラーム社会』 (中公文庫, 2008) ISBN:978-4122050303

新井政美 『トルコ近現代史: イスラム国家から国民国家へ』 (みすず書房, 2001) ISBN:4622033887

[授業外学修(予習・復習)等]

授業の中で紹介した参考文献を参照すること。

(その他(オフィスアワー等))

授業中、わからないことについては積極的な質問を期待する。

メールによる質問も受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系75

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代中央アジアのシャリーア法廷裁判研究 A research into shari`a court trials in modern Central Asia									
【授業の概要・目的】											
<p>19世紀から20世紀初頭の中央アジアで作成された法廷文書を史料として、シャリーア法廷裁判のながれ、係争内容について具体的に説明する。</p> <p>This course aims to explain concretely about the process of shari`a court trial and the typical cases settled there by using Central Asian court documents either issued by or submitted to the judges (qadis) during the second half of the 19th and the early 20th centuries.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ シャリーア（イスラーム法）法廷文書の史料としての特性を理解し、自身の研究に活かすことができる。 ・ 史料から歴史的事実を引き出す技術を習得し、自身の研究に活かすことができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) have an adequate knowledge about specific characteristics inherent to Central Asian sharia court documents.</p> <p>(2) gain skills to deduct reliable facts from historical sources.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 授業ガイダンス、時代背景の説明 第2回 ロシア帝政期中央アジアの司法制度概説 第3回 シャリーア法廷の業務とこれを運営する人々：カーディー、ムフティー、書記 第4回~第5回 イスラーム法における裁判 第6回~第8回 裁判文書：訴状、判決文、ファトワー、タズキラ 第9回~第14回 係争の具体的内容 第15回 授業内容のまとめ、および、授業で扱ったトピックについての討議</p> <p>Week 1: Giving a brief sketch of Central Asian history during the 19th and early 20th centuries Week 2: Explaining legal systems of Central Asia under the domination of Russian Empire Weeks 3: Qadis, Muftis, scribes: Who ran Central Asian shari`a court? Weeks 4-5: The trial within the framework of Islamic law Weeks 6-8: The court documents concerning trials: Mahdar (complaint), Hukm (judgment), Fatwa (legal opinion issued by Muftis), Tadhkira (record of proceedings of a trial) Weeks 9-14: The examples of typical cases handled and settled in Central Asian shari`a courts Week 15: Feedback and Discussion</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への取組（50%）、期末レポート（50%）により評価する。

Participation in class (50%)

Final report (50%)

【教科書】

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

必ず前回の内容を復習したうえで授業に臨むこと。

Students will be required to review class notes before attending each lesson.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系76

科目ナンバリング		U-LET25 36840 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習Ⅰ) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西南アジア史に関する英文文献講読 Reading English text about Western and Southern Asian history									
【授業の概要・目的】											
<p>西南アジア史、イスラーム史の初学者である学部生を対象として、比較的近年に刊行された英語のイスラーム史概説（詳細は「授業計画と内容」を参照）を講読する。イスラーム史に関する基礎的知識を獲得するだけでなく、英語の研究文献においてアラビア語の歴史用語がどのような語に置き換えられているのかを知ること、本授業の大きな目的の一つである。</p> <p>In this course students read English text on Umayyad and Abbasid history that constitutes a part of 'The New Cambridge History of Islam, vol. 1 (Cambridge University Press, 2010),' the first volume of a multivolume edition of comprehensive history of the Islamicate world. Through reading the text students will gain an adequate knowledge not only about early stages of the development of Muslim history, but also the rules for translating Arabic technical terms into English.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム史に関する海外の研究動向について知り、これを他者に対して説明することができる。 ・イスラーム史に関する英語の研究文献に頻出する専門用語の意味を知り、これに対応するアラビア語その他の現地語における原語を指摘することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) be informed of contemporary research trend in the field of history of the Islamicate world. (2) understand the meaning of technical terms which frequently appear in research literature on the field. 											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・講読対象とする文献は、The New Cambridge History of Islam, vol. 1, Cambridge University Press, 2010.である。 ・各回の授業では、予め決められた担当者が、自身に割り当てられた箇所の全訳を用意するとともに、その内容をレジюмеにまとめ、他の履修者に配布することとする。 <p>Each student will be required to make five-minutes presentation about the contents of the text which is assigned to him/her (3-5 pages) and translate it into Japanese.</p> <p>Week 1: (講読文献、および、講読箇所の説明と各回の担当者決定) Explaining the rules of this course. Each student will be assigned some part of the text. Weeks 2-3: 'Introduction' ~ 'The Marwanid Dynasty and Its Structure: an Overview,' In: Paul M. Cobb, "The Empire in Syria, 705-763," pp. 226-230. Weeks 4-6: 'Imperial Expansion, from France to Farghana,' In: Paul M. Cobb, "The Empire in Syria, 705-763," pp. 230-241. Weeks 7-10: 'Administrative Centralising' ~ 'Rebellion and the Alternatives to Marwanid Imperium,' In: Paul</p>											
----- 西南アジア史学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習 I)(2)

M. Cobb, "The Empire in Syria, 705-763," pp. 241-255.

Weeks 11-15: 'Fitna and Dawla: the End of Syrian Centrality' ~ 'Conclusion: 750 and All That,' In: Paul M. Cobb, "The Empire in Syria, 705-763," pp. 255-268.

Weeks 16-22: 'The Consolidation of Power' ~ 'Al-Mahdi, al-Hadi and al-Rashid,' In: Tayeb El-Hibri, "The Empire in Iraq, 763-861," pp. 269-284.

Weeks 23-25: 'The Succession Crisis' ~ 'The Age of Reunification and Transition,' In: Tayeb El-Hibri, "The Empire in Iraq, 763-861," pp. 284-291.

Weeks 26-29: 'Intellectual Life: the Religious Policy of al-Ma'mun,' In: Tayeb El-Hibri, "The Empire in Iraq, 763-861," pp. 291-304.

Week 30: (これまで講読した内容についての議論)

Having discussion on the key issues presented by the authors.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

参加者の受講姿勢と講読担当の内容によって評価する。

Participation in class and preparation for reading

【教科書】

Chase F. Robinson (ed.) 『The New Cambridge History of Islam, vol. 1』 (Cambridge University Press, 2010)

Handouts will be shared through Google Drive

【参考書等】

(参考書)

必要な資料は適宜PDFしたうえ、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive

【授業外学修(予習・復習)等】

授業は毎回講読の担当を決めて進める。各回の講読担当者は必ず出席し、十分な予習をした上で、担当部分の全訳を用意し、さらに、担当部分のレジюмеを作成すること。その他の参加者も必ず予習をしておくこと。

Students will be required make an adequate preparation for reading the text.

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系77

科目ナンバリング		U-LET25 36842 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ペルシア語、アラビア語両語による法学文献講読 Reading Islamic legal texts in both Persian and Arabic									
【授業の概要・目的】											
<p>16世紀のシャーフイー派ウラマーであるIbn Ruzbihanが、ペルシア語で著した統治マニュアル、Suluk al-Mulukを講読する。ペルシア語本文と引用元のアラビア語原文を対照することにより、アラビア語がペルシア語に翻訳される際、アラビア語固有の表現がどのようにペルシア語に移し替えられたのかにつき学習する。</p> <p>In this course students read Suluk al-Muluk, the early 16th century Central Asian governance manual compiled by Ibn Ruzbihan, a Shafiite ulama who fled there to avoid persecution from Shiite Safavids. The work consists of citations from different Arabic lawbooks, which were literally translated into Persian by the author. We can easily find out original Arabic text of each part of the work owing to annotations made by the author about reference sources. Students will read the work in both Persian and Arabic, thereby acquiring knowledge about to what extent Arabic syntax left its traces on translated text.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ペルシア語、および、アラビア語の文法をより深く理解し、歴史的なテキストを正確に読解することができる。 ・イスラーム法学の基本的な術語について正確に理解し、これを他者に説明することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) gain an in-depth understanding about the grammar of both Persian and Arabic and obtain the ability to read historical text written in these languages accurately.</p> <p>(2) have an adequate knowledge about the technical terms used by Islamic jurists.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 授業の進め方についての説明。講読文献の著者、および、その内容についての解説。</p> <p>第2回~第14回 Suluk al-Muluk、「ハラージュ章」の内、ハラージュおよびハラージュ地の定義について述べた箇所の講読。</p> <p>第15回 これまでの講読内容のまとめ、および、内容についての討議。</p> <p>第16回~第29回 Suluk al-Muluk、「ハラージュ章」の内、君主によるハラージュの徴収について述べた箇所の講読。</p> <p>第30回 これまでの講読内容のまとめ、および、内容についての討議。</p> <p>Week 1: Explaining about the author and work Weeks 2-14: Reading the text from the chapter of Kharaj (land tax) concerning the definition of Kharaj and</p>											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

the land on which it is levied

Week 15: Feedback and Discussion

Weeks 16-29: Reading the text from the chapter of Kharaj (land tax) concerning the way for rulers to collect Kharaj

Week 30: Feedback and Discussion

【履修要件】

アラビア語ないしペルシア語の基礎文法を学習していることが望ましい。

Students are expected to have learned the basic grammar of either Arabic or Persian.

【成績評価の方法・観点】

講読の担当、予習の状況にもとづき、平常点で評価する。

Participation in class and preparation for reading

【教科書】

使用しない

PDF化したファイルを、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、前回の授業時に予告された講読箇所を一通り読んで授業に参加すること。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text.

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系78

科目ナンバリング		U-LET25 36844 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アラビア語古典史料演習									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。</p> <p>本年度は、マムルーク朝時代後期の歴史家 Ibn Taghribirdi (ca. 812-874/1410-1470) の年代記 al-Nujum al-zahira fi muluk Misr wal-Qahira を読む。</p>											
【到達目標】											
アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語(フスハー)文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 開講にあたって 授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。</p> <p>第2回-第14回 文献講読 al-Nujum al-zahiraを順次読み進める。</p> <p>第15回 フィードバック 授業全体に関する質問を受け付ける。</p>											
【履修要件】											
アラビア語(フスハー)文法を習得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績評価の方法：平常点で評価する。</p> <p>評価の基準:アラビア語文を適切に音読し文法に則して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。</p>											
【教科書】											
講読教材および関連資料は配布する。											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

(その他(オフィスアワー等))

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系79

科目ナンバリング		U-LET25 36844 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アラビア語古典史料演習									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。</p> <p>前期に引き続き、マムルーク朝時代の歴史家 Ibn Taghribirdi (ca. 812-874/1410-1470) の年代記 al-Nujum al-zahira fi muluk Misr wal-Qahira を読む。</p>											
【到達目標】											
<p>アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語(フスハー)文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 開講にあたって 授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。</p> <p>第2回-第14回 文献講読 al-Nujum al-zahiraを順次読み進める。</p> <p>第15回 フィードバック 授業全体に関する質問を受け付ける。</p>											
【履修要件】											
<p>アラビア語(フスハー)文法を習得していること。 前期から続けて受講することが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績評価の方法：平常点で評価する。 評価の基準:アラビア語文を適切に音読し文法に則して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。</p>											
【教科書】											
<p>講読教材および関連資料は配布する。</p>											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

(その他(オフィスアワー等))

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET25 36850 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		イスラーム地域研究センター 今松 泰 客員准教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		現代トルコ語文法・講読									
【授業の概要・目的】											
現代トルコ語文法の基礎を学び、その後、現代トルコ語で書かれた研究書あるいは論文の講読を行う。 さらに受講者の必要に応じて、アラビア文字表記のトルコ語(オスマン語)文献の講読をおこなう。											
【到達目標】											
現代トルコ語の基礎的な文法事項を確実に習得し、それらの知識を活用してトルコ語の文献を読みこなせるようになることが到達目標である。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 文字と発音 第2回 母音の交替、子音の交替 第3回 数詞、形容詞、複数接尾辞、人称、所有人称接尾辞 第4回 格接尾辞(1) 第5回 格接尾辞(2)、名詞修飾 第6回 代名詞、否定文、疑問文、後置詞 第7回-第9回 動詞 活用 第10回 動詞語幹の派生 第11回 動名詞 第12回 形動詞(分詞、連体形) 第13回 副動詞ほか *以降の授業では現代トルコ語、さらにはオスマン語のテキストを講読する 第14回-第30回 テキスト講読											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価。 参加者の受講態度と担当した講読の内容をもとに評価する。 文法習得時には、課題を課し、確認のため小テストを行うことがある。											
----- 西南アジア史学(講読)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(講読)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

文法事項の説明をしている間、予習は特に必要ではないが、毎授業後の復習は必ず行なうこと。
テキスト講読に入ってから、必ず予習を行なうこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系81

科目ナンバリング		U-LET25 36851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		アラビア語講読									
【授業の概要・目的】											
スーフィズム・タリーカ・聖者信仰を研究する際には、さまざまなジャンルの資料が必要となる。本講義では、これらの資料の代表的なものを順次取り上げ、講読していく。											
【到達目標】											
アラビア語の文献を読みこなす力を身につけることを目標とする。同時に、文献を読む際に必要な工具書・参考書の使い方も身につける。											
【授業計画と内容】											
上記の研究のためには、理論書、列伝・徳行伝、参詣書、年代記、系譜書、用語集など、さまざまなスタイルの資料を扱えるようになる必要がある。本講義では、年に1～2点程度の資料を取り上げ、丹念に読み込む訓練を行う。 講読の対象としては、以下のような書目が挙げられる。											
これまでに本講義で取り上げてきた主要な書目は以下の通り。											
【用語集】											
クシャイリー「スーフィー派の言表(#701ib#257r#257t)とその意味の書」(2010)											
カーシャーニー『スーフィー用語集』(2011)											
【伝記】											
ナブハーニー『聖者の奇蹟集成』より「アブー・アッバース・アフマド・ティジャーニー」(2010)											
タシュキョプリユザーデ(ターシュクブリーザーダ)『オスマン朝のウラマーについての紅いアネモネ』(2015)											
イブン・ザイヤート著『スーフィズムの徒へのまなざし』(2017): マグリブの聖者伝											
イブン・アラビー『聖霊』(2018): アンダルスの聖者伝											
イブン・ザイヤート著『スーフィズムの徒へのまなざし』(2017): マグリブの聖者伝											
【地理書】											
ナーブルスィー『シリア・エジプト・ヒジャーズ地方の旅における本義と転義』(2011)											
【理論書】											
ムハンマド・アフマド・クルディー『幽玄の熟知の扱いについての心の照射の書』(2012): 修行論											
アブー・ハーミド・ガザーリー『宗教諸学の再興』(2013): 古典マニュアルの集大成											
アブー・ナジブ・スフラワルディー『修行者たちの作法』(2013): 修行論											
アブドゥッラー・ボスネヴィー『叡智の台座注釈』(2015): 完全人間論。写本を読む練習を兼ねて											
ムハンマド・イブン・アリー・サヌースィー『40のタリーカ(道統)を支える泉』(2016): 修行論											
アフマド・ザルーク『タサウウフの基礎』(2017,2020): 理論書											
ナーブルスィー『開示と明証』(2018): 完全人間論。写本を読む練習を兼ねて											
----- 西南アジア史学(講読)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(講読)(2)

ジャズーリー『信条』(2018): 神学書(マグリビー体の練習を兼ねて)

イブン・カイム・ジャウズィーヤ『旅人たちの諸段階』(2020)

【詩】

イブン・アラビー『欲望の解釈者』(2016): 神秘主義詩

1回目の講義において、いくつかの候補を挙げ、何を選んで読むかを相談して決める。
2~15回のなかで講読を行なう。

【履修要件】

初級アラビア語を修得していること。

【成績評価の方法・観点】

平常点によって評価する。

【教科書】

授業中に指示する

テキストは当方で用意し、教室で配布する。

【参考書等】

(参考書)

東長靖『イスラームとスーフィズム』(名古屋大学出版会) ISBN:978-4-8158-0721-4

ティエリー・ザルコンヌ『スーフィー - イスラームの神秘主義者たち』(創元社) ISBN:978-4-422-21212-8 (豊富な図版が特徴。東長靖監修。)

東長靖・今松泰『イスラーム神秘思想の輝き - 愛と知の探求』(山川出版社) ISBN:978-4-634-47475-8 (前半はスーフィズム概説、後半はオスマン朝スーフィズム・タリーカ史。)

山内昌之・大塚和夫編『イスラームを学ぶ人のために』(世界思想社)(I-4 東長靖「スーフィーと教団」参照。絶版なので、図書館で借りて下さい。)

その他、教室で指示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

アラビア語の原典講読なので、入念な予習が必要である。辞書・参考図書を十分に活用すること。

(その他(オフィスアワー等))

講義前には、十分な準備が必要である。資料中に出てくるクルアーン、ハディースの引用などは、必ず出典を確認してくること。また、詩が出てくる場合も、韻律を調べること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系82

科目ナンバリング		U-LET25 36851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ペルシア語講読 Reading Persian historical text									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、ミールホンド（1498年没）が著した著名なペルシア語年代記『Raudat al-Safa』の一部を講読する。講読対象となるのは、アンカラの戦い（1402年）を叙述する箇所である。本授業では、近世のイラン、中央アジアで作成された美文体ペルシア語年代記の読解能力の涵養を目指す。</p> <p>In this course students read some parts of Raudat al-Safa, a famous Persian chronicle compiled by Mirkhwand (d. 1498). The parts that will be read in this course gives the story about the battle of Ankara (1402). The main purpose of the course is to gain the ability to read Persian historical text written in the florid prose style common to almost all chronicles created in pre-modern Iran and Central Asia.</p>											
【到達目標】											
<p>ペルシア語の歴史文献を正確に読解することができる。</p> <p>Upon the successful completion of this course, students will gain the ability to read Persian historical texts precisely.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 授業ガイダンス、講読作品、および、時代背景の説明 第2回~第14回 同作品中、アンカラの戦いについて叙述する箇所を講読する 第15回 授業内容のまとめ、および、質問の受付と回答</p> <p>Week 1: Explaining about Mirkhwand and his Raudat al-Safa Weeks 2-14: Reading the parts of Raudat al-Safa concerning the battle of Ankara Week 15: Feedback and Discussion</p>											
【履修要件】											
<p>ペルシア語の基礎文法を習得していること。</p> <p>Students are expected to have learned the basic grammar of Persian language.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>講読への取組と、事前準備の状況を基準として、平常点により評価する。</p> <p>Participation in class and preparation for reading</p>											
【教科書】											
<p>使用しない 必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。</p>											
----- 西南アジア史学(講読) (2)へ続く -----											

西南アジア史学(講読) (2)

Handouts will be shared through Google Drive

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、必ず予習して授業に臨むこと。目安となる予習時間は、180分程度である。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text (about 180 mins. for each class)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系83

科目ナンバリング		U-LET25 36851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 稲葉 穰			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		古典ペルシア語資料の講読									
[授業の概要・目的]											
13世紀以前に書かれたペルシア語資料を題材に、古典ペルシア語文献の読解方法、分析、活用方法を学ぶことを目的とする。											
[到達目標]											
11世紀、ガズナ朝の書記であったアブー・アルファズル・バイハキーが著した年代記『バイハキーの歴史』を題材に、13世紀以前の古典ペルシア語文献の持つ特徴や、アラビア語文献との関係、あるいはイラン文化とイスラーム文化の接合の有り様について理解することを目的とする。基本的には担当者が和訳と注を作成し、それを出席者全員で共有しつつ、会読を進める。											
[授業計画と内容]											
第一回～二回 『バイハキーの歴史』の背景についての解説 第三回～第十五回 ペルシア語資料の講読（訳注の作成）											
[履修要件]											
近世ペルシア語文法を学んでいること											
[成績評価の方法・観点]											
訳注の準備や発表などを踏まえた平常点80%。期末のレポート20%											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
上記のように出席者に和訳と註釈の準備を求めるので、予習は必須である。準備なしの出席は認めない。また、自らの担当回を無断で欠席した場合は単位認定しない。											
（その他（オフィスアワー等））											
授業中に指示する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系84

科目ナンバリング		U-LET25 36861 PJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(実習) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		西南アジア史学実習 Practice education for Western and Southern Asian history									
【授業の概要・目的】											
<p>学部学生を対象に、イスラーム圏の歴史研究に着手するにあたり、差し当たって必要な基本的知識を説明することを目的とする。また、本授業で得た知識をもとに、受講生が自身の卒業論文の対象となるおおよその時代、地域を決定することも、本授業の目的の一つである。</p> <p>The main purpose of this course is to explain students the essential skills necessary to undertake research activity into history of the Islamicate world.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム圏諸地域の歴史研究に必要な、言語、辞書、事典、工具書、および、主にインターネットを利用した各種文献の検索方法を知り、卒業論文完成に向け、自身の研究に着手することができる。 ・自身の研究テーマの大枠を決定することができる。 ・実際に、自身の研究テーマに関連した専門論文を検索し、その内容についてレジュメ付きで発表することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) acquire knowledge about the basic tools required to undertake research activity as dictionaries, encyclopedias, websites, and so on.</p> <p>(2) be able to decide their own topics of research.</p> <p>(3) be able to make a presentation about the contents of a professional paper relating to his/her topic of research.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 各時代、地域を研究するにあたり習得が必要な言語、および、辞書についての説明</p> <p>第2回 日本語および英語による事典、工具書類の説明</p> <p>第3回 インターネットを利用した各種文献の検索方法とその実践</p> <p>第4回～第6回 専門論文の読み方、自身の研究への利用方法、レジュメ化の方法について</p> <p>第7回～第9回 受講生各人が選択した時代、地域について、主に概説書等に基づきレジュメ付きの発表を実施</p> <p>第10回～第12回 受講生各人が選択した時代、地域について、各々が日本語の専門論文を一つ選択し、その内容につきレジュメ付きの発表を実施</p> <p>第13回～第15回 受講生各人が選択した時代、地域について、各々が英語（または、それ以外の外国語）の専門論文を一つ選択し、その内容につきレジュメ付きの発表を実施</p> <p>Week 1: the languages required to study specific times and regions, and their dictionaries</p> <p>Week 2: Encyclopedias and guidebooks for research activity</p> <p>Week 3: Websites</p> <p>Weeks 4-6: How to read and use professional papers for undertaking research activity</p>											
----- 西南アジア史学(実習)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(実習)(2)

Weeks 7-9: Students make short presentation about the time and region he/she picked as the subject of research

Weeks 10-12: Students make short presentation about the contents of a Japanese professional paper relating to his/her topic of research

Weeks 13-15: Students make short presentation about the contents of an English professional paper relating to his/her topic of research

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（50点）と各人が担当する一人あたり3回の発表の内容（50点）による。平常点は取り組む姿勢（授業時の質疑応答への積極的な参加等）による。

Participation (50%)

Presentations (50%)

【教科書】

使用しない

必要資料を電子ファイル化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

必ず前回の復習を行った上で授業に臨むこと。また、各回の発表を行うにあたっては、準備のために十分な時間をとること。

Students are required to make adequate preparations for each presentation.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系85

科目ナンバリング		U-LET25 36861 PJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(実習) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 稲葉 穰			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		西南アジア史学実習									
【授業の概要・目的】											
学部学生を対象に、イスラーム圏の歴史研究に着手するにあたり、差し当たって必要な基本的知識を説明することを目的とする。また、本授業で得た知識をもとに、受講生が自身の卒業論文の対象となるおおよその時代、地域を決定することも、本授業の目的の一つである。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム圏諸地域の歴史研究に必要な、言語、辞書、事典、工具書、および、主にインターネットを利用した各種文献の検索方法を知り、卒業論文完成に向け、自身の研究に着手することができる。 ・自身の研究テーマの大枠を決定することができる。 ・実際に、自身の研究テーマに関連した専門論文を検索し、その内容についてレジュメ付きで発表することができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 各時代、地域を研究するにあたり習得が必要な言語、および、辞書についての説明</p> <p>第2回 日本語および英語による事典、工具書類の説明</p> <p>第3回 インターネットを利用した各種文献の検索方法とその実践</p> <p>第4回～第6回 専門論文の読み方、自身の研究への利用方法、レジュメ化の方法について</p> <p>第7回～第9回 受講生各人が選択した時代、地域について、主に概説書等に基づきレジュメ付きの発表を実施</p> <p>第10回～第12回 受講生各人が選択した時代、地域について、各々が日本語の専門論文を一つ選択し、その内容につきレジュメ付きの発表を実施</p> <p>第13回～第15回 受講生各人が選択した時代、地域について、各々が英語（または、それ以外の外国語）の専門論文を一つ選択し、その内容につきレジュメ付きの発表を実施</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（50点）と各人が担当する一人あたり3回の発表の内容（50点）による。平常点は取り組む姿勢（授業時の質疑応答への積極的な参加等）による。											
----- 西南アジア史学(実習)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(実習)(2)

[教科書]

授業の際に必要な資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

必ず前回の復習を行った上で授業に臨むこと。また、各回の発表を行うにあたっては、準備のために十分な時間をとること。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29604 LJ48									
授業科目名 <英訳>		アラブ語(初級)(語学) Arabic				担当者所属・ 職名・氏名		国立民族学博物館 グローバル現象研究部 教授 西尾 哲夫			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	木2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		アラビア語の初級									
【授業の概要・目的】											
<p>前期の授業は、オンライン形式で実施する。 アラビア語は、西はモロッコから東はイラクまでの中東・北アフリカ諸国で使われており、およそ一億五千万人の母語となっている。またイスラム教(イスラーム)の聖典『コーラン(クルアーン)』はアラビア語で書かれているため、南アジア・東南アジア・中国などのムスリム(イスラム教徒)もアラビア語の知識をもっている。 この授業では、アラビア語の文字の書き方からはじめ、初級程度の文法事項をおしえる。</p>											
【到達目標】											
アラビア文字が読めて書けるようになる。また基本的単語については、弱子音を語根に含む単語についてアラビア語の辞書が引けるようになる。基本的な文章表現について読む・書く・話すができるようになる。											
【授業計画と内容】											
(1) アラビア語についての概説(1回目) (2) アラビア語学習法の概説(1回目) (3) アラビア文字(2回目から5回目) (4) 名詞(3回目) (5) 冠詞(4回目) (6) 名詞の格変化(5回目) (7) 規則複数(6回目) (8) 形容詞の用法(7回目) (9) 疑問文(8回目) (10) 場所の前置詞(9回目) (11) これまでの復習(10回目) (12) 存在文(11回目) (13) 国名とニスバ形容詞(12回目) (14) 数字の書き方と1~10までの数詞(13回目) (15) 不規則複数(1)(14回目) (16) 色の表現(15回目) (17) 動詞完了形(16回目) (18) 辞書の引き方(17回目) (19) 不規則複数(2)(18回目) (20) 11~100までの数詞(19回目) (21) これまでの復習(20回目) (22) 曜日の表現(21回目) (23) 動詞未完了形(22回目) (24) 名詞文と動詞文(語順)(23回目) (25) 時間表現(24回目)											
----- アラブ語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

アラブ語（初級）(語学)(2)

- (26) 比較表現 (25回目)
- (27) 弱動詞 (26回目)
- (28) 動詞派生形 (1) (27回目)
- (29) 未来表現 (28回目)
- (30) 動詞派生形 (2) (29回目)
- (31) これまでの復習と今後の学習方法 (30回目)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。出席を重視し、欠席が多い場合には単位を認めない。前期についてはオンラインで実施し、当該授業資料をダウンロードして学習した場合に出席したものとみなす。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

西尾哲夫 『言葉から文化を読む アラビアンナイトの言語世界』 (臨川書店) (とくに現代アラブ世界の言語状況についてふれた第1章)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業毎に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 39608 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イラン語（初級）（語学） Iranian				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語大学 国際言語平和研究所 嘱託研究員 杉山 雅樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イラン語（初級）									
【授業の概要・目的】											
イランの公用語であるペルシア語の初級を学ぶ。基本文法、基礎単語を修得し、初級レベルの総合的なペルシア語力を養うことを目的とする。											
【到達目標】											
基本的なペルシア語の文法規則・単語を習得することにより、平易な文章であれば辞書を使用しつつ読むことができるようになる。											
【授業計画と内容】											
（前期）											
第1回 インTRODクシヨ、文字											
第2回 発音と表記の注意点											
第3回 名詞、基本的な文章、疑問詞											
第4回 形容詞、エザーフエ、人称代名詞											
第5回 過去形、前置詞											
第6回 現在形 ・複合動詞											
第7回 現在形 ・未来形、副詞											
第8回 現在完了形・命令形											
第9回 仮説法、助動詞											
第10回 助動詞 、人称代名詞 、受動態											
第11回 接続詞											
第12回 関係詞、祈願文、副詞											
第13回 接続詞 、複合動詞 、過去分詞、現在分詞、その他											
第14回 確認テスト（1）、数詞											
第15回 フィードバック											
（後期）											
第16回 前期授業の復習、複雑な構造の文章 以降の授業では、平易なペルシア語のテキストを継続的に読み進める											
第17～28回 テキスト読解（1）～（12）											
第29回 後期授業の総括および確認テスト（2）											
第30回 フィードバック											
前期には文字の読み方や書き方を練習しつつ、基本的な文法や単語を学ぶ。後期には簡単な物語等を扱い、読解力の基礎を身につける。 原則として、前期の文法の授業では毎回復習のための小テストを行う。											
----- イラン語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

イラン語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価

前期（基礎文法）は、小テスト（50点）、確認テスト（50点）

後期（テキスト読解）は、予習の取り組み（50点）、確認テスト（50点）

【教科書】

授業中にプリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

特に後期の授業では、黒柳恒男『新ペルシア語大辞典』（大学書林）などペルシア語辞書を用いて予習する必要がある。

その他の辞書や文法書など参考になる文献については、授業中に指示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

文字の書き方、基本文法、基礎単語の修得が中心となる前期においては、毎授業後十分に復習をし、次の授業の冒頭に行われる小テストに備えること。

簡単な物語等を読み進める後期においては、各自辞書で単語を調べて訳文を作成しておくなど予習が必須である。

（その他（オフィスアワー等））

質問等があれば、sugiyama.masaki.25z@st.kyoto-u.ac.jpにご連絡下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 19616 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit(2H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級文法(2時間コース)									
[授業の概要・目的]											
<p>サンスクリット語は南アジア(インド)において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教(仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等)や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。</p>											
[到達目標]											
<p>このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>以下の文法事項の解説と、各項目に関する練習問題による読解演習とを平行して行います。</p> <p>前期 サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3回) 名詞・形容詞曲用(母音語幹:第4-8回、子音語幹:第9-13回) 代名詞、数詞、複合語(第14-15回)</p> <p>後期 動詞現在活用(第1種活用:第16-18、第2種活用:第19-22回) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29回) 年度末テスト(テスト期間) フィードバック期間:フィードバック(第30回)</p> <p>授業の進行は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。</p>											
----- サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)

[履修要件]

予備知識は特に必要としません。幅広い専攻からの受講を歓迎します。

[成績評価の方法・観点]

- ・平常点(練習問題への理解度、および理解への積極性、50点)
- ・年度末筆記試験(50点)。

[教科書]

吹田隆道(編著)『実習サンスクリット文法:萩原雲来『実習梵語学』新訂版』(春秋社)ISBN:978-4393101728

必要に応じて、補助資料(プリント)を配布します。

[参考書等]

(参考書)

辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波書店)ISBN:978-4000202220

[授業外学修(予習・復習)等]

予習:各回の進捗状況に合わせて、原則として次の2つのいずれかを授業中に指示します。

- ・宿題として出された練習問題の解答(訳)を準備してくること。
- ・次回の学習テーマとなる文法事項について、テキストの解説に目を通しておくこと。

復習:授業内容を見直すこと(特に、練習問題で正解できなかった点を中心に見直す)。

授業の進捗状況や受講生の理解度によって、変更する場合があります。基本的には、毎回の授業で指示します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 39620 LJ48									
授業科目名 <英訳>		シュメール語（初級）（語学） Sumerian				担当者所属・ 職名・氏名		国士舘大学 イラク古代文化研究所 研究員 森 若葉			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		シュメール語文法と楔形文字書記体系のしくみ、楔形文字文献の講読および内容の紹介									
[授業の概要・目的]											
<p>古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残す楔形文字言語である。</p> <p>この言語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、楔形文字で記されるシュメール語の文法と楔形文字文献について学ぶことを目的とする。</p> <p>文法の解説とともに、最古の文字である楔形文字の成立としくみ、および系統不明の古代語であるシュメール語ほか楔形文字言語の解読についてもふれる。</p> <p>比較的簡単なシュメール語資料の講読を行い、適宜、そのほかの資料についても内容の紹介をおこなう。死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキストを予定しているが、受講学生と相談し変更することもある。</p>											
[到達目標]											
<p>世界最古の文字で、その後三千年間古代メソポタミア世界の様々な言語を書き記した楔形文字の書記体系、およびシュメール語の基本的文法構造を理解する。</p> <p>また、楔形文字で記されたシュメール語のさまざまな文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語文法と楔形文字についての知識を深める。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいや受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。</p> <p><前期> 楔形文字およびシュメール語文法の概説とともに、簡単な資料の講読を行う。粘土板および円筒印章を作成する実習を行う。</p> <p>第1回 シュメール語の背景 メソポタミア文明の世界について</p> <p>第2回 シュメール語と楔形文字について</p> <p>第3回 楔形文字の解読と楔形文字で書かれた諸言語について（第3回）</p> <p>第4回 楔形文字の成立としくみについて（第4-5回）</p> <p>第5回 シュメール語文法（1）、楔形文字文献について</p> <p>第6回 シュメール語文法（2）、王碑文を読む</p> <p>第7回 シュメール語文法（3）、王碑文を読む</p> <p>第8回 シュメール語文法（4）、行政文書を読む</p> <p>第9回 楔形文字粘土板・円筒印章実習 - 粘土板と印章を作成</p> <p>第10回 シュメール語文法（5）、行政文書を読む</p> <p>第11回 シュメール文学の紹介</p> <p>第12回 シュメール文学作品を読む</p> <p>第13回 シュメール・メソポタミアの「法典」紹介</p> <p>第14回 裁判記録を読む</p> <p>第15回 行政文書・裁判記録を読む</p>											
----- シュメール語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

シュメール語（初級）(語学)(2)

<後期>

文法概説と並行して下記文献の講読、資料の紹介を進めていく。総合博物館の許可のもと、博物館が所蔵する楔形文字粘土板の見学実習を行う予定である。

- 第1回 文献から見るシュメールの生活
- 第2回 シュメール語文法（6）、行政文書を読む
- 第3回 シュメール語文法（7）、行政文書を読む
- 第4回 シュメール語文法（8）、行政文書を読む
- 第5回 シュメール文学作品を読む
- 第6回 シュメール語文法（9）、行政文書を読む
- 第7回 シュメール語文法・語彙文書概説、王碑文を読む
- 第8回 京都大学総合博物館所蔵資料紹介
- 第9回 京都大学総合博物館所蔵資料を読む
- 第10回 京都大学総合博物館粘土板見学実習
- 第11回 シュメール文学作品を読む
- 第12回 シュメール文学作品、王碑文を読む
- 第13回 行政文書、王碑文を読む
- 第14回 行政文書、王碑文を読む
- 第15回 まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（講読の状況・授業中の発言）[20%]および学年末レポート（シュメール語文献の翻字・翻訳）[80%]を予定。

[教科書]

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。
楔形文字の実習の際、粘土やカッターナイフ等を各自用意してもらう必要がある。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に授業中に配布する資料に目を通してもらうことがある。また、文献講読については、授業前にシュメール語テキストの文字や単語について調べてきてもらうことがある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系90

科目ナンバリング		U-LET49 19633 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（初級）(語学) Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 国際教養学部 准教授 小松 久恵			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語（初級）									
【授業の概要・目的】											
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初等文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通して、急激に変化を遂げる現代インド社会に触れる。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。											
【到達目標】											
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。インドの公用語であるヒンディー語を通して異文化世界としての北インドについて学び、世界認識の幅を広げる。ヒンディー文字を習得し、ヒンディー語の初級文法と簡単な会話を理解する。											
【授業計画と内容】											
教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語のみならずインドの社会風俗にも触れる。											
前期											
1．導入【1週】											
2．文字と発音【4週】											
3．文法と会話【9週】											
4．中間試験【1週】											
5．中間試験のフィードバック【1週】											
後期											
6．文法と会話【8週】											
7．文法と絵本・新聞講読【6週】											
8．期末試験【1週】											
9．期末試験のフィードバック【1週】											
【履修要件】											
授業には継続的に参加すること。											
----- ヒンディー語（初級）(語学)(2)へ続く -----											

ヒンディー語（初級）(語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（30％）と筆記試験（期末30、年度末40）によって評価する。

[教科書]

町田和彦『ニューエクスプレス ヒンディー語』（白水）ISBN:978-4-560-06791-8（同著者の「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと）

[参考書等]

（参考書）

辞書については初回の授業で紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業の前日までに前回の講義内容を見直し、特に前回の練習問題を復習しておく。インド関係の情報に関心を持つこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系91

科目ナンバリング		U-LET49 39639 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（初級）（語学） Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（初級）									
【授業の概要・目的】											
ヘブライ語の文字、母音記号などの聖書テキストの伝統、またラビ文学を含む歴史的な言語文化の変化を概要するとともに、文法の基礎（名詞、人称代名詞、形容詞、前置詞、語根、分詞ほか）を教える。名詞文の特徴的構造に親しみ、さらに個々の文法事項がもつ聖書解釈上の意義についても解説する。その際、16 - 17世紀の文法学者の意見も紹介する。											
【到達目標】											
ヘブライ語の文字と母音記号を認識して、文章を声に出して読めること。ヘブライ語作文ができること。辞書を使えるようになること。また簡単な名詞文の和訳ができること。											
【授業計画と内容】											
1．ヘブライ語の歴史（概観）、2．文字と母音記号、3．音節と区切り、4．形容詞と名詞（単数と複数）、5．形容詞と名詞（ジェンダーと性別他）、6．存在詞と非存在詞、7．現在分詞と名詞、8．語根とビニヤン（導入）、9．カルとニファル、10．ピエルとプアル、11．ヒフィルとフファル、12．ヒトパエルとニファル、13．人称代名詞と接尾辞、14．一般と唯一、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回を当てる場合もある。 * * 内容や順番は授業の進捗状況で多少変化することもある。 * * * 確認クイズは 2 ~ 3 回、学習の区切りで行う。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、小テスト（50%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
-----ヘブライ語（初級）（語学）(2)へ続く-----											

ヘブライ語（初級）(語学)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に指示する暗記課題や練習問題をする。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系92

科目ナンバリング		U-LET49 39640 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（中級）(語学) Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（中級）									
【授業の概要・目的】											
動詞（完了形・未完了形・命令形、時制など）のシステムと、その文章構造の理解を中心にヘブライ語文法の基礎を学ぶ。語根別の共通変化パターン、および歴史的な語根の混同また時制システムの歴史的な問題を学ぶ。聖書テキストを含む色々な時代のテキストを声に出して読み、テキスト翻訳の中で注意すべき文法的な事項の認識を深める。また聖書テキストの中にある、言葉の結びつきと切り離しの伝統（タアメイ・ミクラー）の重要性も解説する。動詞の理解については、16 - 17世紀の文法学者の意見にも注目する。											
【到達目標】											
動詞 / 完了・未完了の基本活用を覚えること。語根パターンが生む不規則変化を認識できること。完了・未完了・分詞を含む現代ヘブライ語の文構造を理解し翻訳できること。聖書ヘブライ語の特殊な時制構造を理解すること。辞書を効果的に用いること。母音記号なしのテキストも多少読めること。											
【授業計画と内容】											
1．名詞文と動詞の確認、2．名詞と動詞パラダイムの諸問題、3．完了形（基本）、4．未完了形（基本）、5．不定詞と命令形、6．レヴィータ文法（自動詞、他動詞）、7．レヴィータ文法（時制と時間）、8．語根 / ギズラー、9．W倒置と北西セム語、10．読解聖書、11．読解ラビ文献、12．読解中世文献、13．読解近代文献、14．読解現代文、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回の授業を要する場合もある。 * * 進捗状況をみながら内容や順番は多少変化する。 * * * 学習の区切りで、2~3回の確認クイズをする。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、注解レポート（50%）											
-----ヘブライ語（中級）(語学)(2)へ続く-----											

ヘブライ語（中級）(語学)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に指示する暗記課題やテキスト読解の予習をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系93

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学グローバル地域文化学部 石井 香江 准教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「男らしさ」から読み解く現代史									
【授業の概要・目的】											
<p>「男性」に注目し、かつ男女双方のジェンダーを統合する問題構成を持つ男性史の展開は、女性学・男性学の展開、社会史・女性史・ジェンダー史の展開とも並行して1990年代に欧米で本格化する。その後、コンネルが提示した「男らしさ」の複数性という見方や、ブルデューのハビトゥス概念を援用ないし批判する様々なテーマや地域・時代を対象にした実証研究が蓄積されている。本講義では、以上の展開をおさえた後、近現代ヨーロッパの「男らしさ」の核心をなす「名誉」・「闘い」・「暴力」（また、これらを支える「身体」）というテーマに主に着目し、ドイツ及び隣接する国々の現代史で「男らしさ」が果たした役割と帰結について考察したい。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 「男らしさ」という概念と男性史の持つ意義を女性史・ジェンダー史と関連付けて理解する。</p> <p>(2) ドイツ及び隣接する国々の現代史、特に「名誉」・「闘い」・「暴力」が全面化する戦争のメカニズムを、「男らしさ」という概念を軸に、かつ具体的な文字・図像史料を読み解くことを通じて理解する。</p> <p>(3) 近現代ヨーロッパの「男らしさ」の役割を理解することを通じて、現代社会のその他の個別の問題と、その背後に潜むジェンダー化された構造を探り当てる手がかりとする。</p>											
【授業計画と内容】											
各1～3回で以下のテーマとそれに関連する事項について学びます（全15回）。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 男らしさと名誉 2. 身体の再発見 3. 植民地状況における男らしさ 4. 戦争と男らしさ 5. 戦争とセクシュアリティ 6. 戦後の男らしさの行方 											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点 20点（受講生はほぼ毎回コメントシートを提出）、中間レポート 20点、口頭報告 20点、期末レポート 40点（受講生は授業に関連するテーマの課題に対し、自分で調べた上で批評を書き、提出する）の4点で評価する。

[教科書]

授業中に配布するレジюмеと資料、スクリーンに映す資料に沿って授業を進めます。

[参考書等]

（参考書）

A・コルバン / J-J・クルティエヌ / G・ヴィガレロ監修 『男らしさの歴史 男らしさの危機？ 20 - 21世紀』（藤原書店）ISBN:978-4-86578-131-1（特に購入する必要はありません。）
その他の参考文献については、授業中に適宜指示します。

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書も含めて、授業中に適宜指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系94

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		カエサル『ガリア戦記』精読I									
[授業の概要・目的]											
カエサル『ガリア戦記』をラテン語テキストに即して精読し、ラテン語読解能力を高めるとともに、古代ローマの文化・歴史の理解を深めることを目的とする。 授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。											
[到達目標]											
ラテン語原典の読解力を身につける。 古代ローマの文化や歴史を理解する。 作品の意図を考察できるようになる。 テキストの内容について議論する能力を養う。											
[授業計画と内容]											
カエサル『ガリア戦記』のラテン語テキストを精読する。授業では毎回数章ずつ読み進め、履修者相互で議論しながら作品の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。 第1回：イントロダクション 第2回～13回：カエサル『ガリア戦記』第1巻 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
配布する注釈を熟読すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系95

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		カエサル『ガリア戦記』精読II									
[授業の概要・目的]											
カエサル『ガリア戦記』をラテン語テキストに即して精読し、ラテン語読解能力を高めるとともに、古代ローマの文化・歴史の理解を深めることを目的とする。 授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。											
[到達目標]											
ラテン語原典の読解力を身につける。 古代ローマの文化や歴史を理解する。 作品の意図を考察できるようになる。 テキストの内容について議論する能力を養う。											
[授業計画と内容]											
カエサル『ガリア戦記』のラテン語テキストを精読する。授業では毎回数章ずつ読み進め、履修者相互で議論しながら作品の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。 第1回：イントロダクション 第2回～13回：カエサル『ガリア戦記』第1巻 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
配布する注釈を熟読すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系96

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア帝国とジョージア(グルジア)									
【授業の概要・目的】											
<p>19世紀後半から1905年までの帝政ロシア支配下のザカフカス(トランスコーカサス)史を、ジョージア(グルジア)中心に概観する。</p> <p>ロシア人がチェチェン人やグルジア人に抱くイメージは、少なくとも19世紀以来現代に至るまで、「高貴な野蛮人」あるいは単に「野蛮人」である。ザカフカスは帝政ロシア初の本格的植民地であり、オスマン帝国との最前線の一つでもあった。住民に対する民族学的視線は帝国の統治政策に直結すると同時に、「高貴な野蛮人」への文学的憧憬をも産み出し、それはグルジア人などの現地住民にもフィードバックされた。治安の悪さで悪名高いザカフカスは、傭兵の輸出地としても名高く、義賊伝説に溢れ、スターリン等の革命家を輩出した地でもあった。本講義では帝国とグルジア人の関わりを主軸に、19世紀後半におけるナショナリズムと社会主義の相関関係について考えたい。</p>											
【到達目標】											
ロシア帝国に関する基本的知識を習得し、帝国と植民地についての歴史的イメージを会得する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2,3回：「半アジア人」</p> <p>第4,5回：露土戦争</p> <p>第6,7回：「ムスリム・グルジア人」の文字と宗教</p> <p>第8,9回：油田とマンガン鉱山</p> <p>第10,11回：マルクス主義サークル</p> <p>第12,13回：義賊と革命</p> <p>第14回：1905年</p> <p>第15回：おわりに</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは、月曜3限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系97

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア革命とジョージア(グルジア)									
【授業の概要・目的】											
<p>南カフカスは「東部戦線」と並んでロシア帝国の最前線だった。ジョージア(グルジア)の社会主義者やアルメニアやアゼルバイジャンの民族主義者のほとんどは、第一次世界大戦開戦に際し、帝国の戦争に全面協力した。帝国の中心における革命は彼らにとって予期せぬ事件だったが、さまざまな構想を一気に開花させる力となった。本講義では南カフカスにおける戦争と革命の経緯をジョージア中心にたどりつつ、ロシア革命なるものの影響力を再考したい。</p>											
【到達目標】											
<p>第一次世界大戦とロシア革命についての基礎的知識を習得するとともに、帝国・戦争・革命に対する歴史的洞察力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション 第2,3回：ロシア1905年革命、イラン立憲革命、青年トルコ人革命 第4,5回：バルカン戦争と戦争準備 第6回：敵性国民としてのドイツ人 第7,8回：カフカス戦線と「アルメニア人問題」 第9,10回：社会主義者の戦争 第11回：ロシア革命とカフカス 第12回：ジョージア民主共和国の成立 第13,14回：民主共和国と地域問題 第15回：おわりに</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。</p>											
【教科書】											
<p>プリントを配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは、月曜3限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		滋賀大学教育学部 教授 大清水 裕			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		北アフリカから見た古代ローマ世界									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの歴史は、現在ではヨーロッパの過去として語られることが多い。しかし、現実のローマ帝国は地中海世界全体を統一し、ヨーロッパだけでなく西アジアや北アフリカの諸地域も支配下においた。経済的に見れば、むしろアジアやアフリカこそローマ帝国の繁栄を支えていたとも言える。しかし、古代ローマの通史において北アフリカが登場するのは、共和政期のポエニ戦争や古代末期のヴァンダル王国の建国程度にとどまり、その印象は薄い。この授業では、ポエニ戦争からイスラームによる北アフリカ征服までを視野に入れて、北アフリカから古代ローマの歴史を見直すことを試みる。「ヨーロッパの過去」に留まらない、古代ローマ世界に対する新しい視点を獲得し、理解することがこの授業の目的となる。</p>											
【到達目標】											
<p>・古代ローマ史に関する基本的な流れを理解し、ローマ帝国支配下における北アフリカ社会の変容について、史料に基づき自分の言葉で説明できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨン：古代ローマ世界における北アフリカ 第2回 ポエニ戦争とヌミディア王国の形成 第3回 カエサルの見た北アフリカ 第4回 マウレタニア王国とヘレニズム世界 第5回 ローマ植民市カルタゴ 第6回 タキトゥスの見た北アフリカ：タクファリナスの反乱 第7回 北アフリカにおけるローマ皇帝礼拝の展開 第8回 軍隊と都市：ランバエシスとティムガドを例に 第9回 バナサ青銅板に見るローマ支配 第10回 北アフリカの農業 第11回 セプティミウス・セウェルス帝の時代 第12回 「アフリカのローマ人」の世界 第13回 北アフリカにおけるキリスト教の展開 第14回 ヴァンダルとビザンツ 第15回 まとめとフィードバック</p>											
【履修要件】											
<p>授業に参加する前提として、高校世界史教科書程度の古代ローマ史の知識は復習しておくことが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>最終試験（70点）、授業への参加状況（30点） ・授業で受講生の意見を聞く機会を設けるので、その回答内容により授業への参加状況を判断する。</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

・最終試験は、授業の進行状況によりレポートに変更される場合があるので、授業での指示に留意すること。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

・初回授業時に授業計画を説明するので、以後、授業前に関連する知識を自分なりに整理しておくこと。
・授業後には、配布資料を基に授業内容を振り返り、そのテーマに関して自分の意見を説明できるようにしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

質問については、原則として授業時に対応します。また、メールでの質問も受け付けますので、必要に応じ oshimizu@edu.shiga-u.ac.jp にメールしてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西大学文学部 助教 嶋中 博章			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世フランスの宮廷社会									
【授業の概要・目的】											
<p>「時計と暦があれば、宮廷から三百里離れたところでも、ある時刻に王が何をしているのかを知ることができた」。ルイ14世時代の貴族、サン＝シモン公のこの証言は、フランス宮廷の特徴を示すものとして、しばしば引用されてきました。しかし近年の研究は、より無秩序で混沌とした宮廷生活の現実を強調しています。そこでこの講義では、近世フランスの宮廷に暮らす人々の日々の営みと宮廷を舞台に繰り広げられた儀礼とに着目し、改めて宮廷生活の実態や宮廷の社会的・政治的機能について考えたいと思います。</p>											
【到達目標】											
近世フランスの宮廷社会の特質を理解するとともに、宮廷の社会的・政治的機能について歴史的に考察する力を身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入：古典的宮廷研究とそれへの批判 第2回 ヴェルサイユ宮廷の成立 第3回 ヴェルサイユの居住問題 第4回 ヴェルサイユの住居設備 第5回 ヴェルサイユの食卓 第6回 ヴェルサイユの都市空間 第7回 宮殿の維持・管理 第8回 ヴェルサイユの警備 第9回 ヴェルサイユの訪問者 第10回 ヴェルサイユの褻(ケ)と晴(ハレ) 第11回 王家の慶事(1) 出生 第12回 王家の慶事(2) 結婚 第13回 王家の弔事 第14回 まとめと復習 第15回 フィードバック * フィードバックの方法については授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点：50%

(各回の授業中にミニレポートを実施する)

期末レポート試験：50%

(講義内容の理解を前提に、所定の論点に関する論述式のレポートを課す)

[教科書]

使用しない

講義内容に関連する資料を授業中に配布する。

[参考書等]

(参考書)

ノルベルト・エリアス 『宮廷社会』 (法政大学出版局) ISBN:4-588-00107-8

J. ダインダム 『ウィーンとヴェルサイユ ヨーロッパにおけるライバル宮廷1550～1780』 (刀水書房) ISBN:978-4-88708-424-7

その他、講義に関連する文献について授業中に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：概説書などを読み、西洋およびフランスの歴史に関する基礎的な知識を身につける。

復習：受講ノートを読み返すとともに、授業中に紹介された文献を可能な限り読み、理解を深める。

(その他(オフィスアワー等))

毎回の授業終了後に、質問や相談を受けつけます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系100

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ポスト・ブレクシット時代の「イギリス」史像(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>ブレクシットはイギリスの先行きを不透明にするだけでなく、イギリスの過去の理解(イギリス史像)の再考を促す契機となりうる。「ヨーロッパの中のイギリス」についての否定的な評価には、イギリス史像全般の再構築を要請するだけのインパクトがある。その際、「イギリス」は少なくともイングランド、ブリテン、UK、帝国、という4つのレベルで把握される必要がある。これら4つのレベルの「イギリス」にとってヨーロッパとはなんだったのか、を振り返るため、前期・後期の授業とともに、イングランドが「属領」だった時代からポスト・ブレクシット時代までを射程に収める1000年のスパンをとる。</p>											
【到達目標】											
<p>11世紀から今日に至る長いパースペクティブの下で歴史を把握する能力を身に着けること。「イギリス」史をヨーロッパ大陸とのインタラクションの中で理解する能力を身に着けること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1)ブレクシットと「イギリス」史(1回) (2)「衰退」と「逆転」の語り(2回) (3)「偉大さ」からの転落(2回) (4)「脱工業化」と「衰退」(1回) (5)イングランドからブリテンへ(2回) (6)UKの形成(2回) (7)UKの統合力(1回) (8)UKの再編(2回) (9)UKの解体?(2回)</p> <p>授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。</p>											
【履修要件】											
前期・後期の授業を通年で受講すること。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートによって評価する。											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受験参考書のレベルで構わないので、1066年以降の「イギリス」史の流れについて最低限の知識を備えたうえで受講すること。

(その他(オフィスアワー等))

通年の受講が望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系101

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ポスト・ブレクシット時代の「イギリス」史像(2)									
【授業の概要・目的】											
前期の授業から引き続き、ポスト・ブレクシット時代の「イギリス」史像を考える。後期の授業では、特に帝国としての「イギリス」、「イギリス」にとってのヨーロッパ、という2つのテーマを集中的に検討する。前期の授業と同じく、1066年を起点とする長いパースペクティブをとる。											
【到達目標】											
前期と同じ。11世紀から今日に至る長いパースペクティブの下で歴史を把握する能力を身に着けること。「イギリス」史をヨーロッパ大陸とのインタラクションの中で理解する能力を身に着けること。											
【授業計画と内容】											
(1) 奴隷制の帝国(2回) (2) 「自由」の帝国(2回) (3) 「アングロスフィア」(1回) (4) 帝国と移民(2回) (5) 「属領」時代のヨーロッパ(1回) (6) ヨーロッパと「島国」(1回) (7) フランス、ドイツ、アメリカ(2回) (8) ヨーロッパ統合へのスタンス(2回) (9) EU離脱(1回) (10) 総括(1回)											
授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。											
【履修要件】											
前期の授業を受講していることを条件とする。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートによって評価する。											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受験参考書のレベルで構わないので、1066年以降の「イギリス」史の流れについて最低限の知識を備えたうえで受講すること。

(その他(オフィスアワー等))

通年の受講が望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系102

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> 1 食をめぐる研究の方法 2 明治大正期の食 3 アジア太平洋戦争までの食 4 戦後の食 5 牛乳の歴史学 6 品種改良の歴史学 7 フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』 藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』 藤原辰史 『ナチスのキッチン』 藤原辰史 『カブラの冬』 ポール・ロバーツ 『食の終焉』											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

藤原辰史『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系103

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> 1 食糧戦争としての第一次世界大戦 2 有機農業の歴史 3 毒ガスと農薬の歴史 4 トラクターの歴史 5 戦時期の農村女性たち 6 食糧戦争としての第二次世界大戦 7 フィードバック 											
【履修要件】											
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。											
【成績評価の方法・観点】											
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』</p> <p>藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』</p> <p>藤原辰史 『ナチスのキッチン』</p> <p>藤原辰史 『カブラの冬』</p> <p>ポール・ロバーツ 『食の終焉』</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

藤原辰史『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系104

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		銘文からみるローマ帝国史 I									
[授業の概要・目的]											
<p>本授業は、紀元前3世紀末からいわゆる「古代末期」とよばれる時代の後半（紀元7世紀頃）までのローマ帝国を対象に、石や金属に刻まれた銘文、特にギリシア語銘文を通じて、ローマ帝国の政治、社会、文化、宗教、経済のさまざまな側面を明らかにすることを目的とする。数十万の規模で発見されている銘文は、帝国中央のエリート層が残した文献史料とは異なる歴史学的意義を持っている。本授業では、銘文を通じて見えてくるローマ帝国の姿を明らかにしながら、銘文史料の特徴と限界についても検討する。また、ギリシア語銘文を中心的に扱うことによって、概説書などで注目されることの少ないアレクサンドロス大王以降のギリシア語圏に関する、重要な歴史学上の問題に触れることになる。</p> <p>前期の授業（I）では、主として前3世紀末から紀元1世紀までを対象として、ローマの帝国化のプロセスとそれに伴うギリシア語圏の変化を、銘文を通して明らかにしていく。</p>											
[到達目標]											
<p>ローマ帝国に関する銘文（特にギリシア語銘文）の特性を理解し、銘文を通じて、ローマ帝国の政治、社会、文化、宗教、経済のさまざまな側面を考察できるようになる。同時に、アレクサンドロス大王以降のギリシア語圏がローマ帝国によってどのように変化したのかを、説明できるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>おおむね以下の内容に従って講義を進めていく。</p> <p>1. イントロダクション（2回） 銘文史料の概観、銘文史料の特長と限界の解説、史料の出版・研究状況の概観、ローマ帝国史の概要の確認</p> <p>2. ローマのヘレニズム世界への進出（2回） 前3世紀末から前2世紀にかけてのローマ帝国のヘレニズム世界の進出を、おもにギリシア語銘文から分析する。</p> <p>3. 内乱の舞台としてのヘレニズム世界（3回） ギリシア語圏を舞台に戦われた前2世紀から前1世紀までのローマの内乱を、銘文を利用しながら、ギリシア人の目線から理解していくことを試みる。</p> <p>4. アウグストゥス体制（3回） 前1世紀末に成立したアウグストゥスの統治体制が、ギリシア語圏にどのようなインパクトを与えたのかを、おもに銘文を通して理解する。</p> <p>5. 属州統治と都市自治・都市生活（4回） ヘレニズム期からローマ帝政期への変化を視野に入れつつ、紀元1～2世紀の属州統治と都市自治の</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

あり方、そして祝祭やスペクタクルを含んだ都市生活の実態を銘文から明らかにする。

6. まとめ・フィードバック(1回)

フィードバックは、担当教員が本講義に関する質問を受け付ける形で実施する。

【履修要件】

受講にあたって、古代ギリシア語やラテン語、および西洋古代史に関する知識は前提とはしていない。

【成績評価の方法・観点】

筆記試験をおこなう。講義内容に関する筆記試験をおこない、これに基づいて授業の理解度を評価する。

【教科書】

教科書は特に使用しない。授業に関する史料については、日本語などに訳したものを授業中に配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に紹介された文献を可能な限り参照し、授業に使用したレジュメなどをしっかりと復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

後期の同じ曜日・時限に開講される特殊講義「銘文からみるローマ帝国史Ⅱ」も連続して受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		銘文からみるローマ帝国史 II									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業は、紀元前3世紀末からいわゆる「古代末期」とよばれる時代の後半（紀元7世紀頃）までのローマ帝国を対象に、石や金属に刻まれた銘文、特にギリシア語銘文を通じて、ローマ帝国の政治、社会、文化、宗教、経済のさまざまな側面を明らかにすることを目的とする。数十万の規模で発見されている銘文は、帝国中央のエリート層が残した文献史料とは異なる歴史学的意義を持っている。本授業では、銘文を通じて見えてくるローマ帝国の姿を明らかにしながら、銘文史料の特徴と限界についても検討する。また、ギリシア語銘文を中心的に扱うことによって、概説書などで注目されることの少ないアレクサンドロス大王以降のギリシア語圏に関する、重要な歴史学上の問題に触れることになる。</p> <p>後期の授業（II）では、主として紀元1世紀から「古代末期」までを対象として、特にローマ帝国下でのギリシア語圏のアイデンティティ形成、宗教的实践とその変化、政治・社会の変化、ギリシア語圏の「古代末期」的特徴などを、銘文を通して明らかにしていく。</p>											
【到達目標】											
<p>ローマ帝国に関する銘文（特にギリシア語銘文）の特性を理解し、銘文を通じて、ローマ帝国の政治、社会、文化、宗教、経済のさまざまな側面を考察できるようになる。同時に、アレクサンドロス大王以降のギリシア語圏がローマ帝国によってどのように変化したのかを、説明できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下の内容に従って講義を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1回） 銘文史料の概観、銘文史料の特長と限界の解説、史料の出版・研究状況の概観、ローマ帝国史の概要の確認、前期の授業（銘文からみるローマ帝国史 I）の復習、をおこなう。 2. ローマ帝政期のギリシア人のアイデンティティ（3回） 帝政期のギリシア人のアイデンティティ形成を、帝国と属州の双方の立場から、銘文を通して理解することを試みる。 3. 宗教実践の伝統と革新（4回） 伝統的なギリシア・ローマの宗教、皇帝崇拜、キリスト教、ユダヤ教といった諸宗教体系を対象として、そこにおける伝統と革新との関係を銘文を通じて考える。 4. 心性の変化（2回） 銘文に残された身体・精神、感情のあり方への言及や、墓碑銘の分析を通じて、ローマ帝政期の人々にどのような人間理解の変化が生じたのかを検討する。 5. 古代版「グローバル」世界（2回） 											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

ローマ帝政期における経済の変化とそれにもなう社会的な変動を銘文から読み解き、古代版の「グローバル」世界の実態に迫る。

6. 「古代末期」のギリシア語銘文（2回）

紀元3世紀以降のいわゆる「古代末期」におけるギリシア語銘文を検討しながら、これまでの授業で検討したギリシア語圏のあり方がどのように変化したのか考える。

7. まとめ・フィードバック（1回）

フィードバックは、担当教員が本講義に関する質問を受け付ける形で実施する。

【履修要件】

受講にあたって、古代ギリシア語やラテン語、および西洋古代史に関する知識は前提とはしていない。

【成績評価の方法・観点】

筆記試験をおこなう。講義内容に関する筆記試験をおこない、これに基づいて授業の理解度を評価する。

【教科書】

教科書は特に使用しない。授業に関する史料については、日本語などに訳したものを授業中に配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介された文献を可能な限り参照し、授業に使用したレジュメなどをしっかりと復習すること。

（その他（オフィスアワー等））

前期の同じ曜日・時限に開講される特殊講義「銘文からみるローマ帝国史Ⅰ」も連続して受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系106

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金澤 周作			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世海域史とイギリス									
【授業の概要・目的】											
<p>世界史上のグローバル化と海は不可分の関係にある。西洋が全地球的に海洋進出を本格化させるのは15世紀末以降のことであり、しばらくは、いかなる意味でも世界の支配者ではなかった。しかし、近世を経て、19世紀になると、欧米諸列強の海洋支配と世界支配は疑いようのないものとなった。本講義では、19世紀の「近代的」な海洋世界の前史となる、近世の海域世界について、主としてイギリス史の研究に基づき、これと関わる範囲で、具体的な世界を描いていく予定である。</p>											
【到達目標】											
<p>近代海域史の基本的な問題群を把握し、次いで、そこでイギリスの果たした役割の質を理解できるようになることが、この授業の到達目標である。さらにそれを通じて、歴史学研究の不可欠の手続きや、これから追究すべき学問的課題とは何であるかについて、受講者が適切な見解を示す能力を自ら培うことも目標となる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本講義では、ヨーロッパ近世の海域史の諸問題をを検討する。グローバルな海とそこで活動したアクターに注意を払いつつ、力点はヨーロッパ、なかでも近世のあいだに辺境国から最大最強の海軍・海運国になり上がったイギリスに置かれる。いわゆる国際関係やトランスナショナルな現象にも相応の言及をする。</p> <p>講義は、以下の順で進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・序論 海域史の問題意識と射程について、これまでの大きな研究の流れを踏まえて解説する。2回 ・近世ヨーロッパ海域史 16世紀以降のヨーロッパ海域史において明らかにされてきた重要なトピックを解説する。 <p>地中海史 アトランティック・ヒストリー 東インド会社 海賊 海難 私掠 海戦・海軍 船乗りの社会史 以上で計12回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックは、担当教員が研究室で待機し、本講義に関する質問を受け付ける形で実施する。1回 											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

筆記試験をおこなう。
講義内容の要点に関する理解度を確認するために筆記試験をおこない、その結果によって評価する。
講義をした範囲に関して、到達目標に掲げた水準に達しているかどうかで達成度を測ることとする。

【教科書】

プリントで配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

講義で担当者が紹介する文献をできるだけ参照すること。

(その他(オフィスアワー等))

後期の同じ曜日・時限に開講される特殊講義「近代海域史とイギリス」も連続して受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系107

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金澤 周作			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代海域史とイギリス									
【授業の概要・目的】											
<p>世界史上のグローバル化と海は不可分の関係にある。西洋が全地球的に海洋進出を本格化させるのは15世紀末以降のことであり、しばらくは、いかなる意味でも世界の支配者ではなかった。しかし、近世を経て、19世紀になると、欧米諸列強の海洋支配と世界支配は疑いようのないものとなった。本講義では、近世と近代の差異、そして19世紀のはじめとおわりの差異に注意を払いつつ、主として19世紀史を海から問い直す。検討の中心となるのは覇権国イギリスであるが、この時期に展開する人と海との関わりの多面的な歴史を、なるべく体系的に講じていく予定である。</p>											
【到達目標】											
<p>近代海域史の基本的な問題群を把握し、次いで、そこでイギリスの果たした役割の質を理解できるようになることが、この授業の到達目標である。さらにそれを通じて、歴史学研究の不可欠の手続きや、これから追究すべき学問的課題とは何であるかについて、受講者が適切な見解を示す能力を自ら培うことも目標となる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本講義では、世界の19世紀海域史の諸問題をを検討する。グローバルな海とそこで活動したアクターに注意を払いつつ、力点はヨーロッパ、なかでも当時の最大最強の海軍・海運国イギリスに置かれる。いわゆる国際関係やトランスナショナルな現象にも相応の言及をする。</p> <p>講義は、以下の順で進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・序論 近世海域史の特徴を簡単にまとめた上で、19世紀の海域史の問題意識と射程について解説する。2回 ・19世紀海域史 近年明らかにされてきた重要なトピックを解説する。 <p>海域の社会的構築 帆船から蒸気船へ 世界の海軍力の角逐 海運業 旅客と移民 保険 造船業 運河建設 漁業と捕鯨業 海洋資源 国際ルール 以上で計12回</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

- ・フィードバックは、担当教員が研究室で待機し、本講義に関する質問を受け付ける形で実施する。
1回

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

筆記試験をおこなう。
講義内容の要点に関する理解度を確認するために筆記試験をおこない、その結果によって評価する。
講義をした範囲に関して、到達目標に掲げた水準に達しているかどうかで達成度を測ることとする。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義で担当者が紹介する文献をできるだけ参照すること。

(その他(オフィスアワー等))

前期の同じ曜日・時限に開講される「近世海域史とイギリス」を受講しておくことが望ましい。
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系108

科目ナンバリング		U-LET26 36940 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(演習 I) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 I (西洋古代史演習)									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。主に外国語で書かれた一次史料ならびに二次文献を分析することで、基本的な歴史的事象やこれまでに学界で議論されてきた代表的論点を学び、自身で歴史学的課題を設定し、それを解決する能力を涵養する。また、研究の成果を口頭・文書で論理的に表現し、他の研究者と意義あるディスカッションをおこなう技能の獲得も目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>西洋古代史の基本的な歴史的事象と代表的な歴史学的論点を理解することで、自身の研究を遂行できるようになる。学部3回生にあっては、卒業論文の研究テーマの選択や一次史料・二次文献の収集・分析の方法の基礎を習得できる。4回生以上は、自身の卒業論文研究をさらに深化させることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下の内容に従って演習を進めていく。ただし、報告割当の都合などで、各内容の順番は前後する可能性がある。</p> <p>今年の演習のテーマは、共和政後期から帝政前期にかけてのローマ帝国の統治と属州行政である。このテーマに関して外国語の二次文献の講読と一次史料の分析を組み合わせることで、基礎的な歴史知識を養うと同時に、これまで学界で議論されてきた重要な論点の意義と将来性を見抜く能力を獲得する。今回の基本テキストは、ギリシア語圏地域にも深く関わるもので、ギリシア古典期ならびにヘレニズム期の政治史、社会史の重要テーマもカバーしている。各受講生は、この演習での経験をもとに、各自の研究の深化を図ってほしい。</p>											
1. イントロダクション (1回)											
演習の目的と内容の説明、担当教員・受講生の自己紹介、報告順序の決定をおこなう。											
2. 基本テキスト講読 (10回)											
ローマ共和政後期から帝政前期にかけてのローマの帝国統治と属州行政の入門書として評価の高い、A. Lintott (1993) <i>Imperium Romanum: Politics and Administration</i> を講読する。また、本書の理解を容易にするために、吉村忠典 (1997) 『古代ローマ帝国』を事前に講読する。											
3. 一次史料・個別論文講読 (10回)											
基本テキストに関連する一次史料 (キケロ『ウェッレーヌ弾劾』など) と重要論点に関わる個別論文を講読する。											
4. 受講生の研究報告 (7回)											
受講生が各自の研究テーマについて報告する。											
5. まとめ・フィードバック (2回)											
----- 西洋史学(演習 I)(2)へ続く -----											

西洋史学(演習Ⅰ)(2)

フィードバックは、担当教員が本演習に関する質問を受け付ける形で実施する。

【履修要件】

古代ギリシア語やラテン語の読解能力、および西洋古代史の専門的知識は必須の履修要件ではない。西洋古代史の分野で卒業論文を執筆することを考えている学生の出席を授業の前提とする。

【成績評価の方法・観点】

報告分担時の報告内容、ディスカッションへの参加などを総合的に勘案し、到達目標の達成度を基準として、平常点で評価する。

【教科書】

使用するテキストは授業初回で紹介し、進行にあわせて準備する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

基本テキスト、一次史料、個別論文の事前の予習が不可欠である。相当の勉強時間が必要になるかもしれないが、この作業を通じて、自身の研究テーマに関する外国語文献を読み通す力と自信を手に入れることができる。

(その他(オフィスアワー等))

学部聴講生・科目等履修生は受講できません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系109

科目ナンバリング		U-LET26 36942 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(演習II) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		甲南大学 文学部 教授 佐藤 公美			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 II (西洋中世史演習)									
【授業の概要・目的】											
<p>前期は中世ヨーロッパ史に関する欧米の相対的に新しい研究文献を読解し議論する。これにより現在の歴史学方法論と理論及び中世史研究上の諸論点を学び、理解を深めるとともに、中世ヨーロッパ史についての基本的な知識を身に着けることを目指す。</p> <p>後期は受講生が各自の研究テーマについて研究発表を行い議論する予定である。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・英語による西洋史学の専門文献の読み方を習得する。 ・ヨーロッパ中世史に関する歴史学研究上の諸論点を理解する。 ・専門的な文献と史資料の理解に基づいた議論を行い、適格な説明や問題提起を行うことができるようになる。 ・各受講生が自らの研究を深めるための知識、技術、考え方を習得する。3回生は自らの卒業論文のテーマ選択をして卒業研究の準備をし、4回生は卒業論文のための研究を深化発展させる力を身に着ける。 											
【授業計画と内容】											
<p>歴史教育のみならず、世界そのものが大きく変わろうとする現在、学校教育からこぼれ落ちてゆく前近代史の専門的研究・教育の意義と方法の深い理解がかつてなく重要になった。変化の激しい時代にあつてこそ、人類の歴史を長期的視点から理解する力がなければ、その変化の重み・規模・方向・意味を見定め、自由で独立した精神と肉体を持った人間として自らの運命を自らの手に握ることはできないからだ。中世ヨーロッパは、古代と近世・近代の間にあつて、現代世界の基層をつくる文明史的転換を経験した。この対象と真正面から向き合うことが、長い人類史に切り込む重要な一手になるだろう。</p> <p>しかし、研究が一層の細分化を続けながら急速に進歩する現在、一つの「時代」と向き合うことは果たして可能なのか？長い蓄積を持つ古典的主要問題と新しい研究動向・方法が切り結ぶ場所に立ち、基本に帰りつつ同時に新地平を探ることがその一助となるはずだ。そもそも知りもしないものを乗り越えることなどできないし、土台のない場所に新しい家は建たない。</p> <p>そこで今回の演習では、中世史の古典的主要問題「封建制」と「封建社会」をめぐる諸問題と研究史を振り返りながら、新たな中世社会像を考えることを目指し、その出発点となる英語文献を精読し議論する。テキストとしては以下の文献を用いる。</p> <p>West, Charles, Reframing the Feudal Revolution: Political and Social Transformation Between Marne and Moselle, c. 800-c. 1100, Cambridge University Press, 2013.</p> <p>各回の授業内容は以下の通り。</p> <p>第1回 前期イントロダクション 取り上げる文献の概要と方法論、研究状況についての導入的説明を行う。またヨーロッパ中世史研究の基本的な道具を紹介し、授業の進め方の確認と担当の分担を行い、第2回・第3回に用いる導</p>											
----- 西洋史学(演習II)(2)へ続く -----											

西洋史学(演習II)(2)

入用の日本語・英語文献の配布を行う。

第2回～第3回 封建制と封建社会をめぐる諸研究の概要について日本語と英語の導入的文献を読解し議論を行う。

第4回～第14回 文献Reframing the Feudal Revolutionの読解・発表・議論を行う。受講生の関心と必要に応じて、適宜補助的な資料の配布と読解、説明、議論を行う。

第15回 まとめ

文献読解の成果をまとめ、課題を確認する。

第16回 後期イントロダクション

受講生各自の興味や研究課題を確認し、授業の進め方の確認と発表の割り当てを行う。

第17回～29回 受講生各自の研究発表

受講生数や個々人の研究の現状に応じて、場合によっては先行研究の紹介と批判的検討、史料の精読、全体的な研究発表などいくつかの項目に分けて授業を構成する。

第30回 まとめ

後期の授業を振り返り、受講生各自の今後の課題と必要な文献や史料の確認を行う。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。演習時の報告と討論への参加に基づき、上記到達目標を踏まえて総合的に評価する。

【教科書】

Charles West 『Reframing the Feudal Revolution: Political and Social Transformation Between Marne and Moselle, c. 800-c. 1100』 (Cambridge University Press, 2013) ISBN:9781107028869
テキストとなる文献の入手については別途指示する。補足資料は随時配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

前期の英語文献の予習は必須。随時紹介・配布する参考となる文献や資料も読んでおくこと。その他、関連する文献や資料を各自主体的に読み進めていくことが望ましい。

西洋史学(演習II)(3)へ続く

西洋史学(演習II)(3)

(その他(オフィスアワー等))

演習では主体的に関わっただけの成長が得られるので、しっかり文献を読み込み準備をした上で、積極的に臨んでほしい。また、ぜひとも討論を大切にしてほしい。意見や疑問をぶつけあい共有することで、一人では決して得られないものにたどり着く。共に学ぶためにお互いに貢献し合っていてほしい。

質問その他は授業の前後の時間に受け付ける他、以下のアドレスへのメール連絡にも対応する。

hitomi@konan-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系110

科目ナンバリング		U-LET26 36944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(演習III) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 (西洋近世史演習)									
【授業の概要・目的】											
近世のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献を読解し、また、個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、欧米や日本における最近の研究状況をふまえながら、多角的に理解する。 ・英語による研究文献を読み、議論することをつうじて、西洋史学にかかわる研究文献の読み方を習得する。 ・受講生各自が研究発表を行なうことにより、各受講生の専門的な研究を深化させるとともに、発表に説得力をもたせるにはどのような工夫が必要かを考え、実践する経験を積む。 											
【授業計画と内容】											
<p>「ヨーロッパ」が地理的な概念として広く用いられるようになり、地域の名称として社会に定着したのは、15世紀から18世紀にかけてのことであったと言われる。歴史学においても、「宗派化されたヨーロッパ」(H.シリング)、「複合君主政のヨーロッパ」(J.H.エリオット)といった表現にみられるように、宗教社会史や国制史における近世的特質は、しばしば空間としての「ヨーロッパ」の存在を前提として研究されてきた。そもそも、近世のこの地域の人びとは、「ヨーロッパ」の外延と内包をどのように認識していたのであろうか。近世の「ヨーロッパ」意識を研究するためには、どのような史料にもとづき、どのようなアプローチを採用するべきであろうか。こうした問題を学際的な角度から再考する次の本をとりあげ、その内容を正確に理解するとともに、研究の視角や考察の特徴について議論する。</p> <p>Nicolas Detering, Clementina Marsico and Isabella Walser-Bürgler (eds.), <i>Contesting Europe: Comparative Perspectives on Early Modern Discourses on Europe, 1400-1800</i>, Brill: Leiden - Boston, 2020.</p> <p>参加者全員による討論をつうじて、ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、近世史を研究する手がかりとなる史料にはどのような特徴があるか、この時代を理解するためにはどのような視点や研究の手法が有効か、といった問題を、さまざまな角度から検討する。</p> <p>前期(15回)は、イントロダクション(第1回)に続けて、各回(第2回~第15回)に上記の論文集を読み、内容を理解したうえで、近世のヨーロッパ認識にかかわる諸問題について議論する。</p> <p>後期(15回)には、引き続き上記の論文集と関連する文献にかんする読解・議論をおこなう。また、参加者がそれぞれ興味をもつテーマについて研究発表を行い、それにもとづいて全員で討論を行う機会を設ける予定である。なお、後期の「ヨーロッパ認識」についての読解・議論には第1回から奇数回、参加者の研究発表には第2回から偶数回をあてる予定であるが、受講生の人数によって変更することもありうる。</p>											
----- 西洋史学(演習III)(2)へ続く -----											

西洋史学(演習Ⅲ)(2)

フィードバックについては、授業中に指示する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業でとりあげるテキストの内容要約と論点の提示、研究発表、討論への参加の度合いにもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて、総合的に評価する。試験は行なわない。

[教科書]

使用するテキストの入手については、別途指示する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ 毎回、議論の対象となるテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。
- ・ 後期には、受講生各自が関心のあるテーマについて個別発表を行なうので、そのための研究を各自で進めておくことが必要である。
- ・ 議論に積極的に参加するために、西洋史学全般、またヨーロッパ近世史にかかわる文献を幅広く読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系111

科目ナンバリング		U-LET26 36946 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(演習Ⅳ) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金澤 周作			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 (西洋近代史演習)									
【授業の概要・目的】											
この演習では、西洋の近代(18世紀半~20世紀初頭)を主体的に探求するのに必要な作法を学ぶ。そのために、まとまった分量の欧米の研究文献を精読することと、個別の自由発表を行うことを課す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近代の諸事象について、歴史学的な意識を持って考えられるようになる。 ・歴史学的な諸論点を理解することができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
近代史研究は、対象とする場所(国や地域)と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティブを持たざるを得ないだろう。そこで、演習の前半(前期)では、1~2回目にイントロダクションを行ったうえで、3~13回に、大きくまた斬新なテーマを多方面から詳細に扱っている研究文献Readman, P., Radding, C., Bryant, C. (Eds.), <i>Borderlands in World History, 1700-1914</i> (Palgrave, 2014)を、分担を決めて読んでいく。そして14~15回で総括をする。こうして、広い視野を学び、さまざまな方法論に触れ、同時に西洋史研究に不可欠な、英語文献を正確に読解する力を養う。さらに、内容について活発な議論がなされることを期待している。演習の後半(後期)では、1回のイントロダクションの後、2~14回に、各受講者に、日ごろの研究成果を報告してもらい、15回目に総括する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
演習内報告(回数は人数によって異なる)が80%、演習内での議論での貢献が20%。いずれにおいても、上記到達目標に照らし、受講生の達成の度合いに基づいて判断する。											
【教科書】											
テキストについては第1回の演習日に指定し、配布する。											
----- 西洋史学(演習Ⅳ)(2)へ続く -----											

西洋史学(演習Ⅳ)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

前期における各回の英語文献の予習は必須。内容理解を深めるために、関連する日本語文献も復習を兼ねて適宜読み進めていくこと。後期の自由報告を行うための準備はおこたりにく進めるものとし、演習での指摘を活かして勉学を継続すること。

(その他(オフィスアワー等))

受講者に対するこの演習の効果は、文献を事前にどれだけしっかり読み込んだかに左右される。ただ読むだけでなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系112

科目ナンバリング		U-LET26 46947 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(演習Ⅴ) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲 文学研究科 教授 金澤 周作 文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	4回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 (卒論演習)									
[授業の概要・目的]											
卒業論文の研究テーマについて、参加者が中間報告をおこない、教員3名と受講者の全員で討論する。研究報告と討論を通じて研究テーマに関する理解を深めるとともに、研究を進める上での問題点を認識し、卒業論文の完成度を高めることを目標とする。西洋史学専修4回生は必修。											
[到達目標]											
卒業論文は、文学部での勉強を集大成するものであり、西洋史学専修においても、専門とする時代や領域の違いはあれ、西洋史学の学問的な達成を示す場と位置づけている。この授業の目的は、重要な意義を持つ卒業論文作成に向けて、質の高い論文となるように、教員の助言と参加者全員の討論を通じて、卒論執筆予定者が学んでいくことである。 何を問題として取り上げるか、何を素材として論じるのか、先行の研究がどのような学説を展開し、それにはどのような問題が含まれているのか、史資料の分析の結果浮かび上がった歴史的諸事実や様相をどのように解釈すべきか、得られた結論はより広い研究領域の文脈の中でどのように位置づけられるか、おおむね以上のような点をしっかりと理解し、史資料の分析を通して独自性を備えた自らの学説を手にすることが、本授業の具体的な目標となる。また、問題設定から分析、そして結論に至るまでの過程を、適切な日本語で表現することも、卒業論文において達成すべき課題の一つであり、そうした能力を、中間報告への教員のコメントを聞きながら、受講生が習得することも、この授業の達成すべき目標である。											
[授業計画と内容]											
授業参加者は、第1～30回の授業の中で原則として2回(前期・後期に各1回)、自身の研究の成果を発表する。前期の発表では、卒業論文の研究テーマを設定した上で、そのテーマに関する研究状況を調査して問題点を抽出し、今後の研究の計画を提示することを課題とする。後期の発表では、自ら設定した研究の課題について、史資料や研究文献を踏まえて検討し考察した内容について報告して、卒業論文の概要を提示することを課題とする。授業参加者には、互いの研究発表を聞くことを通じて西洋史学上の様々な研究テーマに関する理解を深めると同時に、討論に積極的に参加し、各自の研究発表について疑問点や問題点を指摘し合うことによって、卒業論文の質を向上させていくことが求められる。 なお、フィードバックについては、その時間に教員が研究室に待機し、授業内容に関わる質問に来た学生に対して解説する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
成績については、担当する2回(前期・後期の各1回)の研究報告や授業での討論への参加を基に総合的に評価する。卒業論文執筆に向けて、西洋史学研究の基本を習得した上で研究が適切に実践さ											
----- 西洋史学(演習Ⅴ)(2)へ続く -----											

西洋史学(演習Ⅴ)(2)

れ、質の高い論文の執筆へと進んでいるか、その達成度を評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

本演習は、卒業論文の準備のための授業である。したがって、卒業論文の執筆に向けて授業時間外に十分な学習を積み重ねることが、授業に参加する前提である。また、授業後は、自分の報告時はもちろんのこと、他の受講者の報告の時も、授業で指摘された重要点を自らの研究の状況に照らし合わせ取り込み、研究を改訂していく作業が必要となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系113

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 富井 眞			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	水1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
[授業の概要・目的]											
<p>考古学における理論的な側面と自然科学的分析の側面で大きな成果をあげている、欧州の新石器文化についての概説書を主な対象とする。そして、欧州先史時代研究における考古資料等の認識と解釈の仕方に親しむ作業を通じ、当該文化期の実態に関する考古学的解釈、諸外国の考古学研究者との意見交換に備えるべく術語の用法、解釈の枠組みをめぐる理論的背景、を理解する。講義の基本的な枠組みは、テキストの輪読と、理論考古学等に関する小テスト。夏季学休期間の課題として、英語論文一本の全訳がある。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 欧州先史考古学の現代的方向性を理解する。 ・ その理解をもとに、海外における古代の物質文化に対する理論的研究に親しみ、考古資料から過去の事象や社会や精神文化を探るのに有効ないくつかの方法について、自身の将来の研究に活かす可能性を意識する。 ・ 考古学の基礎的術語の英語表現を理解する。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 イン트로ダクション 基本文献や辞書などを紹介し、授業の進め方について説明する。テキスト進行に先立つ第2回以降の英文書籍抜粋プリントを配布する。</p> <p>第2～6回 考古学の基本原理に関する英文書籍の抜粋プリントの精読 専門書たるテキストに先立ち、考古学の基本的な概念・方法に関する英語表現に慣れるために、考古学の概説書から部分抜粋した英文を読み進める。なお、進捗に応じて、回数に多少の前後は生じ得る。</p> <p>第7～29回 テキスト『Europe in the Neolithic』の精読 <その他(オフィス・アワー等)>に示した授業方法にしたがってテキストを精読していく。第20回前後までの前半期は、構文把握を重視した全文訳をする。後半期は、段落の要約を重視したうえで、論理構成を意識しながら、訳していく。</p> <p>第30回 フィードバック</p>											
[履修要件]											
<p>考古学の基礎的な概念や方法・作業仮説などを理解していないと履修に困難を来すので、履修の前提として、考古学入門書を読破する程度の作業は済ませておくこと。</p>											
[成績評価の方法・観点]											
<p>総合評価。 学年末試験。 平常点評価(テキスト訳、術語解説、当回分及び翌週提出分の小テ</p>											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

スト、夏季課題)。比重は、60%で40%。平常点は、到達目標の達成度に基づいて評価される。

欠席数によっては、夏季論文課題や学年末試験問題の量が多くなる。また、夏季課題未提出の場合には、学年末試験問題の量が多くなる。

なお、講義に関する内容で発言を求められた際に、「わかりません」という回答のように自身の見解を明示しない消極的姿勢は、平常点での大きな減点対象となる。

[教科書]

Alasdair Whittle 『Europe in the Neolithic: The Creation of New Worlds』 (Cambridge University Press)
ISBN:0521449200

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ 講義で読むところは予読を済ませておくこと。
- ・ 小テストの翌週提出では、内容の理解を反映して日本語として意味の通る訳文を完成させること。
- ・ 夏季学休期間の課題では、英語論文一本を全訳する。

(その他(オフィスアワー等))

テキストの読み進め方は、文章や段落ごとに和訳担当者を決める1人1段落方式を基本とするが、分量・内容に応じて数文単位になることもある。担当者の指名は講義当日におこなう。進行読量は、内容如何で変動幅が大きい。1日で5段落程度まで進むこともある。日本語訳だけでなく、内容的に理解できていることが大切なので、テキストの内容について下調べも必要になる。また、述語や重要事項などについて、適宜、調べ物作業を課すことがあるが、その際には、出席者分の資料を用意すること。

そのほか、読解力維持と<授業の概要・目的>の理解向上とを目的として、理論考古学や考古遺産などに関する小テストを、隔週程度の頻度でおこなう。小テストは、指定時間内は下線部訳のみだが、下線部を含めた全文訳を翌週までの課題とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系114

科目ナンバリング		U-LET26 26955 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 岡澤 康浩			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業ではサイモン・シャッフアー、リサ・ロバーツ、カピル・ラジ、ジェイムズ・デルバーゴ共編『仲介される世界：媒介者とグローバルな情報収集 1770年～1820年』（Simon Schaffer; Lissa Roberts; Kapil Raj; James Delbourgo, 『The Brokered World: Go-Betweens and Global Intelligence, 1770-1820』 Science History Publications, 2009）を読む。現代は世界各地が相互に結ばれた「グローバル」な時代であるとしばしば呼ばれる。こうしたグローバルな相互接続は鉄道・高速道路・船舶・航空機の整備によって可能になった商品の全世界的流通という経済面で特に顕著であるが、同時に、通信システムの整備によって科学的、文化的知識といった情報流通が加速しているとされる。本授業で取り上げるのは、こうした「仲介される世界」という現象の歴史を遡ることで、わたしたちが「グローバル」と呼ぶ世界の相互接続が、そもそもどのようにして可能になってきたのかを探究した論文集である。初期近代以来、ヨーロッパ諸国は経済的流通やそれを保護する軍事的輸送といった資本主義と帝国主義の回路を拡張し、またそれに並行/協力/逸脱する形で科学的知識の流通の回路も作られていく。こうした知識の流通という現象はしばしば、中心から周縁へ、具体的には先進的なヨーロッパから後進的な非ヨーロッパ世界への知識の「普及」という観点から描かれてきた。本授業で取り上げる論文集の特徴は、経済的・軍事的・知的関心の接続の場を準備する媒介者（the go-between）という存在に注目することで、非ヨーロッパ世界からヨーロッパ世界への知識の移転や、異なる知的伝統の雑種の結合による新たな知識の生成などへも注意を向ける点にある。本授業ではこの『仲介される世界』序章の読解を通じて、「普及」とは違う形でグローバルなスケールでの知識の転移・翻訳・衝突について描き出す方法について学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1) 英語での学術文献を正確に読解する能力を身につける。 2) 英語での学術書を読み進める際のスキルを身につける。 3) 情報・知識の伝播を記述する際に生じる理論的問題についての知識を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回： ガイダンス。授業の進め方、予習の仕方、評価方法などについて説明する。 第2～15回：教科書の講読。学期を通して約30ページのIntroductionを読むことを目指すが、進度は受講者の英語力等によって決める。授業は、毎回複数の生徒が担当箇所を英語から日本語へ訳出するスタイルで進める。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点評価[授業中での翻訳発表、発言]：100点。</p> <p>平常点は発表する翻訳の正確さおよび内容の理解度によって評価する。希望者には追加でのレポー</p>											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

ト提出を認め、それによって示された内容の理解度によって加点する。

[教科書]

Simon Schaffer; Lissa Roberts; Kapil Raj; James Delbourgo 『The Brokered World: Go-Betweens and Global Intelligence, 1770-1820』 (Science History Publications, 2009) ISBN:9780881353747
担当教員がコピーを配布する。絶版のため書店からの入手は困難だと考えられるが、編者の一人であるカピル・ラジ (Kapil Raj) のresearchgateページなどから無料で書籍PDFがダウンロードできるので、希望するものはそこからもダウンロードできる。

[参考書等]

(参考書)

カピル・ラジ 『近代科学のリロケーション』 (2007 = 2016, 名古屋大学出版会) ISBN: 9784815808419

授業で直接議論することはないので購入などの必要性はまったくないが、同一テーマを扱うので、グローバルな知識の流通というテーマに関心があるものには参考になる。

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業中に指示する読解範囲の予習を必ずませること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系115

科目ナンバリング		U-LET26 26955 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 成田 千尋			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
【授業の概要・目的】											
<p>Thomas U. Berger, "War, guilt, and world politics after World War II"(Cambridge University Press, 2012)の第五章"The Geopolitics of Remembering and Forgetting in Asia, 1991-2010: Toward and Expanded Model"を読む。本書は第二次世界大戦後のドイツ、オーストリア、日本を事例とし、各国政府が戦争責任といかに向き合ってきたかということ、各地域の政治状況も踏まえつつ、特にその歴史叙述(historical narrative)に焦点を当てて考察するものである。この授業では、1990年代以降の東アジアの事例を分析した第五章を精読する。このことを通じて、英語の読解能力を身に付けるとともに、ヨーロッパとの比較という観点から、アジアにおける歴史認識問題について新たな知見を得ることを目的とする。また、初回の授業で、第一章で扱われている歴史叙述に関する3つのアプローチについて説明し、それまでの章の理解を前提とする部分については、各回において適宜説明を加える。</p>											
【到達目標】											
<p>英語の学術文献を正確に理解するための読解能力を身に付けるとともに、1990年代以降の東アジアにおける歴史認識をめぐる議論について、ドイツ・オーストリアの事例との比較から理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：授業ガイダンス テキストのおおまかな内容、授業の進め方、予習の仕方、評価方法などについて説明する。</p> <p>第2～14回：文献の精読 第五章の初めから、毎回各受講者が順番に一文ずつ訳読するかたちで読解を進める。</p> <p>第15回：授業まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点(80%)、学期末の小レポート(20%)</p> <p>小レポートの内容については、授業中に説明する。</p>											
【教科書】											
<p>Thomas U. Berger 『War, guilt, and world politics after World War II』(Cambridge University Press) ISBN:9781107021600</p>											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

テキストのコピーを初回授業時に配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業の前に、該当範囲のテキストを予習しておくこと。該当範囲は授業中に指定する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系116

科目ナンバリング		U-LET26 26955 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 鈴木 健雄			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、Jenny Wuestenberg, <i>Civil Society and Memory in Postwar Germany</i> (Cambridge University Press, 2018)を読む。</p> <p>同書は、戦後ドイツ社会が過去をどのように記憶してきたのかについて、市民運動とその影響という視点から迫ったものである。文献史料だけでなく当事者に対するインタビューも併用しながら論証しようとする同書は、戦後ドイツ史、社会運動史叙述という点において魅力的であるだけでなく、記憶史という視点並びにオーラル・ヒストリーという手法など、歴史学研究における複数の視座を与えてくれる。</p> <p>同書の輪読・精読を通じて、ドイツ戦後史に関する知識を得るだけでなく、歴史学の方法論的な視座、知識を獲得してもらうこと、そして、英語で記された学術書を読む際の読み方を学んでもらうことが、本授業の目的である。</p> <p>授業に際しては、まず、個別に担当箇所を割り振り、その箇所をレジюме形式で要約してもらい授業中に発表してもらう。発表担当者以外の受講生にも予習を求める。また、課題として毎週、一部の箇所の訳出とPandAを介しての提出を求める。</p> <p>本授業は講読の授業であるが、読解する上で有益であると考えられる背景知識については、英書講読という授業の本旨から外れない範囲で、授業中に適宜解説する時間を設ける予定である。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の学術書を一人でも読み進めることができるようになる。 ・ 英語の学術文献を正確に読解できるようになる。 ・ 社会運動と記憶の歴史というテーマについて、本授業で学んだ内容を事例として、説明できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：授業ガイダンス 教科書のおおまかな内容や、授業の進め方、予習の仕方、発表の仕方、課題と評価方法等について説明する。</p> <p>第2～14回：教科書の輪読・精読。Chapter 1～3を読むことを目指すが、進度は受講者の英語力等によって決める。授業は、参加者全員が予習をしていることを前提に、あらかじめ指定された発表担当者が、レジюмеを用いて書かれている内容の要約を発表するという形式を取る予定である。発表方法の詳細については、授業内で説明する。</p> <p>第15回：第14回まで読解してきた内容について、振り返り、学んだ内容を整理する。切りの良いところまで読了できなかった場合、この回を補充に充てる可能性もある。</p>											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（毎回の課題の提出状況と発表への参加状況 / 80%）と、学期末の小レポート（20%）で評価する。

【教科書】

Jenny Wuestenberg 『Civil Society and Memory in Postwar Germany』（Cambridge University Press, 2018） ISBN:978-1107177468（担当教員がコピーを配布する。）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

事前に予告された範囲の予習を必ず済ませること。
予習の際は、辞書を用いて読んでいくだけでなく、関連する内容について適宜自分で調べながら、教科書に書かれている内容に対する理解を深めつつ読み進めることが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系117

科目ナンバリング		U-LET26 26955 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 鈴木 健雄			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
[授業の概要・目的]											
<p>本授業では、Sean A Forner, German Intellectuals and the Challenge of Democratic Renewal. Culture and Politics after 1945 (Cambridge University Press, 2014)を読む。</p> <p>同書は、第二次世界大戦後、特に戦後初期のドイツにおける、民主主義概念をめぐる知的状況を扱ったものである。従来、ドイツ(特に西ドイツ)の戦後思想史は、「アメリカ化」や「西側化」といった言葉が代表するように、自由主義と西洋民主主義的な思想の受容の歴史と語られることが多かった。その際、検討の中心とされるのは、「1968年運動」並びにその前後の(「長い60年代」とも称される)時期であった。</p> <p>対して、本書では、1945年から1949年の東西ドイツの建国の時期において、民主主義的な国家・社会の建設を目指して活動した知識人ならびにそのグループの思想と活動とに焦点が当てられる。共産主義的な科学者からリベラルな作家まで、極めて多様な背景、思想をもった人々がどう集まり、どのような民主主義イメージを抱き、議論、活動したのかを描くことで、本書は、戦後直後におけるドイツの知識人の主体的努力を示すとともに、決して直線的ではない、戦後ドイツの民主主義的な復興の姿を示そうとする。</p> <p>以上の点において、極めて示唆的な文献である本書は、日本語でアクセスできる類書の少なさと相まって、あえて外国語で研究文献を読む意味合いを感じさせてくれるものといえよう。</p> <p>同書の輪読・精読を通じて、戦後ドイツ史に関する知識を得るだけでなく、ある時代を語る際の語り方の多様性に触れ、分析視角が歴史叙述に与える影響力の強さに気づいてもらうこと、そして、英語で記された学術書を読む際の読み方を習得してもらうことが、本授業の目的である。</p> <p>授業に際しては、まず、個別に担当箇所を割り振り、その箇所をレジュメ形式で要約してもらい授業中に発表してもらう。発表担当者以外の受講生にも予習を求める。また、課題として毎週、一部の箇所の訳出とPandAを介しての提出を求める。</p> <p>本授業は講読の授業であるが、読解する上で有益であると考えられる背景知識については、英書講読という授業の本旨から外れない範囲で、授業中に適宜解説する時間を設ける予定である。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の学術書を一人でも読み進めることができるようになる。 ・ 英語の学術文献を正確に読解できるようになる。 ・ 戦後初期ドイツの民主主義的な再建というテーマについて、本授業で学んだ内容を事例として、説明できるようになる。 											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[授業計画と内容]

第1回：授業ガイダンス

教科書のおおまかな内容や、授業の進め方、予習の仕方、発表の仕方、課題と評価方法等について説明する。

第2~14回：教科書の輪読・精読。複数ある章のうち、Introductionのほか2章分程度を読むことを目指すが、進度は受講者の英語力等によって決める。

授業は、参加者全員が予習をしていることを前提に、あらかじめ指定された発表担当者が、レジюмеを用いて書かれている内容の要約を発表するという形式を取る予定である。発表方法の詳細については、授業内で説明する。

第15回：第14回まで読解してきた内容について、振り返り、学んだ内容を整理する。切りの良いところまで読了できなかった場合、この回を補充に充てる可能性もある。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（毎回の課題の提出状況と発表への参加状況 / 80%）と、学期末の小レポート（20%）で評価する。

[教科書]

Sean A Forner 『German Intellectuals and the Challenge of Democratic Renewal. Culture and Politics after 1945』（Cambridge University Press, 2014）ISBN:978-1107627833

担当教員がコピーを配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に予告された範囲の予習を必ず済ませること。

予習の際は、辞書を用いて読んでだけでなく、関連する内容について適宜自分で調べながら、教科書に書かれている内容に対する理解を深めつつ読み進めることが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系118

科目ナンバリング		U-LET26 26956 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 藤井 俊之			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		独書講読 I									
【授業の概要・目的】											
Rosa, Hartmut: Resonanz. Eine Soziologie der Weltbeziehung. Frankfurt am Main 2019. を読む。 現代社会がスピードの時代、もっと言えば加速の時代であることは日々の生活のなかで多くのひとに実感されている。端的にはインターネットを通じた情報のやりとりは、地球の反対側に暮らす人々を一瞬で画面上に呼び出すことを可能にし、家庭や出先でPCやスマホを操れば思いのままに情報やサービスを手に入れられる状況を実現している。しかし、世界中と同期するこのグローバルな時間は、日常の時間を細切れにし、人間よりも時間の組み合わせであるスケジュールを優先する社会がそこに生じているようにも思える。今回取り上げる本の著者ハルトムート・ローザは、人間が時間の加速によって社会から疎外されるこのプロセスは、単に技術的発展の為せるわざではなく、そこにはヨーロッパ史における「現代 (Moderne)」に特異な構造上の問題が存在すると指摘する。今期は、彼の著書『共鳴 (Resonanz)』の序論の精読を通じて、ヨーロッパ的現代の特異性とそこから導き出される諸問題について学び、そしてできればその解決への糸口が本書でどのように構想されているのかを検討したい。											
【到達目標】											
必要分野での文献を読み解けるドイツ語の読解能力を養う。また、文献に現れる引用の読解を通じて、テキストの背景となる歴史的事象を考慮することを学ぶ。											
【授業計画と内容】											
第一回目にイントロダクションを置いて、第二回目～第十五回目の授業はテキストの訳読を中心に進める。その際に、全員が一度は担当を持つようにする。授業は全て読解にあて、最後に、全体の総括として期末にレポートを課す。											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点(50%)と期末レポート(50%)で採点する。授業の際には各自が必ず訳読を担当することが求められる。それを踏まえて、期末レポートで各自の理解を測りたい。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業に備えて予め文献のドイツ語の予習をすることが必要である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系119

科目ナンバリング		U-LET26 26956 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 藤井 俊之			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		独書講読 II									
【授業の概要・目的】											
Adorno, Theodor W.: Spätkapitalismus oder Industriegesellschaft?(1968) In: Gesammelte Schriften. Bd. 8, Frankfurt am Main 2003, S. 354-370. を読む。											
<p>ヨーロッパの歴史をどのような観点から語るかについてはいくつかの選択肢が存在する。かつてその中でも大きな存在感を放っていたものに、階級闘争をめぐる歴史というものがあった。マルクス主義の名前と結びついていまや評判を落とした階級概念は、しかし現在の日本では格差という言葉に形を変えて再び姿を現しているようにも見える。しかし他方で、様々な技術の発展が、階級概念の支えであった労働をいまや人間の手から奪いとりとうとする現実もある。こうした状況を予告するものとして、六十年代後半のドイツ社会学会で行われた当時の会長テオドーア・W・アドルノの講演は示唆的である。人々をブロック化する経済的葛藤は社会の資本主義的体制に由来するのか、それとも技術のグローバル化はもはや階級概念では把握できない新たな問題を提起しているのか、それともこうした二者択一そのものが誤った歴史解釈から生まれた見せかけの問題なのか。今期は、こうした問題に答えようとするアドルノのテキストを通じて、歴史の中の現代について理解を深めたい。</p>											
【到達目標】											
必要分野での文献を読み解けるドイツ語の読解能力を養う。また、文献に現れる引用の読解を通じて、テキストの背景となる歴史的事象を考慮することを学ぶ。											
【授業計画と内容】											
第一回目にイントロダクションを置いて、第二回目～第十五回目の授業はテキストの訳読を中心に進める。その際に、全員が一度は担当を持つようにする。授業は15回全てを読解にあて、最後に、全体の総括として期末にレポートを課す。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(50%)と期末レポート(50%)で採点する。授業の際には各自が必ず訳読を担当することが求められる。それを踏まえて、期末レポートで各自の理解を測りたい。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業に備えて予め文献のドイツ語の予習をすることが必要である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系120

科目ナンバリング		U-LET26 26957 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		仏書講読									
【授業の概要・目的】											
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、歴史研究にかかわる理論、概念、研究方法についての理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるフランス語の語彙や語法を習得する。 ・歴史学を含む人文社会科学の分野のかかわる理論、概念、研究方法について、フランス語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本の前半（第1・2章）を講読する。											
Philippe Poirrier, Introduction à l'historiographie, Belin: Paris, 2009.											
本書は、歴史研究にかかわる基本的な諸問題について、フランスの歴史学の視点から解説した入門書である。											
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、歴史研究や隣接する人文・社会科学の領域にかかわる諸問題についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・ 授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにフランス語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系121

科目ナンバリング		U-LET26 26957 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		仏書講読									
【授業の概要・目的】											
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、歴史研究にかかわる理論、概念、研究方法についての理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるフランス語の語彙や語法を習得する。 ・歴史学を含む人文社会科学の分野のかかわる理論、概念、研究方法について、フランス語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本の後半（第3・4章）を講読する。											
Philippe Poirrier, Introduction à l'historiographie, Belin: Paris, 2009.											
本書は、歴史研究にかかわる基本的な諸問題について、フランスの歴史学の視点から解説した入門書である。											
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、歴史研究や隣接する人文・社会科学の領域にかかわる諸問題についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・ 授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにフランス語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系122

科目ナンバリング		U-LET26 26958 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		露書講読 1									
[授業の概要・目的]											
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。											
[到達目標]											
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
[授業計画と内容]											
以下の文書をテキストとする予定である。											
										(1859) [ゲル	
ツェン「ロシアとポーランド」]											
ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。											
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。											
[教科書]											
使用しない プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは、火曜4限とする。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系123

科目ナンバリング		U-LET26 26958 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		露書講読 1									
[授業の概要・目的]											
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。											
[到達目標]											
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
[授業計画と内容]											
以下をテキストとする予定である。											
<p style="text-align: center;">, .(1857)</p>											
ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。											
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。											
[教科書]											
使用しない プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは、火曜4限とする。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系124

科目ナンバリング		U-LET26 26959 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イタリア史講読(前期)									
【授業の概要・目的】											
<p>20世紀のイタリアを概観したSimona Colariziの“Storia del Novecento italiano”の第2章：La grande guerra (1914-1918)の冒頭から精読します。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえに、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずで</p> <p>本書の文章は明晰なイタリア語散文であり、これを精読することによって伊語テキストの読解力を効率よく培うことができるでしょう。この読解力の養成が授業の主要な目的となります。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・平易なイタリア語文献を自力で読解できるようになること。 ・イタリア現代史の基礎知識を習得すること。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回(イントロダクション) 授業の進め方、小テスト、評価方法について説明します。あわせて使用テキストと講読する章を紹介し、またテキストの一部を実際に読みながらイタリア語の読解にあたって注意すべき点を確認する予定です。</p> <p>2回～14回 必要に応じて文法事項を確認しながら読み進めます。文法の知識にしたがって正確に読解することを重視します。重要な専門用語や固有名詞については適宜説明を入れる予定です。</p> <p>15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
イタリア語文法を学んでいること。											
【成績評価の方法・観点】											
小テスト・平常点をもとに評価します。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習がすべての授業です。原文にきちんと目を通し、単語の意味を調べるだけでなく書かれている内容を自分なりに把握することに努めてください。授業終了後は、読み違えた箇所、文法知識の曖昧なところを見直しておきましょう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系125

科目ナンバリング		U-LET26 26959 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イタリア史講読(後期)									
【授業の概要・目的】											
<p>ルイーゼ・サルヴァトレッリのイタリア史の概説書“Sommario della storia d'Italia”から、第8章<Guelfi e Ghibellini, nobili e popolani>を精読します。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえ、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずです。</p> <p>また著者サルヴァトレッリの文章はオーソドックスなイタリア語散文であり、これを精読することで伊語テキストの読解力を効率よく身につけることができます。この読解力の養成が授業の主要な目的となります。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア語文献を自力で読み解くことができるようになること。 ・イタリア史の基礎知識を習得すること。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回(イントロダクション) 授業の進め方、小テスト、評価方法について確認をします。あわせて後期の講読テキストについて簡単に説明をします。</p> <p>2回～14回(講読) 文法の知識にしたがって正確にイタリア語を読み進めます。重要な文法事項についてはその都度確認をします。また専門用語や固有名詞については適宜補足説明をする予定です。</p> <p>15回(フィードバック)</p>											
【履修要件】											
イタリア語文法を学んでいること。											
【成績評価の方法・観点】											
小テストをもとに評価します。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習がすべての授業です。原文にきちんと目を通し、単語の意味を調べるだけでなく書かれている内容を自分なりに理解することを心がけてください。授業終了後は、読み違えた箇所、文法知識の曖昧なところを見直しておきましょう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系126

科目ナンバリング		U-LET26 36960 PJ36										
授業科目名 <英訳>		西洋史学(実習) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲	文学研究科 教授 金澤 周作	文学研究科 准教授 藤井 崇		
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	水2	授業 形態	実習	使用 言語	日本語	
題目		西洋史学(実習)										
【授業の概要・目的】												
この授業は、学生が西洋史の卒業論文を作成するために必要となる研究能力を、知識と技術の両面から身につけることを目的に開講する。具体的な史料(外国語)の分析法、研究情報の収集手順から西洋史研究の方法論や史学思想、さらには論文における議論の作法まで、具体的に学ぶ。												
【到達目標】												
<ul style="list-style-type: none"> ・ 西洋史学の基本的な問題視角を理解することができる。 ・ 研究をはじめするために必要なツールや情報源の基礎的な活用方法を習得できる。 												
【授業計画と内容】												
授業は、専任教員3名のリレー方式で実施される。具体的な内容は、以下の通りである。それぞれイントロダクションと総括の回を含めて9~10回になる(全30回)。												
(1)図書館で西洋史の専門書や学術雑誌に触れることから始めて、研究の具体的な手順や論文の構成、議論のあり方などを学ぶ。												
(2)歴史学(または隣接分野)でしばしば用いられる基本的な概念や考え方について、テキストを読みながら学ぶ。												
(3)実証研究の入門として、外国語で書かれた史料に触れ、そこからどのようなことが読み取れるかを考える。												
(4)研究文献や史料に関する情報収集の方法をマスターすることをめざす。雑誌や文献要覧など冊子体の情報から、web上の様々な専門分野別の史資料サイトまで、実際に自分の仮の研究テーマとキーワードを設定して調査、検索し、有益な文献情報リストを一定のフォームに従って作成する。												
----- 西洋史学(実習)(2)へ続く -----												

西洋史学(実習)(2)

【履修要件】

西洋史学専修学生の必修科目で、3回生で受講することが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

到達目標に掲げた点の達成度を評価する。研究視角から具体的な作業の手続きや技術に至るまで一渡り学習することで、京都大学の学士課程に相応しい西洋史学研究の基礎を習得しているかどうか、成績評価の観点となる。

【教科書】

金澤周作監修 『論点・西洋史学』（ミネルヴァ書房）ISBN:9784623087792

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

この授業で習得する知識・技術は、学生各人の卒論研究に直結する。授業課題の研究論文・研究書を予習として読み、報告やレポート提出をこなすだけでなく、この授業で学んだ方法を復習しながら自身の研究に適用し、4回生の卒論演習での報告を目標に、自らの専門研究を進めることが重要である。

（その他（オフィスアワー等））

この授業では、課題をこなすだけでなく、授業時において他の受講者と積極的に議論する姿勢が求められる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系127

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮三国時代墓制の比較研究									
【授業の概要・目的】											
3～6世紀の朝鮮半島と日本列島の各地では、多大な労力を用いて多様な古墳が築造された。本講義では、墳丘と埋葬施設の築造過程や、棺を中心とする埋葬施設の構造と空間原理などに着目しつつ、各地の墓制を比較研究する方法を検討する。											
【到達目標】											
朝鮮三国時代の墓制の展開と特質についての基本的な知識を得る。 墓制を比較研究するための方法論を学ぶ。 東アジア的な広がりの中で日本考古学を研究する視角の基礎を身につける。											
【授業計画と内容】											
おおむね以下のような順序で講義を進める											
第1回 墓制を比較検討する視角をめぐって											
第2回 考古学からみた墓制・葬制：墓制・葬制											
第3回 墳丘と埋葬施設の構築パターン（1）- 墳丘先行型・墳丘後行型墓制の定義											
第4回 墳丘と埋葬施設の構築パターン（2）- 墳丘先行型・墳丘後行型墓制の起源											
第5回 墳丘と埋葬施設の構築パターン（3）- 原三国時代における地域性											
第6回 墳丘と埋葬施設の構築パターン（4）- 三国時代における地域性											
第7回 棺・槨・室をめぐる諸問題（1）- 棺・槨・室の定義											
第8回 棺・槨・室をめぐる諸問題（2）- 木棺・木槨の構造復元法											
第9回 棺・槨・室をめぐる諸問題（3）- 百済における「棺」の機能と葬送儀礼の変化											
第10回 棺・槨・室をめぐる諸問題（4）- 大加耶における「棺」の機能と葬送儀礼の変化											
第11回 棺・槨・室をめぐる諸問題（5）- 洛東江以東地域における「棺」の機能と葬送儀礼の变化											
第12回 横穴式石室の受容と墓制の変化（1）											
第13回 横穴式石室の受容と墓制の変化（2）											
第14回 横穴式石室の受容と墓制の変化（3）											
第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価（小レポートなど）約30%、学期末レポート 約70%											
【教科書】											
使用しない											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の講義で紹介する論文を是非よんで欲しい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系128

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮考古学史からみた「日本」考古学史									
【授業の概要・目的】											
<p>朝鮮半島における近代的考古学の調査研究は、20世紀の初めから敗戦を迎えるまで、日本人研究者によって進められた。そしてその調査研究成果は、日本「内地」における考古学にも少なからずの影響を与えている。本講義では、朝鮮半島における考古学史を批判的に検討していくことを通して、「日本」考古学史について受講者と共に考えていきたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮考古学の歴史についての基本的な知識を身につける ・東アジア的な広がりの中で日本考古学を研究するための視角を身につける ・朝鮮考古学史の諸問題を学んだことを通して、受講者が扱う地域・時代における学史研究についての理解を深めていくことができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下のとおり講義をおこなう。</p> <p>第1回 朝鮮考古学史を学ぶ意味 第2回 朝鮮半島の地理的・歴史的環境 第3回 韓国併合以前の日本考古学と朝鮮考古学 第4回 朝鮮総督府古蹟調査事業の概要 第5回 測量技術の受容と展開 第6回 写真撮影技術の受容と展開 第7回 地形図の作成と朝鮮古蹟調査事業 第8回 朝鮮考古学の時代区分と日本考古学 第9回 朝鮮半島における先史時代の認識 第10回 日本・朝鮮における古墳の実年代比定をめぐって 第11回 朝鮮半島における倭系考古資料の解釈をめぐって 第12回 日本人による慶州の「発見」 第13回 釜山考古学会と郷土博物館 第14回 日韓会談と文化財返還問題 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
講義で紹介する遺跡・遺物や参考文献について、できる限り目を通して理解を深めて欲しい。											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

レポート試験70%
平常点評価30%(講義についての小レポートなど)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 小方 登			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地理情報処理の考古学への応用									
【授業の概要・目的】											
<p>地形データ（デジタル標高モデル：DEM）や空中写真・衛星画像の遺跡探査や歴史景観復原などへの応用事例を取り上げ、説明する。このような研究を外国で行う場合、地形図や空中写真等のデータの入手性に制約されがちであったが、近年はグローバルなデータも利用可能となったので、中国やシルクロード地域を対象地域として重点的に取り上げる。DEMや衛星画像を分析するため、地理情報システム（GIS）としてQGISを利用する。</p>											
【到達目標】											
<p>地形データ（DEM）や空中写真・衛星画像の遺跡探査や歴史景観復原などへの応用について、理解を増進することを目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1) 1995年に公開された米国偵察衛星写真（CORONA衛星写真）の仕様について説明し、応用可能性を検討する。この衛星写真は高解像度であるほか、撮影時期が古い（1960年代）という点でも利用価値の高いものである。CORONA衛星写真は幾何的歪みが大きいので、適切な幾何補正が必要である。QGISのジオリファレンス機能を利用して幾何補正の方法を実習する。（1, 2, 3回）</p> <p>2) 中東地域に典型的にみられるテル（遺丘）の景観について、CORONA衛星写真を利用した既往研究を紹介し、検討する。（4回）</p> <p>3) 中央アジア乾燥地域のオアシスに見られる都市・集落遺跡を検討する。まず、中国・内モンゴル自治区のエチナ・オアシス（漢代の居延）について、辺塞や屯田の分布と形態を考察する。都市・軍事施設や灌漑施設（用水路）の痕跡のあり方について考察する。（5, 6回）</p> <p>4) 次に、タリム盆地東南部の現オアシス（且末およびミーラン）に隣接して存在する集落遺跡について、衛星画像から判読される用水路網の復原を通して考察する。（7, 8回）</p> <p>5) また、ウズベキスタン・サマルカンド地域における都市・集落遺跡の分布や形態を論ずる。これらには、テパ（遺丘）の形態を取るものと、城壁などの囲郭の形態を取るものがある。（9, 10回）</p> <p>6) 地中海地域におけるフェニキア・ポエニ（カルタゴ）文化に基づく都市の立地とプランについて検討する。これらは海上貿易に基礎をおいていたので、立地のポイントは港湾にあった。これらの都市が、ローマ帝国にどのように引き継がれたかについても考察する。（11, 12回）</p> <p>7) 渤海国の都城などを事例として、7～9世紀の東アジア都城に見られる共通の特徴（日本の平城京・平安京に見られる条坊制など）について検討する。（13, 14回）</p> <p>この授業は実習ではないが、衛星画像やDEMを用いるにあたり、QGISなど無料で利用できるGISソフトウェアの使用法について紹介する。</p> <p>フィードバックについて フィードバック期間あるいはそれ以外でも、授業内容に関する質問等があれば、随時受け付ける。以下に記したオフィスアワー以外の面談は、事前にメール等で日時を決めることが望ましいが、気軽に相談してほしい。</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポート試験による（80％）。これ以外に随時小テストを行う（20％）。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

（関連URL）

<http://www.hgeo.h.kyoto-u.ac.jp/ogata/> (小方研究室ホームページ)

【授業外学修（予習・復習）等】

メディアセンターの端末や自宅のパソコンにおいて，Google Earthの閲覧などを通して，授業で扱う内容を復習すること。GISソフトウェアQGIS，地形データSRTM/AW3D30，LANDSAT衛星画像は，インターネット上で無料で利用できる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワー：月曜11:00～12:30

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系130

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡村 秀典			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古鏡の研究									
【授業の概要・目的】											
中国には三千年の漢字文化があり、伝世文献のほか、甲骨・金文・簡牘などの出土文字資料が近年ますます増加している。本講義では、そうした史資料を参考にしながら、銅鏡を中心に古代に生きた人間の営みを考える。											
【到達目標】											
考古資料の外形とその変化を追求するだけでなく、中国古代のさまざまな史資料を参考にしながら、それを作り使った人間の営みを探求し、人文学としての考古学を展望する。											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について講述する。各項目の講義の順序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて適切に決める。主に中国古代の銅鏡について概説し、考古学から古代文化とその中世への展開を考える。											
第1回 本講義の視座と問題意識											
第2回 銅鏡のはじまり											
第3回 銅鏡の鑄造											
第4回 銅礼器と銅鏡											
第5回 鏡はどのように使われたのか											
第6回 銅鏡の型式学的研究法											
第7回 戦国時代の銅鏡											
第8回 前漢時代の銅鏡											
第9回 前漢鏡の銘文(1) 楚辞の影響											
第10回 前漢鏡の銘文(2) 陰陽五行思想											
第11回 前漢鏡の銘文(3) 家の観念											
第12回 前漢鏡の紋様 四神の出現											
第13回 王莽鏡論											
第14回 まとめ - 中国古代の銅鏡(1)											
第15回 まとめ - 中国古代の銅鏡(2)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート											
【教科書】											
使用しない											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

岡村秀典 『鏡が語る古代史』 (岩波新書、2017年) ISBN:4004316642

[授業外学修(予習・復習)等]

日頃から歴史だけでなく、思想文化にも関心を持ち、異文化に対する理解を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系131

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡村 秀典			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古鏡の研究									
【授業の概要・目的】											
中国には三千年の漢字文化があり、伝世文献のほか、甲骨・金文・簡牘などの出土文字資料が近年ますます増加している。本講義では、そうした史資料を参考にしながら、銅鏡を中心に古代に生きた人間の営みを考える。											
【到達目標】											
考古資料の外形とその変化を追求するだけでなく、中国古代のさまざまな史資料を参考にしながら、それを作り使った人間の営みを探求し、人文学としての考古学を展望する。											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について講述する。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて適切に決める。主に中国古代の銅鏡について概説し、考古学から古代文化とその中世への展開を考える。											
第1回 本講義の視座と問題意識											
第2回 マンネリズムに陥る「尚方」											
第3回 「青蓋」の志 淮派の形成											
第4回 「名工杜氏」伝											
第5回 自立する鏡工たち											
第6回 民間に題材を求めた画像鏡 呉派の成立											
第7回 淮派の受容した画像鏡											
第8回 四川における広漢派の成立											
第9回 画紋帯神獣鏡の出現											
第10回 うつろう鏡工たち 東方にひろがる神獣鏡											
第11回 会稽派の登場											
第12回 呉の神獣鏡											
第13回 魏晋の鏡											
第14回 まとめ - 中国古代の銅鏡 (3)											
第15回 まとめ - 中国古代の銅鏡 (4)											
【履修要件】											
特になし											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポート

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

岡村秀典 『鏡が語る古代史』 (岩波新書、2017年) ISBN:4004316642

[授業外学修(予習・復習)等]

日頃から歴史だけでなく、思想文化にも関心を持ち、異文化に対する理解を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系132

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		農学研究科 教授 杉山 淳司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		わが国固有の用材観や木の文化に触れながら、木材の仕組みや分析により得られる情報について学習する。									
【授業の概要・目的】											
<p>木材は樹木として長い間自らの体を支え、また材として我々の文化や生活を支えてきた。今日では環境保全はもとより、持続可能な資源としてもますます注目が高まっている。本講義では、木材の多様かつ丈夫な仕組みを歴史的、考古的な木製品や建築物と関連させて学習する。また、ルーペや顕微鏡による木材識別実習や大学周辺の野外樹木識別実習や建造物見学(合せて3ないし4回)などを通して、木材そのものや木製品調査に必要な手法を学習する。</p>											
【到達目標】											
<p>木材の形成、物性、利用について概観することで、われわれの用材観を考察する基礎的な知識を養う。 木材組織と樹木観察実習を通して、標準的な木材に関する知識やそれらの識別法について自主的に学べる能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1.授業の概要と進め方。 2.木材とは 3.木材科学の基礎 4.樹木のみわけかた(吉田構内) 5.樹木のみわけかた(吉田構内) 6.樹木のみわけかた(吉田山) 7.針葉樹材・広葉樹材の巨視的特徴 8.針葉樹材・広葉樹材の解剖学的特徴 9.樹種識別の手法のいろいろ 10.年輪年代・年輪気候のはなし 11.歴史的建造物の木材 12.遺跡から出土する木材 13.楽器や工芸に見る木材 14.木材のデータベースとその利活用について 15.フィードバック(質問事項に対する回答) <p>それぞれのトピックで完結するのではなく相互に関連させながら講義をすすめる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業への積極性 20点）、小レポート（2回, 20点x2）ならびに期末レポート（40点）により評価するが、独自の工夫がみられるものについては高い点を与える。

[教科書]

対面授業の場合：

テキストについては印刷物等を適宜配布する。また、実習に必要な観察用サンプルやルーペを配布する。

対面授業ができない場合：

Pandaシステムにテキストを掲示する。また、実習用のキットについては受け取り日時と場所を指定するか、郵送とする。

[参考書等]

（参考書）

自習用参考書として：

林 将之 葉で見分ける樹木 小学館
佐竹他 フィールド版 日本の野生植物 木本、平凡社
佐伯 浩 この木なんの木 海青社
尼川大録、長田武正、検索入門 樹木 、樹木 、保育社
中川重年 検索入門 針葉樹、保育社
山崎隆之 一度は拝したい京都の仏像 学研新書
鈴木三男 日本人と木の文化、八坂書房
小原二郎 木の文化 鹿島出版会

[授業外学修（予習・復習）等]

適宜講義中に指示する。具体的には：

- 1) 身の回りの木製品の観察とその報告。
- 2) 樹木の観察とその報告。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系133

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		理学研究科 教授 中川 尚史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		考古学(特殊講義)									
【授業の概要・目的】											
<p>「自然におけるヒトの位置」を知るために、野生霊長類，とくに系統的に人類にもっとも近縁な大型類人猿の社会，生態，行動に関する知見を中心に，形質人類学，生態人類学，比較認知科学の知見を交えて，人類の進化史を検討する。講義の中心的テーマは、社会の進化、人間家族の起源、性の進化、文化の起源、脳と心の進化、攻撃性、協力行動、言語の起源などについて解説し、最近論議されている説を検討する。</p>											
【到達目標】											
人類の社会、生態、行動面での特徴を、その進化過程とともに理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1.日本の霊長類学の誕生と人類進化論研究室、霊長類の分類とヒトの位置、人類進化論概説～導入部として 2.社会構造概説、父系社会とその進化(その1) 3.父系社会とその進化(その2)、重層社会とその進化 4.性行動とその進化 5.大脳化を支えた食 6.社会的知性と大脳化の社会仮説(その1) 7.社会的知性と大脳化の社会仮説(その2) 8.共感性と心の理論 9.道具使用と社会行動の文化(その1) 10.道具使用と社会行動の文化(その2) 11.狩猟と肉食，集団間闘争 12.互惠性と食物分配，協力行動，向社会的行動 13.言語の起源(その1) 14.言語の起源(その2) 15.フィードバック 											
【履修要件】											
人類学第2部も受講することが望ましい。											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

絶対評価（素点）

平常点（30点）、および学期末に1回のみ行うレポート試験（70点）により評価します。レポート試験は、レポートの課題に則していなければ、単位は認められませんので注意してください。

[教科書]

使用しない

授業中にプリントを配布し、それに沿って行います。また、映像資料も極力使用して、フィールド観察から得られた結果であることを体感してもらえますようにします。

[参考書等]

（参考書）

中川尚史 『"ふつう"のサルが語るヒトの起源と進化』（ぷねうま舎）ISBN:978-4-906791-51-4

西田利貞 『人間性はどこから来たか』（京都大学学術出版会）ISBN:4876980799

山極壽一 『人類進化論 霊長類学からの展開』（裳華房）ISBN:9784785352172

R. ボイド・JB. シルク 『ヒトはどのように進化してきたか』（ミネルヴァ書房）ISBN:9784623058983

河合香史（編著） 『集団-人類社会の進化』（京都大学学術出版会）ISBN:9784876989379

中川尚史・友永雅己・山極壽一 『日本のサル学のアした：霊長類研究という「人間学」の可能性』（京都通信社）ISBN:9784903473529

西田利貞・上原重男（編） 『霊長類学を学ぶ人のために』（世界思想社）ISBN:4582546234

中川尚史 『サバンナを駆けるサル』（京都大学学術出版会）ISBN:9780195171334

中川尚史 『食べる速さの生態学』（京都大学学術出版会）ISBN:4876983046

中川尚史 『サルの食卓-採食生態学入門』（平凡社）ISBN:4582546234

井上英治・中川尚史・南正人 『野生動物の行動観察法：実践 日本の哺乳類学』（東京大学出版会）ISBN:9784130622233

辻大和・中川尚史 『日本のサル 哺乳類学としてのニホンザル研究』（東京大学出版会）ISBN:9784130602334

上記以外は授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

復習としては、講義ノートの整理しながら、授業中に分からなかった点をクリアにし、次の時間に質問するなり、自分で調べるなりして解決するよう努めること。予習としては、同じテーマが続く授業の場合に、前回の内容を思い出しておくことが肝要です。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に指定しません。メールでアポをとったあと研究室に来てください。メールアドレスは、
nakagawa@jinrui.zool.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系134

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		理学研究科 教授 中務 真人			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人類学 第2部									
[授業の概要・目的]											
人間は他の生物と異なり、過去、現在、未来を認識することができる。しかし、諸君は生物としての人間（ヒト）の成り立ちについてどれほど正確な知識を持っているだろうか。この講義を通じて、ヒトの進化についての理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトの進化に関する基本事項を理解し、ヒトの特性の進化過程を正確に説明できる。 ・課題（レポート等）に対して積極的に取り組む能力を養う。 											
[授業計画と内容]											
<p>以下の課題について講義を行う予定である。ただし授業理解の程度、最新の研究状況の進展などに対応してテーマの区切り・回数を変えることがある。</p> <p>授業 15回（フィードバック含む）・定期試験</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 化石による進化研究 (2) 動物界におけるヒトの位置 (3) 霊長類の誕生、暁新世プレシアダピス類 (4) 始新世曲鼻類の進化 (5) 始新世・漸新世の真猿類 (6) 前期中新世類人猿 (7) 中期・後期中新世類人猿 (8) 初期猿人 (9) アウストラロピテクス類 (10) 後期鮮新世・前期更新世の人類進化 (11) 中期更新世とヒト的特徴の進化 (12) 後期更新世化石人類 (13) 後期更新世文化 (14) 汎地球種としてのヒト (15) フィードバック 各自学習内容を点検し、質問のある学生は時間内に理学2号館311に来ること。 											
[履修要件]											
人類学第1部もあわせて履修することが望ましい。											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期途中に課すレポート(30点)と学期末の試験(70点)により評価する。試験の形態は状況を見て、授業中に衆知する。

[教科書]

使用しない。
適宜資料を配付する。

[参考書等]

(参考書)
ロバート・ポイド他『ヒトはどのように進化してきたか』(ミネルヴァ書房) ISBN:978-4-623-05898-3

[授業外学修(予習・復習)等]

基本的に復習につとめることが重要である。予習が必要な場合は、前回の講義において指示する。復習のため、講義の概要、参考文献の題目を各回に配布するので、それを用いて理解度を確認すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーは特に定めない。質問等は講義後、尋ねること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系135

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 下垣 仁志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古墳時代の諸問題 考古学を中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>旧石器～縄文時代(弥生時代)までを先史時代、飛鳥時代以降を歴史時代とよぶことがある。その中間の古墳時代は、原史時代とも呼称され、その基礎資料として考古資料と文献史料が拮抗する時代である。『記』『紀』批判が進展した結果、古墳時代研究における考古学の存在感はますます高まってきたが、文献史学が力を発揮するが考古学は不得手である制度や機構面の研究が低調になってきた。のみならず、考古学と文献史学の乖離がますますいちじるしくなってきた。本講義では、考古学と文献史学が交錯しうるテーマのうち、考古学に比重があるものを選びだし、これまでの学史的展開と課題を抽出したうえで、最新のデータから議論を構築してゆく。</p>											
【到達目標】											
<p>考古学と文献史学の学問的性格のちがいを理解したうえで、考古学から古墳時代の重要テーマに切りこむための問題意識と検討法を習得できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回.本講義の梗概 第2回.考古学と歴史研究 第3回.邪馬台国から「大和政権」へ(1) 研究史と論点 第4回.邪馬台国から「大和政権」へ(2) 最新の研究動向 第5回.三角縁神獣鏡の謎(1) 実態と系譜 第6回.三角縁神獣鏡の謎(2) 政治的意義 第7回.威信財と宝器(1) 論点整理 第8回.威信財と宝器(2) 理論的・実践的射程 第9回.古代国家の形成(1) 学史と理論 第10回.古代国家の形成(2) 多段階国家形成論 第11回.巨大古墳と公共事業論(1) 学史的展開 第12回.巨大古墳と公共事業論(2) 資料的実態 第13回.古墳と女性(1) ヒメ・ヒコ論と聖俗二重首長制論 第14回.古墳と女性(2) 古墳とジェンダー 第15回.まとめ</p> <p>事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートにより成績を評価する。

[教科書]

使用しない

古墳(時代)に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。状況が許せば、博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

古墳(時代)に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。とくに下記の書籍を少なくとも1冊は読んでおくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系136

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 下垣 仁志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時間	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古墳時代の諸問題 考古学と文献史学の合流に向けて									
【授業の概要・目的】											
<p>考古学は物質資料から、文献史学は文字史料から、過去人類について究明する。両者は目標を同じくしながらも、分析の対象・手法・手段などが大きくことなり、そのため連携が容易ではない。考古資料と文献史料が交錯しはじめる古墳時代は、両者の連携が不可欠であるにもかかわらず、ますます乖離が進んでいる。本講義では、両者の問題意識が相交わる重要テーマを選択し、考古学と文献史学の合流をめざす。</p>											
【到達目標】											
<p>考古資料と文献史料の特性と限界点を理解し、そのうえで両者が交わる古墳時代の社会像に迫るアプローチを習得できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回.本講義の梗概 第2回.古墳時代の戦争(1) 論点整理 第3回.古墳時代の戦争(2) 考古学的実態 第4回.王宮と都市(1) 集落と王宮 第5回.王宮と都市(2) 都市国家と領域国家 第6回.「河内王朝論」の現在(1) 王朝交替論から王統変動論へ 第7回.「河内王朝論」の現在(2) 古墳と「政権交替」 第8回.地位継承(1) 人骨を中心に 第9回.地位継承(2) 首長墓系譜を中心に 第10回.陵墓治定の妥当性 第11回.古墳と国造・県主(1) 研究史と課題 第12回.古墳と国造・県主(2) 考古資料と仮説 第13回.『記』『紀』と古墳時代研究(1) 信頼性の学史的推移 第14回.『記』『紀』と古墳時代研究(2) 節合性の摸索 第15回.まとめ</p> <p>事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。</p>											
【履修要件】											
<p>特になし。ただし、今年度前期の特殊講義「古墳時代の諸問題 考古学を中心に」を受講しておくこと、本講義をさらに深く理解することが可能になる。</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートにより成績を評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

古墳(時代)に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。状況が許せば、博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系137

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学文学部 准教授 諫早 直人			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本列島における騎馬文化の受容と拡散									
【授業の概要・目的】											
かつて日本列島における騎馬文化の出現背景に、大陸からの騎馬民族の侵略・征服活動が想定されたように、騎馬文化の出現は日本列島の広範な地域に極めて大きな社会変化をもたらした。この講義では日本列島の騎馬文化に関わる史・資料を総合的に検討し、東部ユーラシア各地のそれとの比較を通じて、騎馬文化がいつ、どのように受容され、拡散したのかを明らかにする。											
【到達目標】											
本講義を通じて、日本列島の歴史を東部ユーラシアという枠組みの下で理解することの重要性や、広域に点在する文化遺産を有機的に関連づけて扱うための手順と方法を身につける。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の計画で講義を進める予定であるが、各項目の講義の順序は固定したものではなく、受講者の背景や理解の状況に応じて適切に決める。											
<p>第1回：ガイダンス 馬と日本人・日本文化</p> <p>第2回：馬の渡来時期をめぐって(1) 先行研究の吟味</p> <p>第3回：馬の渡来時期をめぐって(2) 考古資料の再検討</p> <p>第4回：騎馬文化の受容(1) 初期馬具の製作技術</p> <p>第5回：騎馬文化の受容(2) 初期馬具の系譜</p> <p>第6回：騎馬文化の受容(3) 初期馬具の製作地</p> <p>第7回：騎馬文化の定着(1) 装飾馬具生産のはじまり</p> <p>第8回：騎馬文化の定着(2) 葦屋北遺跡の発掘成果</p> <p>第9回：騎馬文化の定着(3) 日本列島における馬匹生産のはじまり</p> <p>第10回：騎馬文化の変容(1) 馬匹生産の東方展開</p> <p>第11回：騎馬文化の変容(2) 装飾馬具生産の変容</p> <p>第12回：騎馬文化の変容(3) 新羅系馬具の製作地</p> <p>第13回：古代への展望(1) 飛鳥寺出土馬具の提起する問題</p> <p>第14回：古代への展望(2) 藤原宮運河出土馬骨の提起する問題</p> <p>第15回：騎馬文化と国家形成</p>											
それぞれのトピックで完結するのではなく相互に関連させながら講義をすすめる。											
【履修要件】											
特になし											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価（小レポートなど）約30%
学期末レポート 約70%

[教科書]

使用しない
適宜、資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
右島和夫ほか編 『馬の考古学』（雄山閣、2019年）ISBN:978-4639026808
諫早直人 『東北アジアにおける騎馬文化の考古学的研究』（雄山閣、2012年）ISBN:978-4639022145

[授業外学修（予習・復習）等]

講義内容をよく理解するためには、日本列島を含む東北アジアの地理的環境や東北アジア史の大まかな流れを事前に勉強することが重要である。また授業で紹介する史跡や博物館に通い、実際にモノをみることで理解はさらに高まるだろう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類
実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

歴史基礎文化学系138

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 准教授 文学研究科 助教 文学研究科 助教		吉井 秀夫 下垣 仁志 富井 眞 内記 理	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		East Asian Origins: Ancient History and Material Culture									
[授業の概要・目的]											
<p>In this special lecture, we offer an overview of various archaeological studies about the prehistoric and ancient East Asia, with the results of our researches and studies. We also examine the characteristics of the archaeological studies of the East Asia in Japan, by comparison of the studies in Europe and the US. The department of archaeology in Kyoto University has excavated archaeological sites in Japan, Korea, and China, and has gathered various artifacts from all areas of the world. These archaeological data will be introduced in this special lecture.</p> <p>Study Focus: Visual, Media and Material Culture; Knowledge, Belief and Religion. Modules: Mobility & Research 1; Mobility & Research 2; Research 3.</p>											
[到達目標]											
<p>By the end of this special lecture, student will get familiar with the artifacts of East Asia, and have general understanding of the issues about the prehistoric and ancient archaeology in East Asia.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>This special lecture will be offered in accordance with the following general structure. The detailed plan for each class will be announced in the introduction.</p> <p>1 Introduction (1 week) Introduction of the special lecture.</p> <p>2 History of the East Asian archaeology in Japan (3weeks) This section will outline the history of archaeological investigations, studies and gathering artifacts in Japan, Korea and China by Japanese archaeologists,</p> <p>3 Prehistory in Japan (3weeks) This section will outline the history of the study of Japanese prehistory, and focuses on the material culture of Mesolithic (called “Jomon” period) as well as Paleolithic and Early Neolithic, with showing some researches to exploit the potential for contributing to the world prehistory.</p> <p>4 Archaeology of daily life cultures in prehistoric and ancient Japan(3weeks) This section will outline prehistoric and ancient daily life cultures (clothes, foods and toilet) from structural remains and artifacts excavated in Japan.</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

5 The Eastward Transmission of Buddhist Culture from Archaeological Perspective (3weeks)

In order to assemble knowledge about “origins” of Buddhist culture, Kyoto University has conducted researches in Buddhist sites in China and Central Asia. In the lectures, how Buddhist cultures were transferred into East Asia will be discussed on the basis of archaeological information obtained by Kyoto University.

6 Discussion (1 week)

7 Feedback(1week)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Attendance and participation: 40%, Course Essay:60%

【教科書】

使用しない
Not used.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する
To be announced in class

【授業外学修(予習・復習)等】

The participants are expected to spend a certain amount of time outside of this class reading the reference papers and books announced in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学歴史資料館 教授 若林 邦彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		弥生地域社会構造論 近畿中部を中心に -									
【授業の概要・目的】											
<p>近畿地方の弥生時代遺跡や発掘調査例は多い。また、古墳時代～古代の王権・国家の中心地の揺籃地としても注目されてきた。しかし、古墳時代以後の政治的中心性を弥生社会にさかのぼらせることは本当に可能なのだろうか。</p> <p>そういった問題意識から、考古資料から描き出せる近畿地方を中心とした弥生地域社会論を検討し、結果として日本列島での王権や国家的世界の形成過程の新解釈へのアプローチを考えたい。</p>											
【到達目標】											
<p>金属祭器や墓制といった、先史時代研究におけるわかりやすい政治指標だけでなく、そういったモノを生み出す社会の構造そのものについて、土器・石器・木製品といった日用品や集落などの考古資料情報に基づいて考察を深める重要性を理解できるようにする。</p> <p>また、本授業で提示する上記の方法論と、学生各自が取り組んでいる研究方向との対比をそれぞれ行い、過去の権力や社会構造に考古資料からアプローチする際の方法の多様性について理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のようなプランで講義を進める。ただし、講義の進み具合や受講者の関心内容などに応じて、順序やテーマを変更することがある。</p> <p>第1週 授業の方向性と受講者の問題意識の把握</p> <p>第2週 弥生時代地域社会構造論のこれまで</p> <p>第3週 近畿地方弥生土器の変化と年代</p> <p>第4週 近畿地方弥生土器の地域的様式差の形成</p> <p>第5週 地域的様式差の形成の展開と構造(1)</p> <p>第6週 地域的様式差の形成の展開と構造(2)</p> <p>第7週 弥生時代の生産/消費システム</p> <p>第8週 集落からみた弥生地域社会(1)</p> <p>第9週 集落からみた弥生地域社会(2)</p> <p>第10週 唐古・鍵遺跡についての理解～東西日本の諸大規模遺跡と比較して～</p>											
----- 考古学(特殊講義) (2)へ続く -----											

考古学(特殊講義) (2)

第11週 弥生地域社会総論～その理論的枠組み～（1）

第12週 弥生地域社会総論～その理論的枠組み～（2）

第13週 集落と墳墓の立地からみた弥生～古墳時代の社会変化（1）

第14週 集落と墳墓の立地からみた弥生～古墳時代の社会変化（2）

第15週 古代国家形成過程論とのかかわり

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（20％）および学期末のレポート（80％）により成績を評価する。

【教科書】

使用しない

使用しない

授業の進度に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

講義で取り上げる論文、研究書に眼を通しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

講義後に質問を受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

【実務経験のある教員による授業】

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

歴史基礎文化学系140

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 中村 大介			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東北アジアの青銅器・鉄器時代の考古学									
【授業の概要・目的】											
<p>東北アジアは中国の影響を受けながらも独自の歴史的展開をみせる地域である。また、日本列島との関係が深く、弥生時代の青銅器の起源地であるだけでなく、政治的・社会的にも大きな影響を与えてきた。そこで、本講義では、東北アジアのなかでも中国東北地方と朝鮮半島を中心に、青銅器時代から鉄器時代の社会変化と画期について考古資料から考える。具体的には、農耕の普及から国家形成直前までの期間を扱い、墓制の変化や交流関係を軸に、その歴史的な特殊性を浮き彫りする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国東北地方及び朝鮮半島の遺構と遺物についての理解を深める。 ・ 両地域の政体の成長と歴史的画期を考察できるようになる。 ・ 日本考古学とは異なる論点や視点をみにつける。 											
【授業計画と内容】											
<p>(開講日時はKULASISを通して連絡)</p> <p>第1回 農耕の拡散と南北差 第2回 社会の複雑化と青銅器の出現 第3回 北方青銅器の流入と社会変化 第4回 コラム1：草原地帯の青銅製武器の波及 第5回 夏家店上層文化と遼寧式銅剣の形成 第6回 遼東半島の支石墓 第7回 朝鮮半島の支石墓と後期青銅器時代社会 第8回 コラム2：長城地帯における騎馬遊牧民の出現 第9回 粘土帯土器文化の形成 第10回 粘土帯土器文化の拡散 第11回 細形銅剣の形成と鉄器の拡散 第12回 楽浪郡の形成と交易の拡大 第13回 原三国時代と弁・辰韓社会の台頭 第14回 漢と周辺地域の交易と外交関係 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 考古学(特殊講義) (2)へ続く -----											

考古学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートおよび平常点により成績を評価する。
レポート60%、平常点40%。

[教科書]

授業前の関連レジュメをアップする

[参考書等]

(参考書)

中村 大介 『弥生文化形成と東アジア社会』(塙書房) ISBN:9784827312508

石川 岳彦 『春秋戦国時代燕国の考古学』(雄山閣) ISBN:9784639024859

宮本 一夫 『東アジア青銅器時代の研究』(雄山閣) ISBN:9784639027232

そのほかの参考文献は授業中に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

必要に応じて別途指示する。

(その他(オフィスアワー等))

授業計画は授業の進行状況に応じて変更することがある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

歴史基礎文化学系141

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		総合博物館 准教授 村上 由美子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		木器の文化史									
【授業の概要・目的】											
<p>遺跡出土木材を対象資料として多様な情報を引き出し、縄文時代から近世にかけての木材利用の歴史や技術史、環境史を論じるための方法を示す。木は歴史を通じて日本人の生活のさまざまな場面で使われてきた素材であり、農具・工具・各種の生活用具や建築材など、多彩な用途があった。木器の樹種や資源獲得の基盤となった植生との関係も視野に入れることにより、一つの木器の背景には当時のどのような暮らしや文化、環境があったかを読み取り、歴史の一端を論じていく過程を学ぶ。</p> <p>また講義の後半では、前半の講義内容を踏まえて受講者の専門や興味に即した題材を選び、「地域の博物館で木の文化の歴史をテーマとした小規模な展示を企画する」との設定のもと、受講者が展示の計画を立案し、発表を行う。</p>											
【到達目標】											
<p>文化史の方法論や枠組みについて理解を深め、一つの素材を対象として通史的に俯瞰する視野を持つ。また、木器の基本的な観察法を習得したうえで、個々の木器から読み取った情報をもとに歴史像を復原し、提示する方法を学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業のうち1回は、総合博物館において遺跡出土木器を実際に観察し、木取りや加工痕など木器に残る情報を読み取って記録する作業に取り組む。そして上述のように授業の後半では、受講者が展示計画を立てて発表を行う時間を設ける。</p> <p>各回の授業計画は以下の通りとするが、受講者の理解度や関心に応じて適宜調整する。</p>											
<p>第1回 木器の資料的特性と文化史の方法論について 第2回 縄文時代の木器と木材利用 第3回 縄文-弥生移行期の木器と木材利用 第4回 弥生時代の木器と木材利用(1) 農具と容器の用材を中心に 第5回 弥生時代の木器と木材利用(2) 広葉樹から針葉樹へ 第6回 古墳時代の木器と木材利用 第7回 木器の観察と記録(総合博物館で授業) 第8回 古代の木器と木材利用 第9回 中近世の木器と木材利用 第10回 出土木器から捉えた農具の歴史 第11回 中国の木器研究概観と日本の木器との比較 第12回 木の考古学と関連諸分野(1) 自然科学- 第13回 木の考古学と関連諸分野(2) 人文科学- 第14回 「木の文化の歴史」に関連した展示計画(受講者による発表と評価)</p>											
----- 考古学(特殊講義) (2)へ続く -----											

考古学(特殊講義) (2)

第15回 講義のまとめとフィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回提出する小レポート(30%)，展示計画についての発表内容(30%)，期末レポート(40%)を総合して講義の理解度や応用力をみる。

【教科書】

毎回レジユメを配布する。

【参考書等】

(参考書)

『木の考古学 出土木製品用材データベース』(伊東隆夫・山田昌久編)海青社、2012年
『ものと人間の文化史1 船』(須藤利一編)法政大学出版局、1968年ほか、同シリーズの木器関連書

【授業外学修(予習・復習)等】

授業で配付するレジユメや提出した小レポートの内容を再検討すること。
発表に向けての準備を随時行い、題材を集めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

【実務経験のある教員による授業】

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

歴史基礎文化学系142

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 千葉 豊			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		縄文集落研究の現状と課題									
【授業の概要・目的】											
縄文時代の集落については、50年以上に及ぶ調査・研究の蓄積の結果、きわめて多彩なイメージが提起されるにいたっている。それは、集落遺跡の発掘調査が進んで、多様な集落が存在したことが明らかになってきたという資料に依存する部分とともに、同時存在住居の確定などの調査方法の革新、あるいは民族誌の援用など、資料・方法・理論が一体となって研究を進めてきた結果ともいえる。本講義では、縄文時代集落研究の現状を明らかにし、どのような課題が残されているかを議論したい。											
【到達目標】											
縄文時代集落研究の現状と課題を理解することにより、縄文時代の社会について、より深く考察できる知識を身につけることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下に示すテーマに関して、1テーマあたり1～3週の授業を実施する予定である。											
<ul style="list-style-type: none"> 縄文集落研究史 集落を構成する要素 住居遺構について 埋蔵・土器埋設遺構について 集落の構造 集落と集落を結ぶ 縄文集落論から縄文社会論へ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(50%)とレポート(50%)											
【教科書】											
授業中に指示する プリントを配布し、それに基づき授業を進める。											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

縄文時代に関する概説的知識は身につけているものとして授業を進めるので、そうでない受講生は縄文時代に関して概説書などで予習しておくこと。授業において多数の文献(論文)を掲げるので、そうした論文をできるだけ精読してもらいたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系143

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 向井 佑介			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古代の瓦生産と都市建設									
【授業の概要・目的】											
<p>日本列島や朝鮮半島など、東アジア各地に分布する瓦の源流は中国にもとめられる。これまで、中国における瓦の出現は西周初期とするのが通説であった。しかし、近年では殷代以前にさかのぼる瓦状遺物の出土があいついで報告され、そのふるいものは新石器時代後期にさかのぼるという説が有力となりつつある。新たな考古資料をふまえて瓦の出現・展開過程を整理しなおす必要が出てきた。この講義では、現在までに中国各地で発掘された主要な都市遺跡とそこから出土した瓦について考古学的に分析する。それにより、中国において瓦と都城がどのように成立し、それが東アジア各地にどのように伝播していったのかを明らかにしようとするものである。</p>											
【到達目標】											
<p>この講義では、新石器時代後期から前漢時代までの瓦と都市に関する考古資料・出土文字資料・文献史料をあわせて検討することにより、中国古代における瓦生産と都市建設の特質を理解するとともに、瓦生産の管理体制や都市建設の理念について考察する。講義を通じて、考古資料から歴史を復元する手順と方法を学ぶことを目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> 瓦の出現をめぐる近年の発見 宮殿建築の出現 西周の瓦と建築 春秋時代の都市と瓦生産 秦雍城の瓦工房 洛陽東周王城の瓦生産 中山と趙の瓦生産 燕と斉の瓦生産 秦都咸陽と始皇帝陵の造営 始皇帝の離宮建設 前漢長安城の造営 戦国秦漢時代における瓦窯の変遷 南越の瓦 漢帝国の周縁地域の瓦 古代中国における瓦の出現と伝播 											
【履修要件】											
特になし											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点20%と学期末レポート80%をあわせて評価する

[教科書]

毎回レジュメを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

日頃から自身の専門以外のさまざまな学問分野に目を向けるとともに、学内外の博物館施設などを利用して積極的に実物資料を見学するよう努めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系144

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 向井 佑介			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国中世の瓦と都城									
【授業の概要・目的】											
<p>中国では、3世紀の曹魏洛陽城においてはじめて太極殿が建設され、単一の宮城を南北に貫く明確な中軸線が形成されたことが、近年の考古学的調査によって明らかにされた。それ以後、両晋南北朝隋唐の時代には、太極殿を正殿とする単一の宮城が都城の北側中央に置かれ、そのプランが日本古代の平城京や平安京にも採用されたことはよく知られている。この講義では、中国の漢代から唐代までの都城プランの変遷について、近年の考古学的調査成果と文献史学の研究成果をもとに整理する。同時に、その都城建設に用いられた主要な建築材料である瓦についての考古学的分析をもとに、瓦の生産管理や都城の造営制度について考察し、さらに関連する朝鮮半島や日本列島の資料と比較検討することで、それらの系譜関係を明らかにしようとするものである。</p>											
【到達目標】											
<p>中国の中世は、都城史と造瓦史における大きな変革期である。この授業では、近年の考古学的知見をふまえて、後漢代から唐代までの瓦と都城の変遷を整理するとともに、考古資料・出土文字資料・文献史料をあわせて検討することにより、瓦生産の管理体制や都城の造営制度、さらに都城プランに反映された理念を考察する。講義を通じて、中国中世における瓦生産と都城造営の特質を理解するとともに、考古資料から歴史を復元する手順と方法を学ぶことを目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> 中国都城制度の変革 後漢洛陽城の復元 曹魏洛陽の宮城をめぐる議論 曹魏ギョウ城の革新性 六朝建康の考古学的発見 三燕と高句麗の瓦 北魏平城の瓦工房 北魏平城の景観変化 北魏の洛陽遷都と瓦生産 東魏・北齊都城の瓦生産 隋大興城と東都城の建設 唐長安大明宮の誕生 太液池の発掘 南北朝隋唐時代の瓦窯構造 東アジア都城と瓦の系譜 											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点20%と学期末レポート80%をあわせて評価する。

[教科書]

毎回レジュメを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

日頃から自身の専門以外のさまざまな学問分野に目を向けるとともに、学内外の博物館施設などを利用して積極的に実物資料を見学するよう努めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系145

科目ナンバリング		U-LET27 37040 SJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(演習Ⅰ) Archaeology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		三回生演習									
【授業の概要・目的】											
考古学の方法論や基礎知識を身につけることを目的とする。授業では、考古学に関わる重要な論文を熟読し、その内容や論理構成を分析・紹介し、現在の考古学における主題や方法論を批判的に摂取する。また状況に応じて、考古資料を実際に観察・記録・報告する実習もおこなう。											
【到達目標】											
<p>学術論文を熟読し、その内容・論理構成を正しく理解できるようになる</p> <p>学術論文の検討を通して、考古学における基本的な方法論を身につける</p> <p>考古資料を正しく観察・記録・報告する技術を身につける</p>											
【授業計画と内容】											
<p>発表者は与えられた課題論文や自ら選択した論文の内容を、基礎となる考古資料とあわせて紹介し、論文の論理構造や問題点を指摘する。出席者は発表内容に関して質問し、異論を提示する。また状況に応じて、考古資料を実際に観察・記録・報告する実習もおこなう。受講者数によって変動するが、おおむね以下のように進める予定である。</p> <p>前期</p> <p>第1回 ガイダンス（授業計画の説明および報告順序の決定）</p> <p>第2回 講義（演習の進め方について）</p> <p>第3～14回 課題論文の報告および討論</p> <p>第15回 夏期課題の分担を決定</p> <p>後期</p> <p>第1～3回 夏期課題の報告および討論</p> <p>第4～15回 課題論文の報告および討論</p>											
【履修要件】											
授業に出席し発表を担当することが前提となる。											
【成績評価の方法・観点】											
課題である論文をどれだけ明確に分析し理解できているか、また他の受講者の報告に対して活発に議論できているかを評価する。また必要に応じて課するレポート課題も評価の際の参考とする。											
----- 考古学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

考古学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

使用しない
発表に際しては、各自レジュメを準備すること。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
発表内容に関する参考書は、発表者が検索すること。教員も随時紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

自分の課題論文を読むことはもちろんのこと、他の受講者の課題論文も読むこと。また、各自で考古学の基本的な方法論に関する書籍・論文を読み、理解を深めること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系146

科目ナンバリング		U-LET27 37042 SJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(演習II) Archaeology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 下垣 仁志			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		演習									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、担当者(受講者)による発表とその後の討議をつうじて、考古学の具体的な方法論と知識を身につけるとともに、発表と討論の作法を習得する。さらに、学部生は卒業論文に向けて自身の研究テーマを絞り、大学院生はみずからの研究をいっそう深化させてゆくことを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>考古資料や関連文献から情報をひきだし、具体的な方法論に即して考察を構築する手法を習得できるようになる。発表内容を理解したうえで、より高次の議論へと発展させるための討論の作法を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>年間を通じて、考古学に関する発表と討論の技術を磨いてゆく。 前期は、各自の問題意識と関心にあわせ、研究発表と課題論文の発表などを課す(参加人数に応じて後者を省略する場合もある)。後期は、受講者が各自の研究関心に沿ったテーマを設定し、それに関する研究報告と討論をおこなう。初回に受講人数に合わせて発表予定を組むので、万障繰りあわせて出席すること。 *昨年度来の混乱が収束しない場合、授業方式を非対面などに切り替える事態も起こりうる。変更時には可及的速やかに連絡をするので、受講生は授業関連の連絡をこまめにチェックすること。</p> <p>受講者数によって変動するが、おおむね以下のように進める予定である。</p> <p>【前期】 第1回 前期の授業計画の説明・報告順序の設定など 第2～15回 報告および討論</p> <p>【後期】 第1～15回 各自の研究テーマに関する報告および討論</p>											
【履修要件】											
<p>考古学の専門性がかなり高くなるので、考古学実習を履修したか、履修予定の学生であることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>発表内容・討議への参加度合い・レポートの出来栄などから総合的に評価する。発表者の無断欠席は、単位認定を放棄する行為とみなす。</p>											
----- 考古学(演習II)(2)へ続く -----											

考古学(演習II)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

与えられた課題をこなし、発表・レポート作成に結実させるべく、関連遺物・遺跡の積極的な観察・踏査をおこなうこと。また各自、博物館見学・現地説明会見学・資料調査・発掘調査に積極的に参加・関与することで、テーマの発見と考古学への知見を深められたい。

(その他(オフィスアワー等))

課題をクリアすべく、できるだけ多くの文献にあたり知識を深められたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系147

科目ナンバリング		U-LET27 37045 SJ38										
授業科目名 <英訳>		考古学(演習Ⅲ) Archaeology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫	文学研究科 准教授 下垣 仁志	文学研究科 准教授 千葉 豊		
配当 学年	4回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語	
題目		卒業論文指導										
[授業の概要・目的]												
卒業論文作成を目的とした研究に関する中間発表をおこない、教員や他の出席者からの批評を受け、よりよい論文の完成をめざす。各人が、研究の進捗状況にしたがって、段階的に成果を発表する。												
[到達目標]												
授業での中間発表およびそれに関する質疑応答をもとに、卒業論文を書き上げる。												
[授業計画と内容]												
5月の連休頃までに各自研究テーマを確定する。前期末までの発表では、そのテーマにかかわる研究史や問題点を整理し、夏休みを中心とした作業計画・研究計画を提示する。後期前半には、夏休み中におこなった資料収集成果やその分析成果の途中経過を整理・発表する。後期後半の報告では、論文目次案を提示した上で、研究成果を総括する。受講者数により日程は調整するが、おおむね以下の通りで進める予定である。												
前期												
第1回 ガイダンス												
第2～8回 研究テーマの検討												
第9～15回 第1回報告												
後期												
第1～7回 第2回報告												
第8～15回 第3回報告												
[履修要件]												
卒業論文の作成と提出が前提となる。 本演習とは別に、忘れずに卒業論文の登録をすること。												
[成績評価の方法・観点]												
演習時の発表内容によって評価する。												
[教科書]												
使用しない												
----- 考古学(演習Ⅲ)(2)へ続く -----												

考古学(演習Ⅲ)(2)

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

卒業論文を書き上げるために、できる限りの時間を用いて資料収集・遺物の実見と検討・分析などの作業を進めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーはとくに設けないが、卒業論文作成に関する相談は常時対応する。電話やメールなどで、教員のアポを取ること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET27 27050 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(講読) Archaeology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 富井 眞			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	水1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
【授業の概要・目的】											
<p>理論的な側面と自然科学的分析の側面で大きな成果をあげている、欧州の新石器文化についての概説書を主な対象とする。そして、欧州先史時代研究における考古資料等の認識と解釈の仕方に親しむ作業を通じ、当該文化期の実態に関する解釈、諸外国の考古学研究者との意見交換に備えるべく術語の用法、解釈の枠組みをめぐる理論的背景、を理解する。</p> <p>講義の基本的な枠組みは、テキストの輪読と、理論考古学等に関する小テスト。夏季学休期間の課題として、英語論文一本の全訳がある。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 欧州先史時代研究の現代的方向性を理解する。 ・ その理解をもとに、海外における古代の物質文化に対する理論的研究に親しみ、考古資料から過去の事象や社会や精神文化を探るのに有効ないくつかの方法について、自身の将来の研究に活かす可能性を意識する。 ・ 考古学の基礎的術語の英語表現を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 基本文献や辞書などを紹介し、授業の進め方について説明する。テキスト進行に先立つ第2回以降の英文書籍抜粋プリントを配布する。</p> <p>第2～6回 考古学の基本原理に関する英文書籍の抜粋プリントの精読 専門書たるテキストに先立ち、考古学の基本的な概念・方法に関する英語表現に慣れるために、考古学の概説書から部分抜粋した英文を読み進める。なお、進捗に応じて、回数に多少の前後は生じ得る。</p> <p>第7～29回 テキスト『Europe in the Neolithic』の精読 <その他(オフィス・アワー等)>に示した授業方法にしたがってテキストを精読していく。第20回前後までの前半期は、構文把握を重視した全文訳をする。後半期は、段落の要約を重視したうえで、論理構成を意識しながら、訳していく。</p> <p>第30回 フィードバック</p>											
----- 考古学(講読)(2)へ続く -----											

考古学(講読)(2)

[履修要件]

考古学の基礎的な概念や方法を理解していないと履修に困難を来すので、履修の前提として、考古学入門書を読破する程度の作業は済ませておくこと。

[成績評価の方法・観点]

総合評価。 学年末試験。 平常点評価（テキスト訳、術語解説、今回分及び翌週提出分の小テスト、夏季課題）。比重は、 60%で 40%。平常点は、到達目標の達成度に基づいて評価される。

欠席数によっては、夏季論文課題や学年末試験問題の量が多くなる。また、夏季課題未提出の場合には、学年末試験問題の量が多くなる。

なお、講義に関する内容で発言を求められた際に、「わかりません」という回答のように自身の見解を明示しない消極的姿勢は、平常点での大きな減点対象となる。

[教科書]

Alasdair Whittle 『Europe in the Neolithic: The Creation of New Worlds』（Cambridge University Press）
ISBN:0521449200

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・ 講義で読むところは予読を済ませておくこと。
- ・ 小テストの翌週提出では、内容の理解を反映して日本語として意味の通る訳文を完成させること。
- ・ 夏季学休期間の課題では、英語論文一本を全訳する。

（その他（オフィスアワー等））

テキストの読み進め方は、文章や段落ごとに和訳担当者を決める1人1段落方式を基本とするが、分量・内容に応じて数文単位になることもある。担当者の指名は講義当日におこなう。進行読量は、内容如何で変動幅が大きい。1日で5段落程度まで進むこともある。日本語訳だけでなく、内容的に理解できていることが大切なので、テキストの内容について下調べも必要になる。また、述語や重要事項などについて、適宜、調べ物作業を課すことがあるが、その際には、出席者分の資料を用意すること。

そのほか、読解力維持と＜授業の概要・目的＞の理解向上とを目的として、理論考古学や考古遺産などに関する小テストを、隔週程度の頻度でおこなう。小テストは、指定時間内は下線部訳のみだが、下線部を含めた全文訳を翌週までの課題とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系149

科目ナンバリング		U-LET27 27060 PJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(実習) Archaeology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 千葉 豊 文学研究科 助教 伊藤 淳史 文学研究科 教授 吉井 秀夫 文学研究科 助教 富井 眞 文学研究科 准教授 下垣 仁志			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火3,4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		考古学実習									
【授業の概要・目的】											
考古資料は基本的に唯一無二であるが、写真や実測図にもとづく叙述によって、研究者の間である程度までは資料を共有できる。本講義では、考古資料をおもに実測図で表現するテクニックを取得する。考古資料には土器・石器・金属器・瓦など各種あり、ものによって図法や表現法が微妙に異なる。できるだけ多くの資料を実測して、それらを身につけるのが授業の目的となる。											
【到達目標】											
さまざまな考古資料の実測図を作成するための基本的な技術を身につける さまざまな考古資料を適切に観察・記述できるようにする											
【授業計画と内容】											
前期 第1回 ガイダンス 第2～5回 須恵器 第6～8回 弥生土器 第9～10回 縄文土器施文法 第11～12回 縄文土器 第13～14回 野外測量 第15回 フィードバック 後期 第1回 レイアウト 第2回 トレース 第3～6回 金属器 第7～9回 石器 第10～13回 瓦 第14回 鏡 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
実測道具・製図道具の数や教室のスペースなどの関係で、受講可能な人数は15人までとする。											
----- 考古学(実習)(2)へ続く -----											

考古学(実習)(2)

[成績評価の方法・観点]

すべての授業に出席することを前提とし、授業の節目に提出した実測図とレポートにより評価する。

[教科書]

使用しない

実測作業の基本となる実測道具の一部は受講生の実費負担となる。

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

実習中に実測した遺物のレポート作成を通して、実習で学んだことを整理し、さらに関連文献を読むことにより、理解を深める。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーはとくに設けない。各課題を消化しないと次のステップに進めないので、時間外授業にも教員は対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容